

外国人との共生に関する意識調査（日本人対象）
報告書

令和6年3月

株式会社サーベイリサーチセンター

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査方法と回収状況	3
3. 調査項目	4
4. 調査結果を見る上での注意事項	4
第2章 アンケート調査結果	5
1. 回答者の属性	7
（1）性別	7
（2）年齢（14区分）	7
（3）職業	8
（4）最終学歴（※学生は在学）	8
（5）同居者（複数選択）	10
（6）末子の年齢（※同居者に子どものいる方）	10
2. あなたのことについて（外国の関わりと情報）	11
（1）学校以外での外国語の学習経験	11
（2）海外生活経験	14
（3）外国ルーツの有無	15
（4）「やさしい日本語」の認知有無	16
（5）主な情報収集媒体	19
3. 外国人との関わりについて	20
（1）外国人との付き合いの有無	20
（2）外国人との付き合いがない理由	23
（3）外国人との交流頻度	25
（4）地域社会に外国人が増えることに対する感情	28
（5）外国人が増加することについての考え	32
（6）外国人が困っていると思うこと	33
（7）働く外国人は増えたと思うか	36
（8）外国人労働者に求めるもの	39
（9）外国人と認識する点	42
4. 差別や偏見について	45
（1）外国人に対する偏見や差別の有無	45
（2）偏見や差別があると思う場面	48
（3）偏見や差別をなくすために必要と思う取組等	51
5. 外国人との共生社会について	54
（1）三つのビジョンについて	54

(2) 共生社会実現のため外国人にしてほしいこと	61
(3) 共生社会実現のため自分ができること	64
(4) 参加できる取組に対する考えと課題	67
(5) 外国人の受入れ環境整備	88
(6) 受入れ環境整備が進んでいないと思う部分	91
(7) 調査に対する意見（自由記述）	94
第3章 調査結果取りまとめ	103
1. 結果の取りまとめ	105
2. 「地域社会に外国人が増えることに対する感情」別	107
第4章 使用した調査票	117

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

日本が目指すべき共生社会のビジョンや共生社会の実現に向けた施策に関する日本人の理解、考え方の実態を把握し、今後必要とされる共生施策の企画・立案・実施に活用することを目的に実施した。

2. 調査方法と回収状況

調査対象者：全国の日本国籍を有する18歳以上の方

抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出

調査方法：郵送配布－郵送/We b併用回収

調査期間：令和5年10月17日（火）～11月30日（木）

<回収状況>

配布数：10,000票

有効配布数：9,900票（宛先不明戻りなど100票を除く）

有効回収数：4,424票（郵送回答：2,775票 | We b回答：1,649票）

有効回収率：44.7%（郵送回答：28.0% | We b回答：16.7%）

		標本数	有効回収数	(回収率)
全体		10,000	4,424	—
性別	男性	5,080	2,130	41.9
	女性	4,920	2,263	46.0
	その他*	—	14	—
年代14区分	18-19歳	196	47	24.0
	20-24歳	514	133	25.9
	25-29歳	620	183	29.5
	30-34歳	625	230	36.8
	35-39歳	730	280	38.4
	40-44歳	756	329	43.5
	45-49歳	911	405	44.5
	50-54歳	947	425	44.9
	55-59歳	792	389	49.1
	60-64歳	738	406	55.0
	65-69歳	747	398	53.3
	70-74歳	917	461	50.3
75-79歳	685	360	52.6	
80歳以上	822	357	43.4	

※調査票の性別は「男性・女性・その他」で聞いている。

※全体の有効回収数は性別、年齢それぞれの設問への無回答を含んだ数

3. 調査項目

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 回答者の属性 | 4. 外国人との共生社会 |
| 2. 外国人との関わり | 5. 自由記述 |
| 3. 偏見・差別 | |

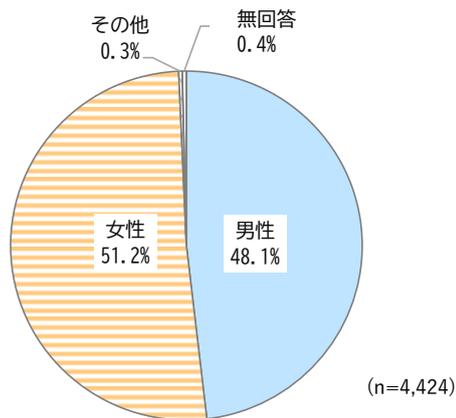
4. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（％）の計算は回答者数nを分母とし、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。従って、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・クロス集計表では、各区分の最大値と、最大値から2.0ポイント以内の値のものに網掛けの表示をしている。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 アンケート調査結果

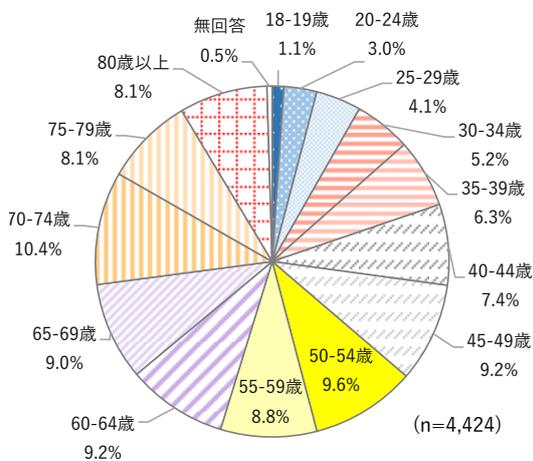
1. 回答者の属性

(1) 性別



	回答数	(%)
男性	2,130	48.1%
女性	2,263	51.2%
その他	14	0.3%
無回答	17	0.4%

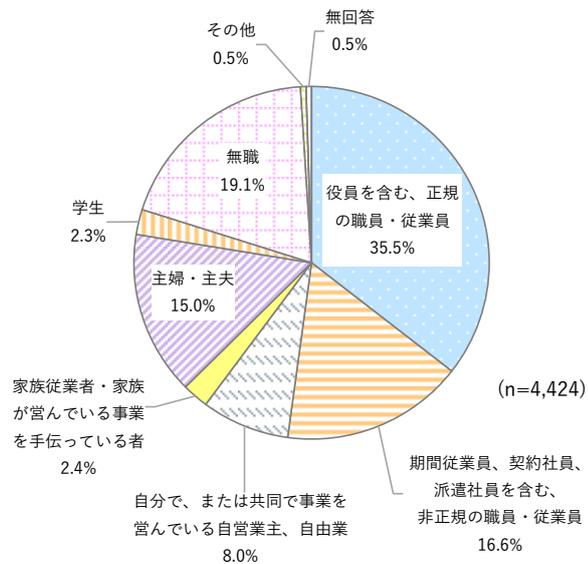
(2) 年齢 (14区分)



	回答数	(%)
18-19歳	47	1.1%
20-24歳	133	3.0%
25-29歳	183	4.1%
30-34歳	230	5.2%
35-39歳	280	6.3%
40-44歳	329	7.4%
45-49歳	405	9.2%
50-54歳	425	9.6%
55-59歳	389	8.8%
60-64歳	406	9.2%
65-69歳	398	9.0%
70-74歳	461	10.4%
75-79歳	360	8.1%
80歳以上	357	8.1%
無回答	21	0.5%

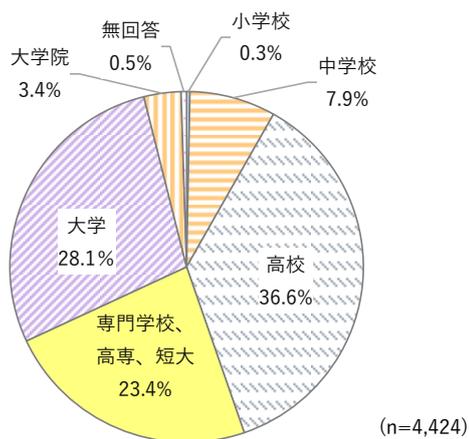
第2章 アンケート調査結果

(3) 職業



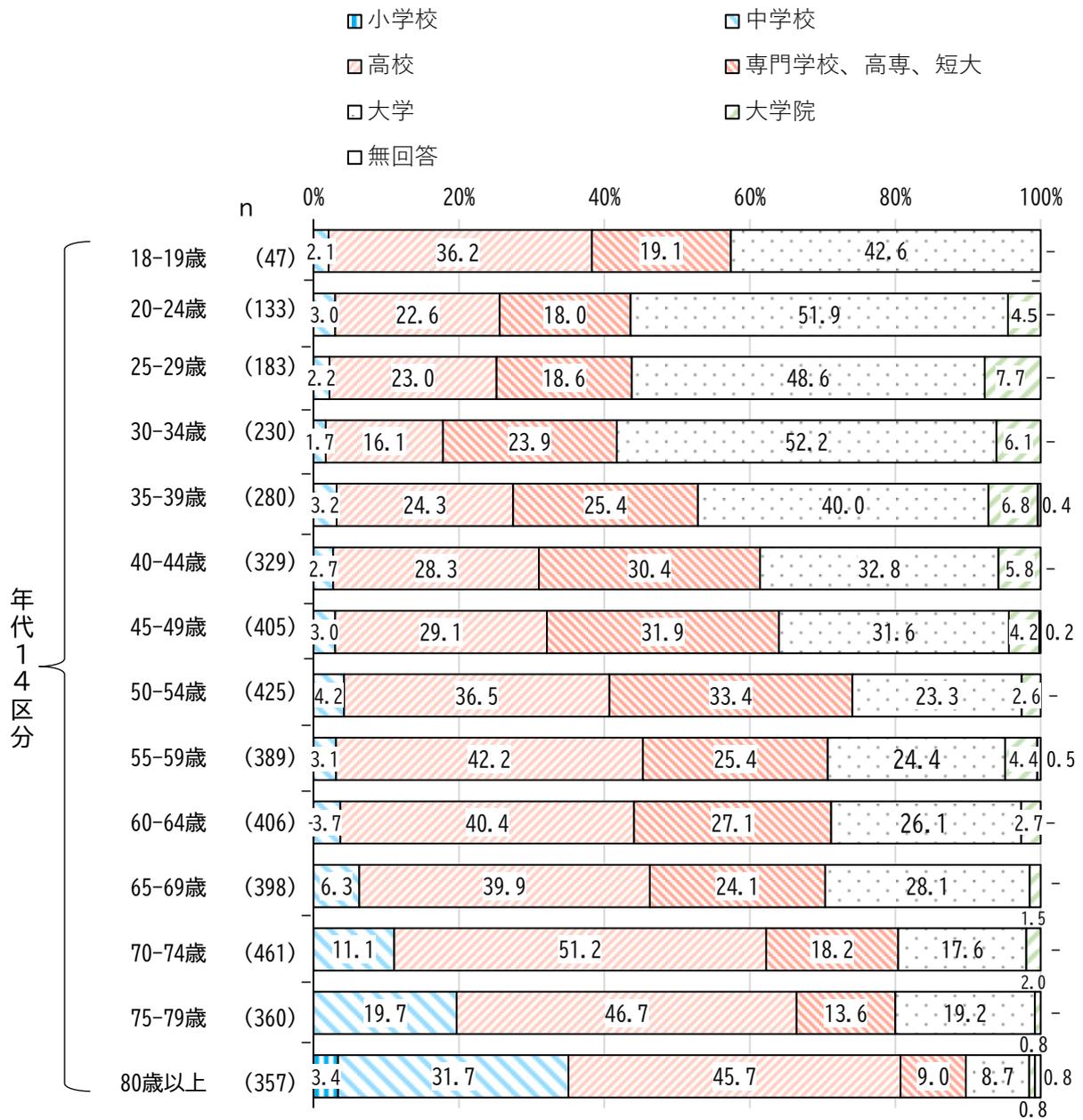
	回答数	(%)
役員を含む、正規の職員・従業員	1,571	35.5%
期間従業員、契約社員、派遣社員を含む、非正規の職員・従業員	735	16.6%
自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主、自由業	353	8.0%
家族従業者・家族が営んでいる事業を手伝っている者	108	2.4%
主婦・主夫	664	15.0%
学生	102	2.3%
無職	844	19.1%
その他	24	0.5%
無回答	23	0.5%

(4) 最終学歴 (※学生は在学期)

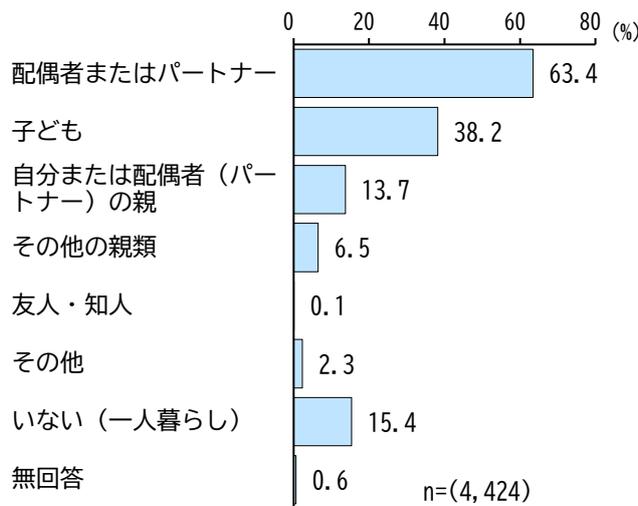


	回答数	(%)
小学校	12	0.3%
中学校	348	7.9%
高校	1,617	36.6%
専門学校、高専、短大	1,037	23.4%
大学	1,241	28.1%
大学院	149	3.4%
無回答	20	0.5%

【参考】最終学歴（年齢14区分別）

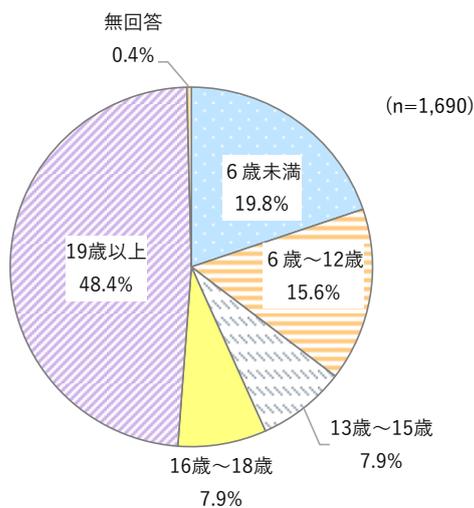


(5) 同居者（複数選択）



	回答数	(%)
配偶者またはパートナー	2,806	63.4%
子ども	1,690	38.2%
自分または配偶者（パートナー）の親	604	13.7%
その他の親類	287	6.5%
友人・知人	6	0.1%
その他	101	2.3%
いない（一人暮らし）	683	15.4%
無回答	28	0.6%

(6) 末子の年齢（※同居者に子どものいる方）

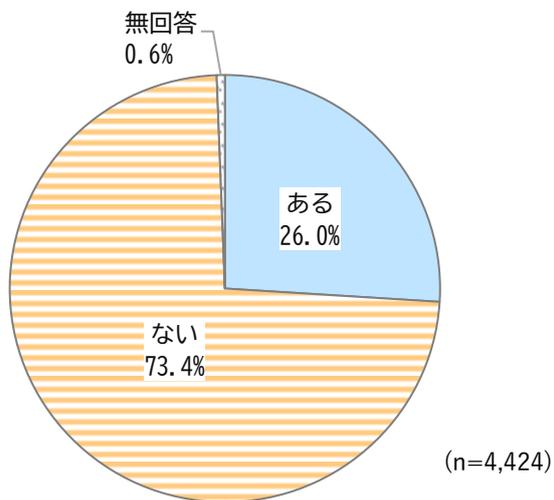


	回答数	(%)
6歳未満	335	19.8%
6歳～12歳	263	15.6%
13歳～15歳	134	7.9%
16歳～18歳	133	7.9%
19歳以上	818	48.4%
無回答	7	0.4%

2. あなたのことについて（外国の関わりと情報）

(1) 学校以外での外国語の学習経験

Q6 学校以外での外国語の学習経験はありますか。（1つ選択）

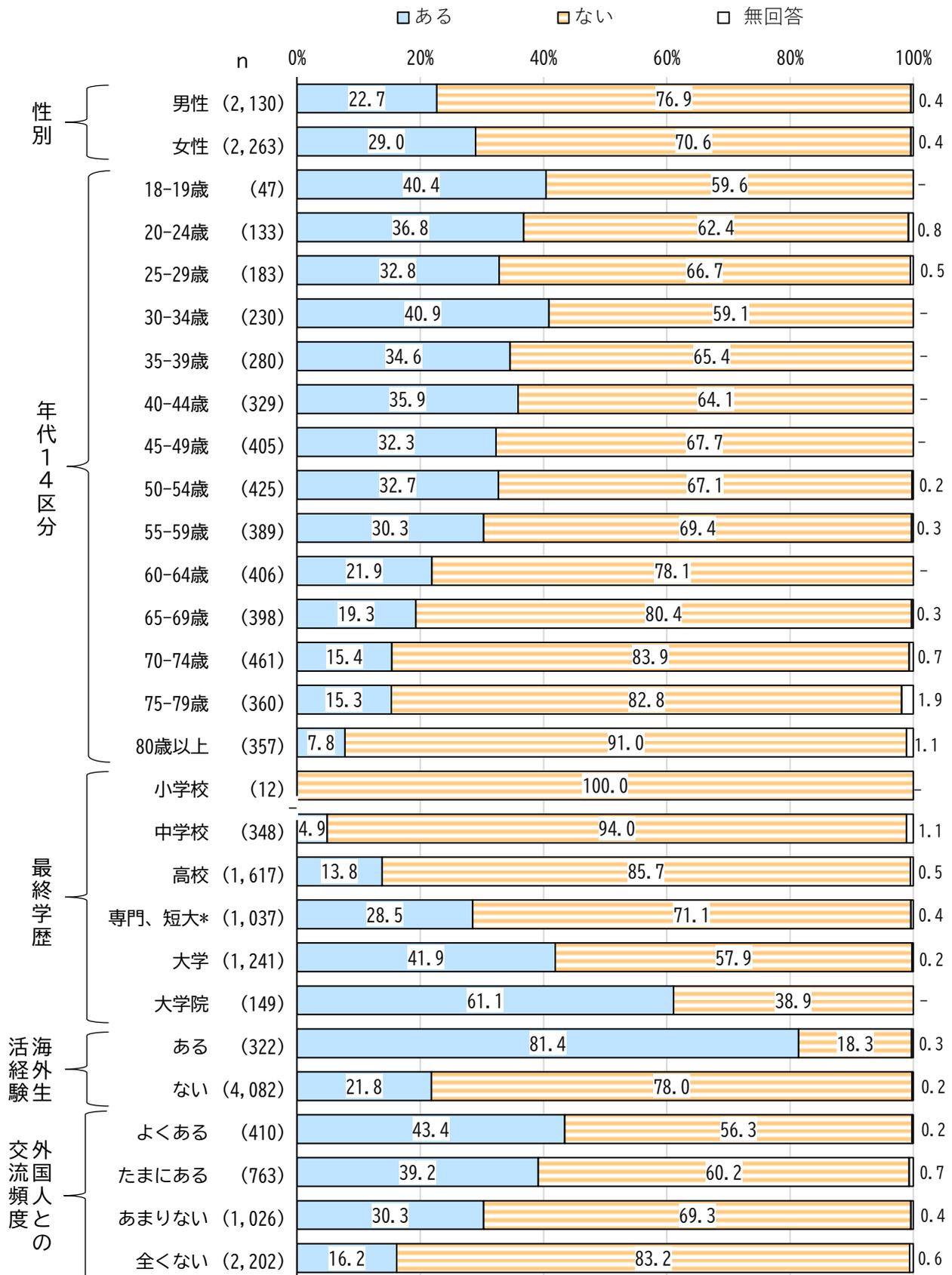


	回答数	(%)
ある	1,150	26.0%
ない	3,247	73.4%
無回答	27	0.6%

学校以外での外国語の学習経験が「ある」は26.0%、「ない」が73.4%となっている。

第2章 アンケート調査結果

学校以外での外国語の学習経験（クロス集計）



*専門学校、高専、短大

学校以外での外国語の学習経験を性別にみると、「ある」は女性が29.0%と、男性よりやや高くなっている。

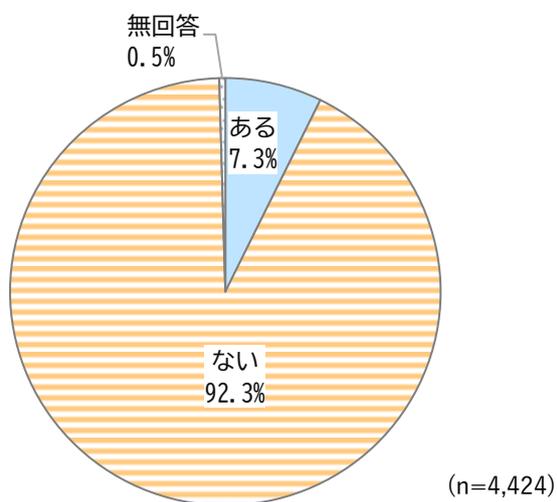
年代別にみると、18-19歳で「ある」が40.4%、30-34歳で40.9%と高く、59歳以下の全ての年代で「ある」が3割を超えている。

最終学歴別にみると、「ある」は最終学歴が上がるほど、高くなっており、大学院で61.1%、大学で41.9%となっている。

海外生活経験がある人では、学校以外での外国語の学習経験が「ある」は81.4%となっている。

(2) 海外生活経験

Q7 あなたはこれまで海外での生活経験（連続して3か月以上）がありますか。
（1つ選択）

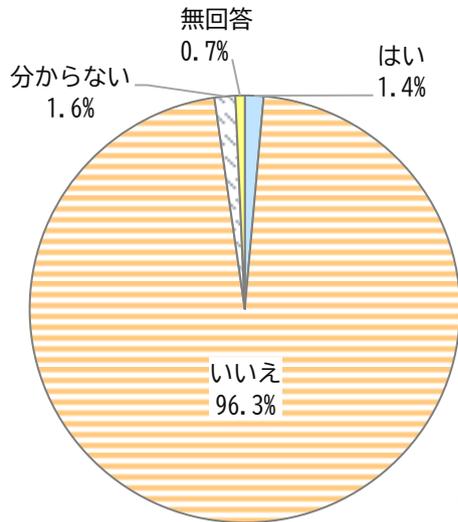


	回答数	(%)
ある	322	7.3%
ない	4,082	92.3%
無回答	20	0.5%

これまで海外で連続して3か月以上の生活経験が「ある」は7.3%、「ない」が92.3%となっている。

(3) 外国ルーツの有無

Q8 あなたは外国にルーツを持つ方に該当※しますか。(1つ選択)
 ※祖父母、父母、自分自身のいずれかが、海外出身の方



	回答数	(%)
はい	62	1.4%
いいえ	4,262	96.3%
分からない	69	1.6%
無回答	31	0.7%

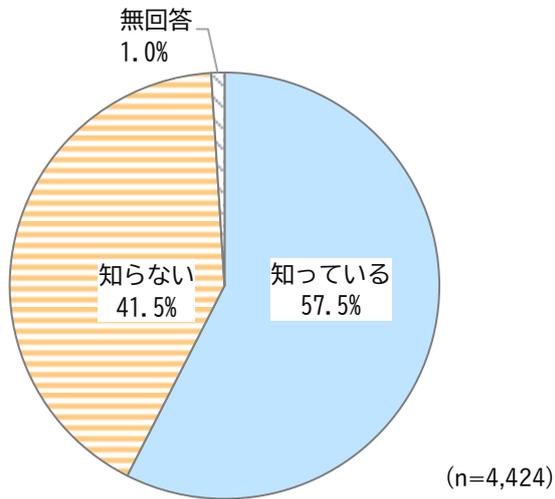
外国にルーツを持っているか聞いたところ、「いいえ」が96.3%、「はい」は1.4%であった。

(4) 「やさしい日本語」の認知有無

Q9 あなたは「やさしい日本語」※を知っていますか。(1つ選択)

※難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語のことです。

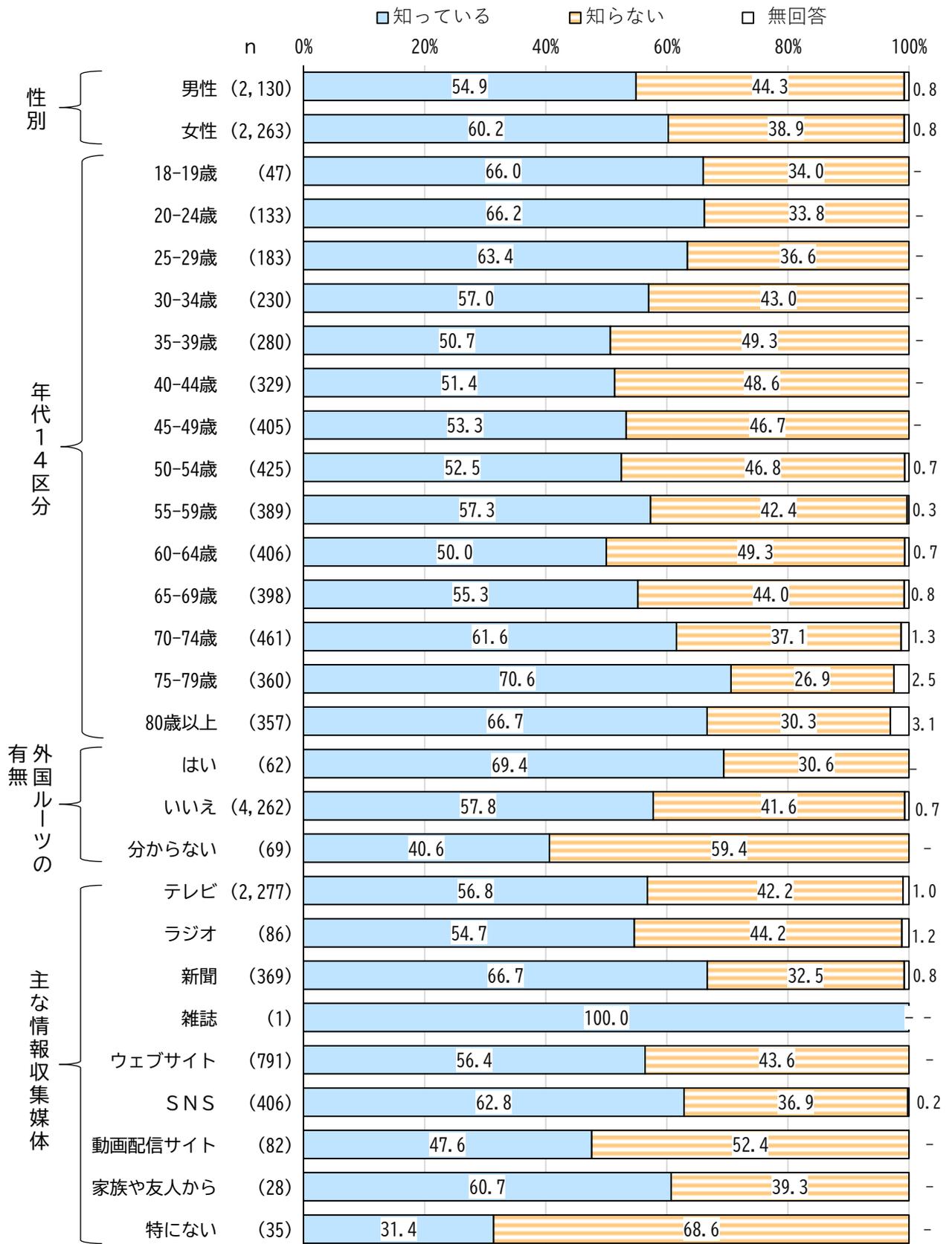
(例：高台へ避難して下さい→「高い場所へ逃げてください」)



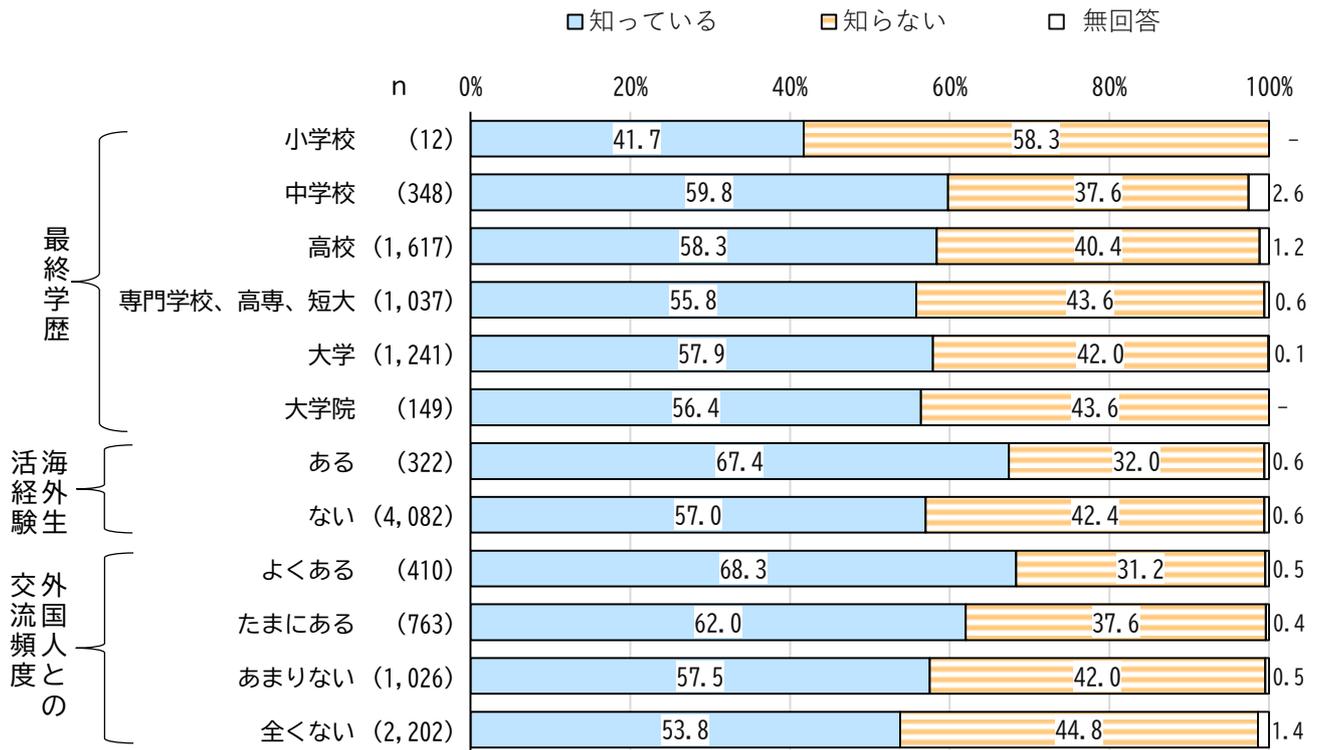
	回答数	(%)
知っている	2,543	57.5%
知らない	1,837	41.5%
無回答	44	1.0%

「やさしい日本語」を「知っている」は57.5%、「知らない」は41.5%となっている。

「やさしい日本語」の認知有無（クロス集計）



第2章 アンケート調査結果



「やさしい日本語」の認知有無を性別にみると、「知っている」は女性が60.2%と、男性よりやや高くなっている。

年代別にみると、75-79歳で「知っている」が70.6%、80歳以上で66.7%と高い。一方、30~69歳の年代では「知っている」が5割台となっている。

外国ルーツの有無別にみると、外国にルーツがある人の方が、「知っている」が高くなっている。主な情報収集媒体別にみると、新聞、SNS、家族や友人からでは「知っている」が6割台となっている。

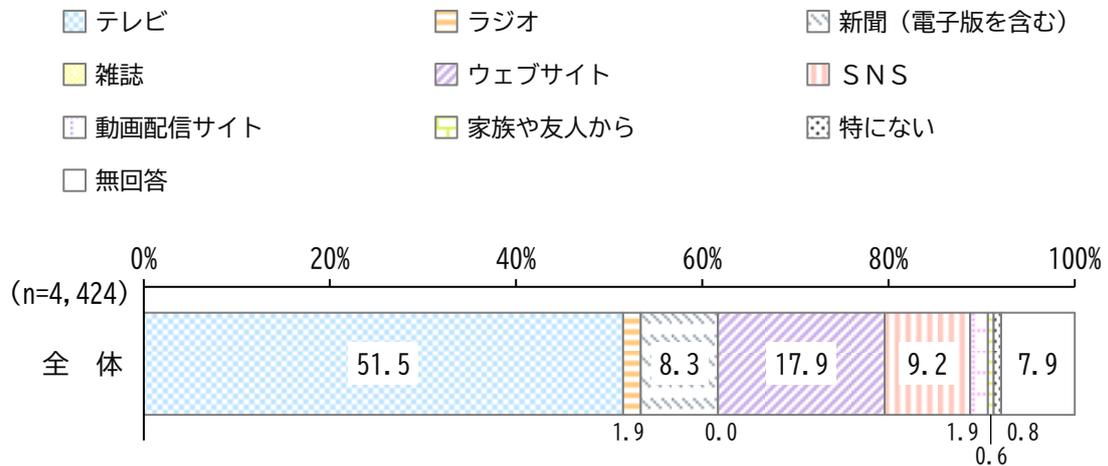
最終学歴別にみると、「知っている」は中学校以上で5割台となっている。

海外生活経験別にみると、「知っている」は海外生活経験のある人が67.4%となっている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高いほど、「知っている」が高くなる傾向がみられる。

(5) 主な情報収集媒体

Q10 あなたは普段ニュースなどの情報を何から得ていますか。
(最も利用しているもの1つを選択)



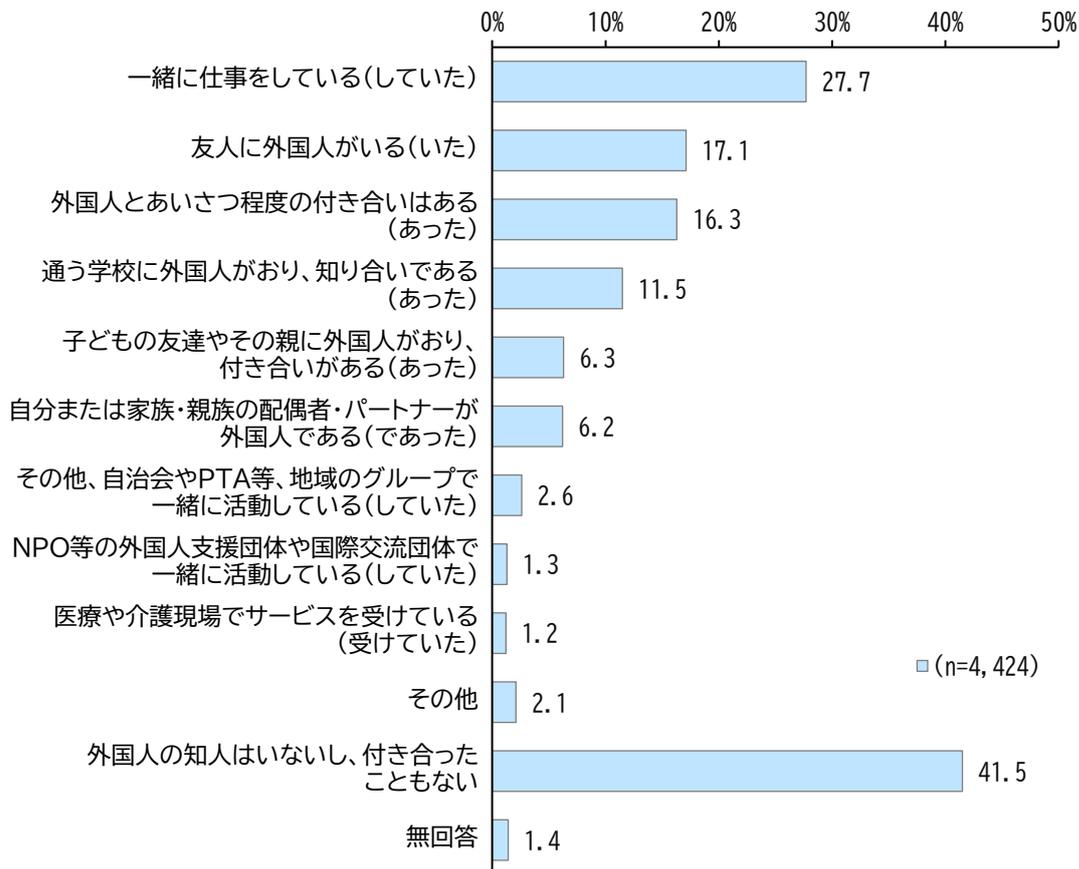
	回答数	構成比
テレビ	2,277	51.5%
ラジオ	86	1.9%
新聞 (電子版を含む)	369	8.3%
雑誌	1	0.0%
ウェブサイト	791	17.9%
SNS	406	9.2%
動画配信サイト	82	1.9%
家族や友人から	28	0.6%
特にない	35	0.8%
無回答	349	7.9%

普段ニュースなどの情報を得ている媒体は、「テレビ」が51.5%と半数を超えて最も多く、これに「ウェブサイト」が17.9%が続いている。

3. 外国人との関わりについて

(1) 外国人との付き合いの有無

Q11 あなたは普段の生活で外国人との付き合いがあります（ありました）か。
 （過去の経験も含め、あてはまるもの全てを選択）



外国人との付き合いの有無は、「外国人の知人はいないし、付き合い合ったこともない」が41.5%と最も高い。付き合いがある人の中では、「一緒に仕事をしている（していた）」が27.7%、「友人に外国人がいる（いた）」（17.1%）、「外国人とあいさつ程度の付き合いはある（あった）」（16.3%）、「通う学校に外国人がおり、知り合いである（あった）」（11.5%）が1割台となっている。

外国人との付き合いの有無（クロス集計）

単位：%

		n	一緒に仕事をしている（していた）	通う学校に外国人がおり、知り合いである（あつた）	友人に外国人がいる（いた）	自分または家族・親族の配偶者・パートナーが外国人である（であつた）	子どもの友達やその親に外国人がおり、付き合いがある（あつた）	NPO等の外国人支援団体や国際交流団体と一緒に活動している（していた）	その他、自治会やPTA等、地域のグループと一緒に活動している（していた）	外国人とあいさつ程度の付き合いはある（あつた）	医療や介護現場でサービスを受けている（受けていた）	その他	外国人の知人はいないし、付き合い合ったこともない	無回答
全体		4,424	27.7	11.5	17.1	6.2	6.3	1.3	2.6	16.3	1.2	2.1	41.5	1.4
性別	男性	2,130	32.3	10.5	16.9	6.0	3.8	1.0	1.7	15.3	0.9	1.3	42.7	0.8
	女性	2,263	23.4	12.3	17.4	6.5	8.7	1.5	3.4	17.5	1.5	2.8	40.4	2.0
年代14区分	18-19歳	47	6.4	42.6	21.3	4.3	-	2.1	2.1	4.3	-	-	40.4	-
	20-24歳	133	29.3	36.8	27.8	7.5	2.3	3.0	0.8	18.8	0.8	1.5	27.8	-
	25-29歳	183	31.7	34.4	24.6	7.1	3.3	0.5	1.1	18.0	1.1	2.2	24.0	-
	30-34歳	230	40.9	27.8	31.3	6.1	5.2	1.3	1.3	17.4	2.2	1.7	28.3	-
	35-39歳	280	39.6	18.2	21.8	6.1	6.4	1.4	2.5	11.8	1.4	1.1	33.6	-
	40-44歳	329	36.5	12.5	21.3	8.5	10.0	1.8	3.6	19.1	1.2	2.7	29.8	0.6
	45-49歳	405	37.0	12.8	17.3	6.4	10.4	1.7	3.2	15.6	1.5	3.2	35.6	-
	50-54歳	425	36.0	11.3	20.0	5.9	9.6	1.6	3.3	21.9	1.4	2.6	32.9	-
	55-59歳	389	35.7	10.0	18.3	6.2	7.7	1.0	1.8	17.7	1.3	1.5	35.2	1.3
	60-64歳	406	27.3	6.7	15.3	5.2	6.9	1.7	4.2	17.7	1.0	2.0	42.4	1.5
	65-69歳	398	21.4	5.0	11.1	9.3	4.5	0.8	2.3	16.1	1.3	3.0	46.7	1.0
	70-74歳	461	17.4	3.5	13.4	7.2	4.1	1.1	2.8	14.1	0.7	2.2	55.3	2.6
	75-79歳	360	15.0	2.2	11.1	3.9	4.4	1.1	1.9	16.9	0.8	1.9	51.7	5.8
80歳以上	357	6.7	2.5	6.7	3.4	3.6	0.6	2.2	10.1	1.4	0.6	70.3	3.4	
最終学歴	小学校	12	8.3	-	-	-	-	-	-	8.3	-	-	83.3	-
	中学校	348	18.7	2.0	6.0	3.7	2.9	-	1.7	8.9	1.1	1.7	59.8	4.9
	高校	1,617	24.7	4.3	11.3	5.6	5.1	0.5	2.2	15.4	0.6	1.4	49.0	1.7
	専門、短大*	1,037	23.7	10.7	16.3	6.5	8.7	1.4	3.2	17.9	1.6	2.8	40.9	1.1
	大学	1,241	34.5	21.0	25.7	7.7	7.2	2.3	2.5	17.9	1.2	2.3	30.1	0.5
	大学院	149	55.0	38.3	41.6	6.0	6.0	4.7	6.0	20.8	4.7	2.0	11.4	-
海外経験	ある	322	57.5	37.3	62.4	14.9	12.4	6.5	3.1	29.2	2.2	2.2	4.7	0.3
	ない	4,082	25.4	9.5	13.6	5.6	5.9	0.9	2.5	15.2	1.1	2.1	44.4	1.5
外国人との交流頻度	よくある	410	72.9	25.4	44.6	16.6	12.0	3.9	3.7	23.7	1.2	3.2	1.7	-
	たまにある	763	44.4	20.8	32.5	8.9	11.7	1.8	5.1	27.9	2.1	2.2	10.4	0.3
	あまりない	1,026	31.7	13.8	19.3	7.6	8.1	1.5	4.2	25.6	2.3	3.3	20.6	0.8
	全くない	2,202	11.5	4.6	5.4	2.8	2.5	0.5	0.8	6.6	0.3	1.4	69.8	2.2

*専門学校、高専、短大 ※濃い網掛けは、各区分の最大値と最大値から2.0ポイント以内の値（その他を除く）

第2章 アンケート調査結果

外国人との付き合いの有無を性別にみると、「一緒に仕事をしている（していた）」は男性が32.3%と、女性より高くなっている。

年代別にみると、18歳から29歳では「通う学校に外国人がおり、知り合いである（あった）」が最も高く、30歳から59歳では「一緒に仕事をしている（していた）」が最も高い。一方、60歳以上では「外国人の知人はいないし、付き合ったこともない」が最も高くなっている。また、他の年代に比べて、30-34歳では「一緒に仕事をしている（していた）」（40.9%）と「友人に外国人がいる（いた）」（31.3%）が高くなっている。

最終学歴（在学中含む）別にみると、最終学歴が上がるほど「一緒に仕事をしている（していた）」は高くなる傾向があり、大学院で55.0%、大学で34.5%となっており、それぞれ最も高い。

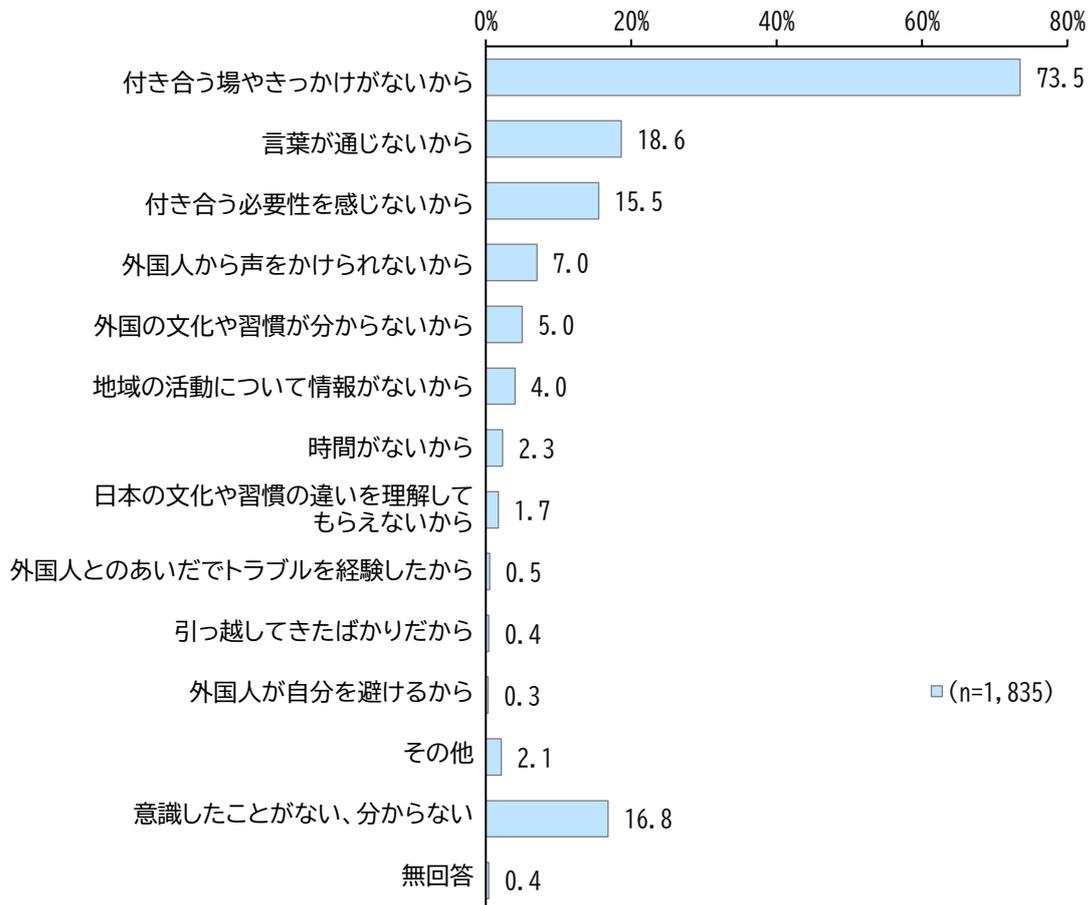
海外生活経験別にみると、海外生活経験が“ある”と回答した人は「友人に外国人がいる（いた）」が62.4%で最も高くなっている。

外国人との交流頻度別にみると、“全くない”を除き、「一緒に仕事をしている（していた）」が最も高くなっている。

(2) 外国人との付き合いがない理由

【Q11で「外国人の知人はいないし、付き合いしたこともない」を選択された方】

Q11-1 あなたが普段の生活で外国人との付き合いがない理由は次のうちどれですか。
(あてはまるもの全てを選択)



外国人との付き合いがない理由は、「意識したことがない、分からない」(16.8%)を除くと「付き合う場やきっかけがないから」が73.5%と特に高く、以下、「言葉が通じないから」(18.6%)、「付き合う必要性を感じないから」(15.5%)が1割台で続いている。

第2章 アンケート調査結果

外国人との付き合いがない理由（クロス集計）

単位：%

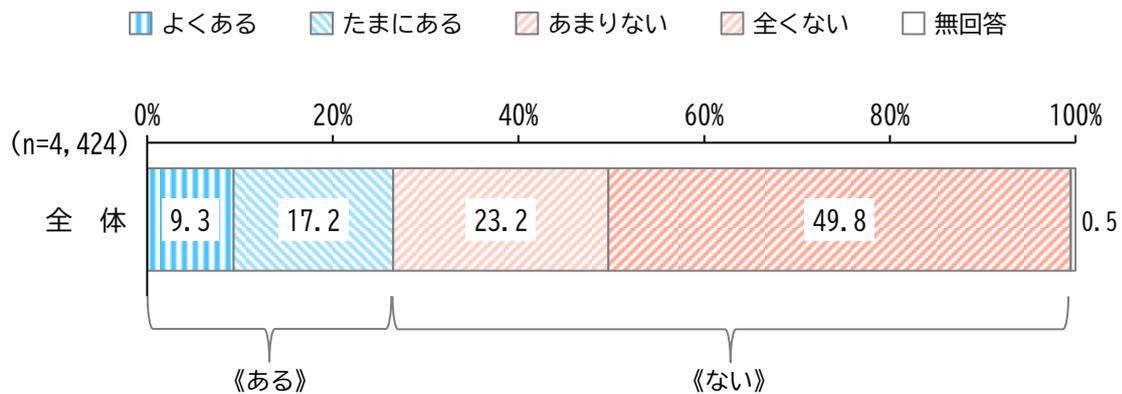
		n	言葉が通じないから	外国の文化や習慣が分からないから	日本の文化や習慣の違いを理解してもらえないから	時間がないから	付き合う場やきっかけがないから	地域の活動について情報がな	付き合う必要性を感じないから	外国人から声をかけられないから	外国人が自分を避けるから	引越してきたばかりだから	外国人とのあいだでトラブルを経験したから	その他	意識したことがない、分からない	無回答
全体		1,835	18.6	5.0	1.7	2.3	73.5	4.0	15.5	7.0	0.3	0.4	0.5	2.1	16.8	0.4
性別	男性	909	20.6	4.6	1.5	2.1	70.8	4.4	17.6	8.3	0.2	0.3	0.8	1.8	18.5	0.2
	女性	914	16.7	5.3	1.9	2.5	75.9	3.5	13.5	5.9	0.3	0.4	0.3	2.3	15.2	0.5
年代14区分	18-19 歳	19	5.3	-	-	-	84.2	5.3	5.3	5.3	-	-	-	-	10.5	-
	20-24 歳	37	18.9	10.8	2.7	2.7	70.3	5.4	8.1	2.7	-	2.7	-	-	21.6	2.7
	25-29 歳	44	9.1	2.3	-	2.3	70.5	2.3	9.1	9.1	-	4.5	-	-	18.2	-
	30-34 歳	65	13.8	3.1	1.5	1.5	72.3	1.5	6.2	6.2	-	1.5	-	3.1	18.5	-
	35-39 歳	94	21.3	3.2	2.1	2.1	75.5	3.2	7.4	9.6	-	-	-	3.2	16.0	1.1
	40-44 歳	98	18.4	5.1	1.0	3.1	73.5	5.1	9.2	6.1	-	-	2.0	1.0	19.4	-
	45-49 歳	144	14.6	3.5	0.7	2.1	82.6	1.4	11.1	6.3	0.7	-	2.1	1.4	12.5	0.7
	50-54 歳	140	13.6	7.1	2.9	4.3	75.7	2.9	13.6	6.4	-	-	-	2.1	16.4	-
	55-59 歳	137	13.9	2.9	0.7	2.9	77.4	2.2	9.5	6.6	-	-	-	1.5	15.3	-
	60-64 歳	172	17.4	4.7	1.7	2.9	80.2	4.1	11.6	7.0	-	-	-	2.9	11.6	0.6
	65-69 歳	186	20.4	3.2	0.5	1.6	76.3	3.2	15.6	8.6	-	-	-	2.7	13.4	-
	70-74 歳	255	21.6	4.7	2.0	2.0	68.6	3.9	21.6	5.5	-	0.4	0.4	1.6	18.4	0.4
	75-79 歳	186	21.5	5.4	2.7	0.5	71.5	7.5	24.7	7.5	0.5	-	1.1	2.7	16.1	0.5
	80歳以上	251	23.9	8.4	2.4	2.8	63.7	5.6	23.1	8.4	1.2	0.8	0.8	2.4	23.5	0.4
最終学歴	小学校	10	40.0	20.0	20.0	10.0	50.0	30.0	20.0	30.0	20.0	-	-	10.0	40.0	-
	中学校	208	21.2	7.2	2.4	1.9	61.5	4.8	16.8	3.8	0.5	0.5	1.0	2.4	26.0	0.5
	高校	792	19.9	5.6	1.9	1.5	70.6	4.0	18.4	7.4	0.1	0.1	0.1	2.3	17.4	0.5
	専門、短大*	424	18.6	4.2	1.9	4.0	77.4	3.1	9.7	5.2	0.2	0.2	0.7	1.2	15.3	0.5
	大学	374	13.6	2.7	-	1.9	82.6	3.7	15.0	9.1	-	1.1	0.5	2.1	11.2	-
	大学院	17	23.5	5.9	-	5.9	64.7	-	23.5	11.8	-	-	11.8	-	23.5	-
海外生活経験	ある	15	26.7	6.7	-	-	73.3	13.3	33.3	-	-	-	-	6.7	6.7	6.7
	ない	1,814	18.5	4.9	1.7	2.3	73.4	3.9	15.4	7.1	0.3	0.4	0.6	2.0	16.9	0.3
外国人との交流頻度	よくある	7	-	-	-	-	71.4	-	-	-	-	-	-	-	28.6	-
	たまにある	79	15.2	5.1	1.3	3.8	77.2	5.1	13.9	2.5	1.3	-	2.5	-	16.5	-
	あまりない	211	18.5	3.3	3.3	1.9	71.6	4.3	8.5	5.7	0.5	0.9	0.9	1.9	18.0	0.5
	全くない	1,536	18.9	5.2	1.5	2.3	73.6	3.9	16.6	7.5	0.2	0.3	0.4	2.2	16.5	0.4

*専門学校、高専、短大 ※濃い網掛けは、各区分の最大値（その他、意識したことがない、分からないを除く）

外国人との付き合いがない理由は、性別、年代別、最終学歴別、海外生活経験別、外国人との交流頻度別いずれも「付き合う場やきっかけがないから」が最も高くなっている。

(3) 外国人との交流頻度

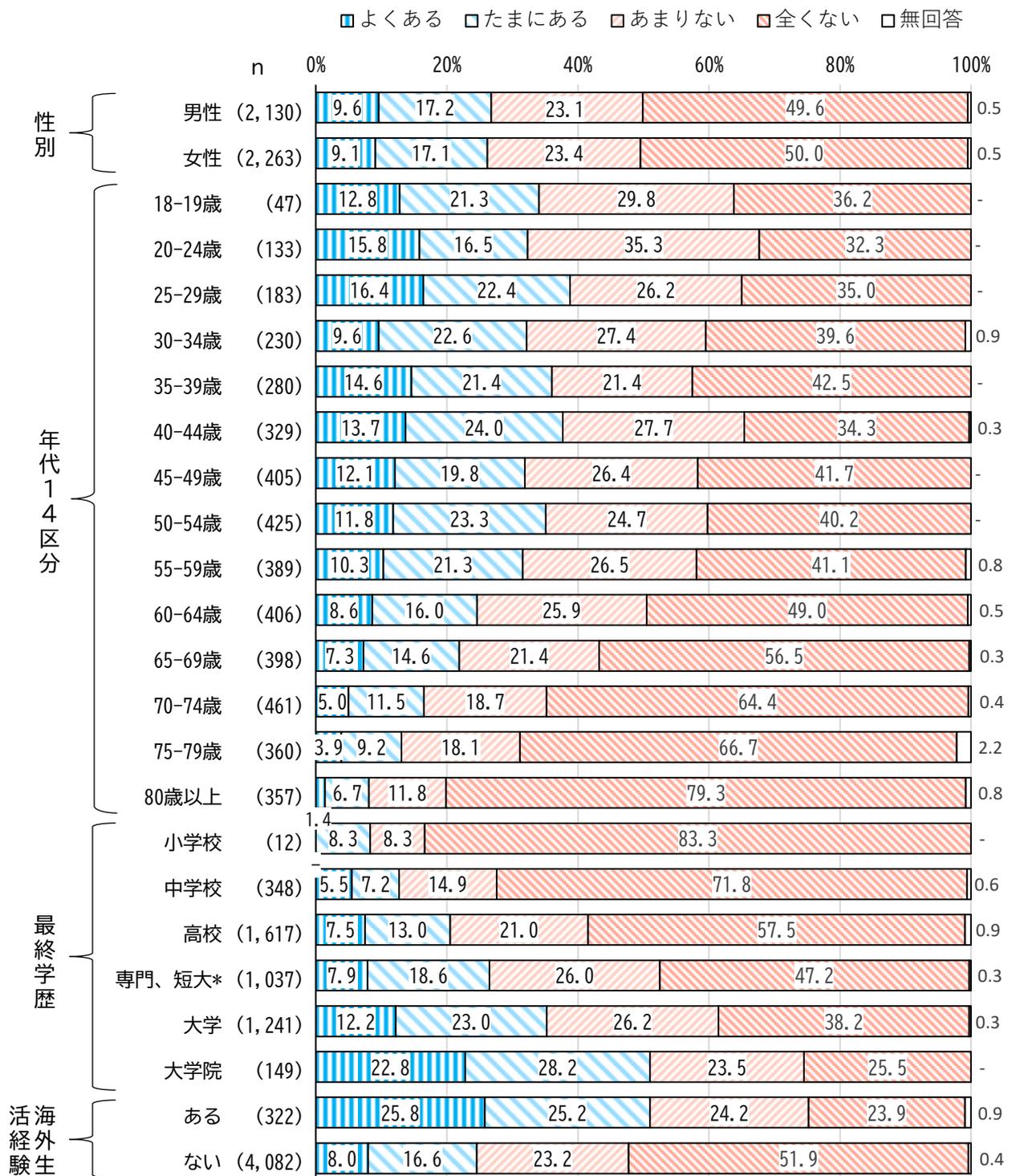
Q12 あなたは現在、普段の生活で外国人と交流する頻度はどのくらいありますか。
(1つ選択)



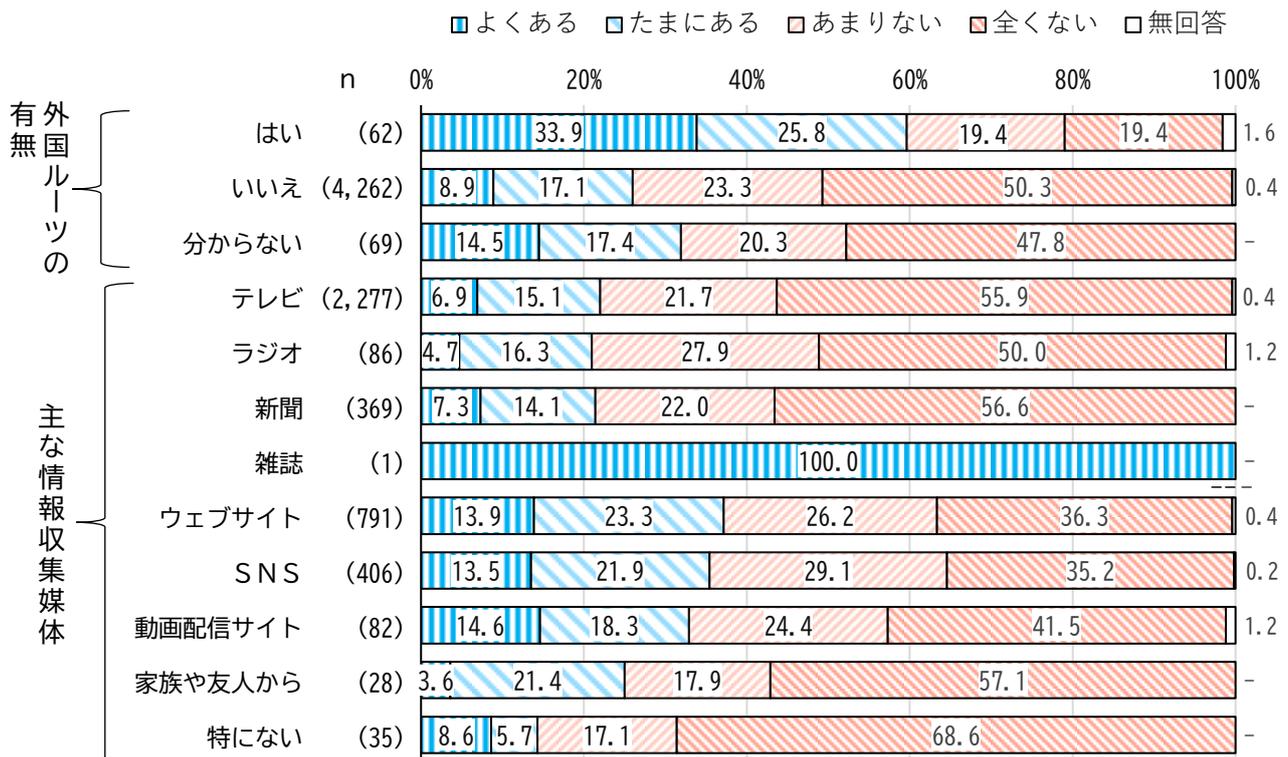
普段の生活で外国人と交流する頻度は、「よくある」は9.3%、「たまにある」は17.2%で、両者を合わせた《ある》は26.5%、一方、「あまりない」は23.2%、「ない」は49.8%で両者を合わせた《ない》は73.0%となっている。

第2章 アンケート調査結果

外国人との交流頻度（クロス集計）



*専門学校、高専、短大



普段の生活で外国人と交流する頻度では、年代別にみると、25-29歳では「よくある」「たまにある」を合計した《ある》は38.8%で最も高く、一方、50歳以上では「あまりない」「全くない」を合計した《ない》が年代が上がるにつれ増える傾向がみられる。

最終学歴別にみると、《ある》は最終学歴が上がるほど高くなり、大学院で51.0%と過半数を占めている。

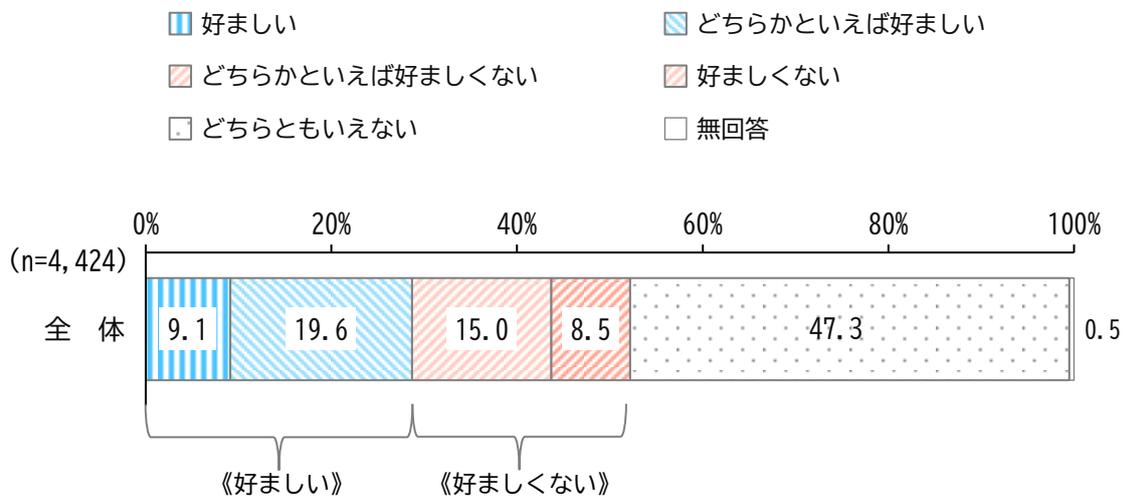
海外生活経験別にみると、海外生活経験が“ある”と回答した人は《ある》が51.0%と過半数を占めている。

外国ルーツの有無別にみると、外国にルーツを持つ人は《ある》が59.7%で、ルーツが無い人よりも高くなっている。

主な情報収集媒体別にみると、《ある》は、テレビ・ラジオ・新聞よりも、ウェブサイト・SNS・動画配信サイトの方が高くなっている。

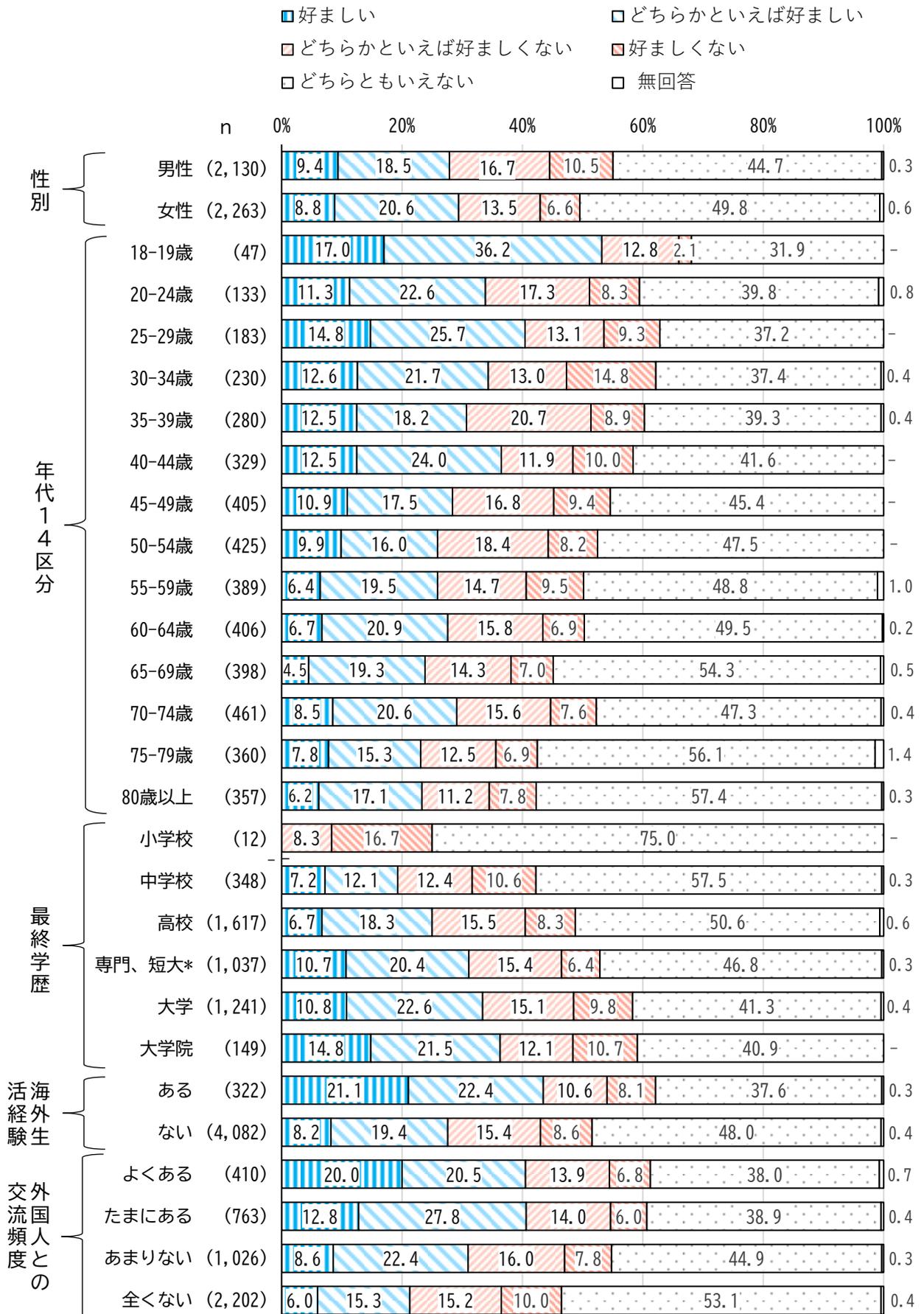
(4) 地域社会に外国人が増えることに対する感情

Q13 あなたのお住まいの地域に外国人が増えることについてどう思いますか。(1つ選択)



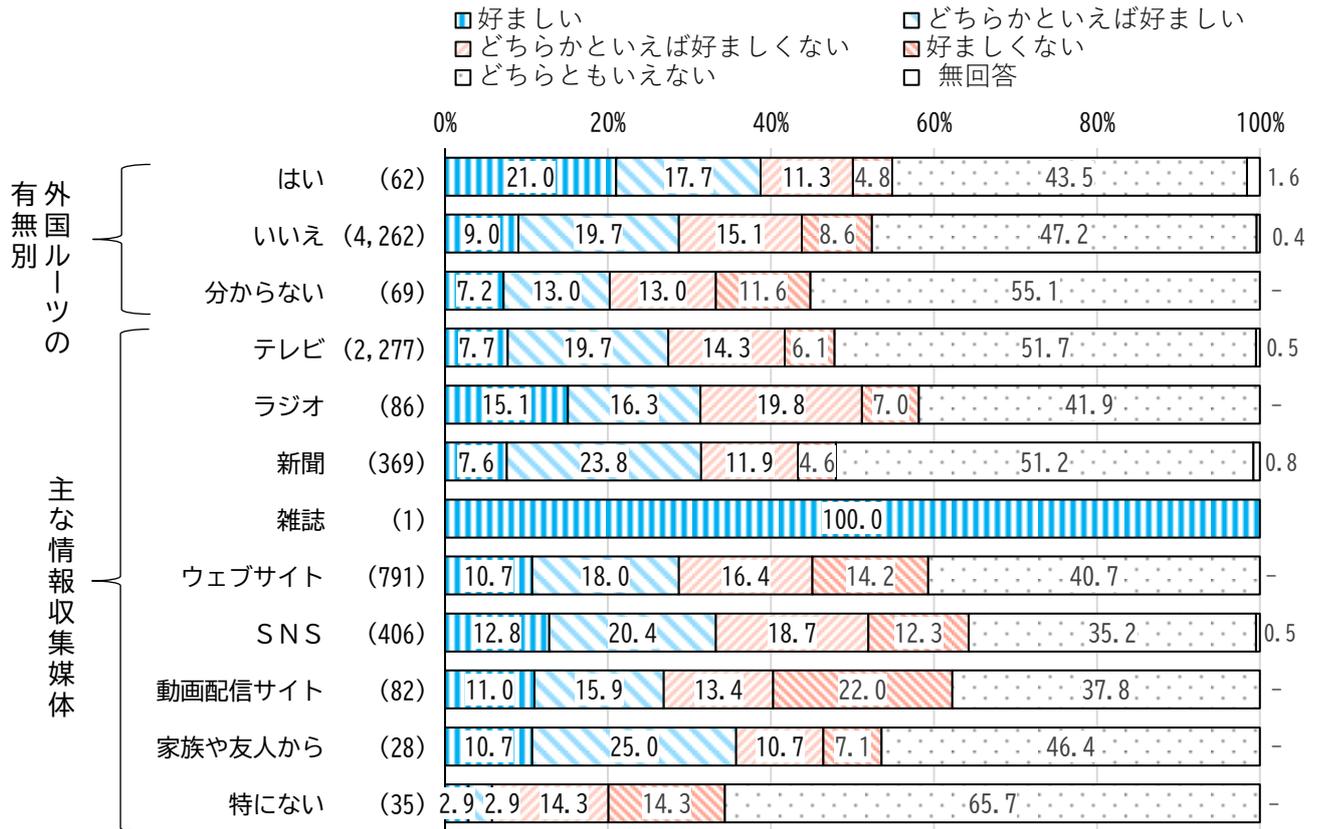
地域社会に外国人が増えることについては、「好き」が9.1%、「どちらかといえば好き」が19.6%で、両者を合わせた《好き》は28.7%、一方、「どちらかといえば好きじゃない」は15.0%、「好きじゃない」は8.5%で、両者を合わせた《好きじゃない》は23.5%となっている。また、「どちらともいえない」は47.3%と最も高くなっている。

地域社会に外国人が増えることに対する感情（クロス集計1）



*専門学校、高専、短大

第2章 アンケート調査結果



地域社会に外国人が増えることについては、年代別にみると18-19歳では「好ましい」「どちらかといえば好ましい」を合わせた《好ましい》が53.2%と全ての年代で最も高くなっている。次いで25-29歳で《好ましい》が40.5%となっている。一方、25歳以上では「どちらともいえない」が年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、65-69歳、75歳以上では「どちらともいえない」が過半数を占めている。

最終学歴別にみると、最終学歴が上がるほど《好ましい》が高くなり、専門学校、高専、短大以上で3割台となっている。

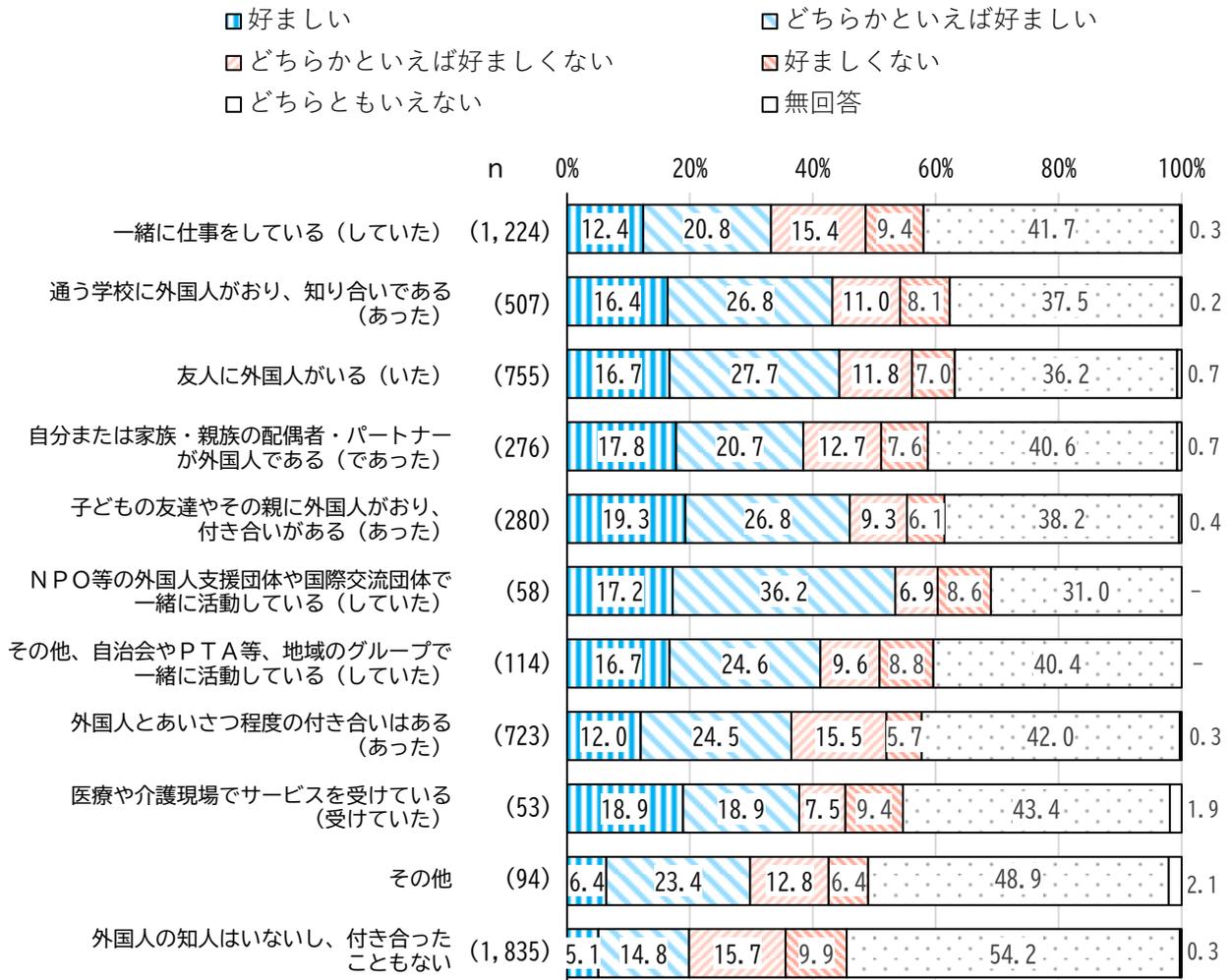
海外生活経験別にみると、海外生活経験が“ある”と回答した人は、特に「好ましい」が海外生活経験が無い人よりも12.9ポイント高くなっている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度の高い人ほど《好ましい》という傾向が見られる。

外国ルーツの有無別にみると、ルーツを持つ人の方が《好ましい》が高くなっている。

主な情報収集媒体別にみると、家族や友人からが《好ましい》が35.7%と他よりも高くなっている。

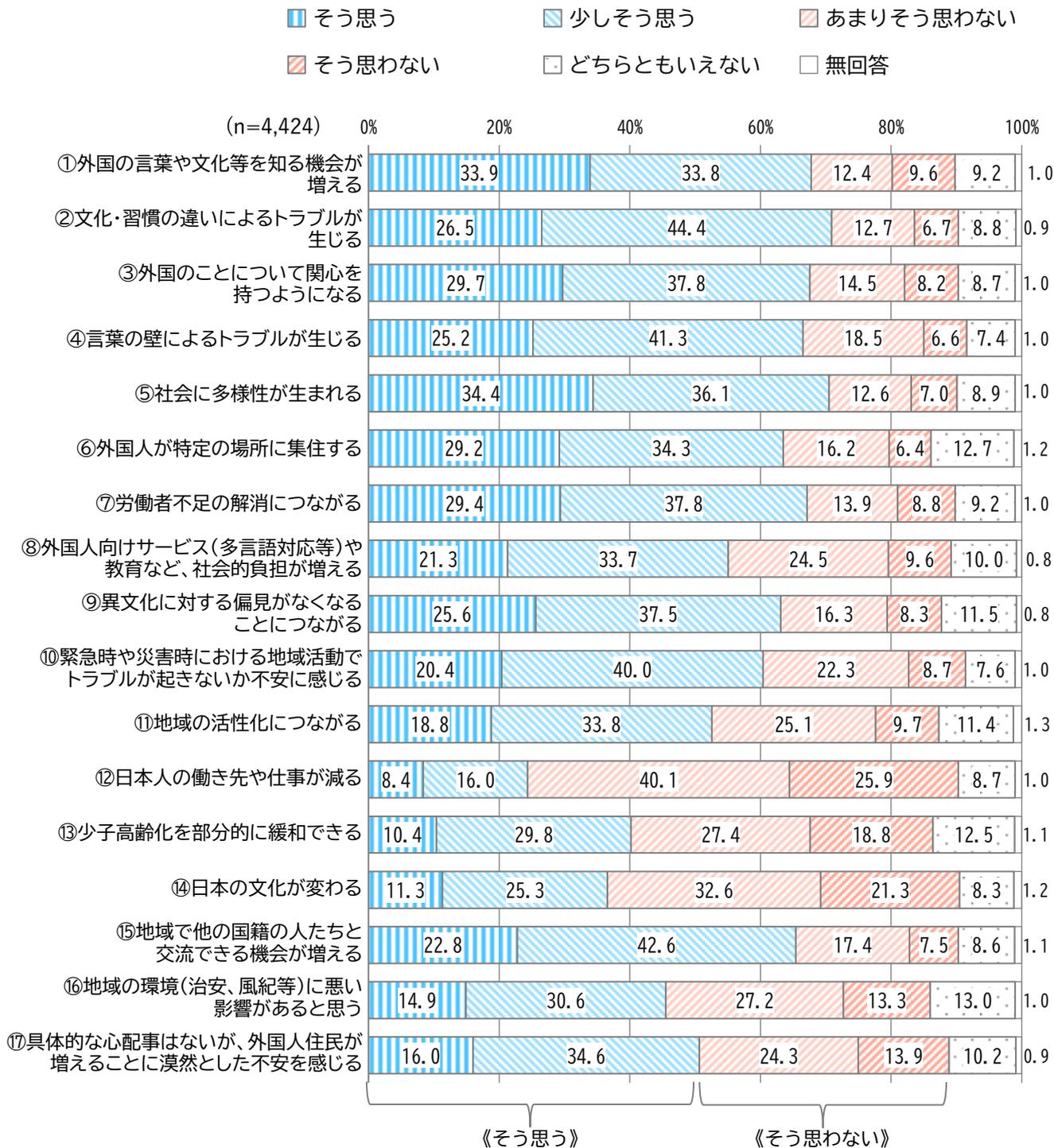
地域社会に外国人が増えることに対する感情（クロス集計2）



問11で聞いた外国人との付き合いの有無の各状況でみると、ほとんどの項目で《好き》が《好きくない》を上回っており、特に“NPO等の外国人支援団体や国際交流団体と一緒に活動している（していた）”は、《好き》（53.4%）が半数を超え、《好きくない》（15.5%）を37.9ポイント上回っている。“子どもの友達やその親に外国人がおり、付き合いがある（あった）”は《好き》が46.1%で《好きくない》（15.4%）を30.7ポイント上回っている。一方、“外国人の知人はいないし、付き合い合ったこともない”は唯一《好きくない》が《好き》を上回っている。

(5) 外国人が増加することについての考え

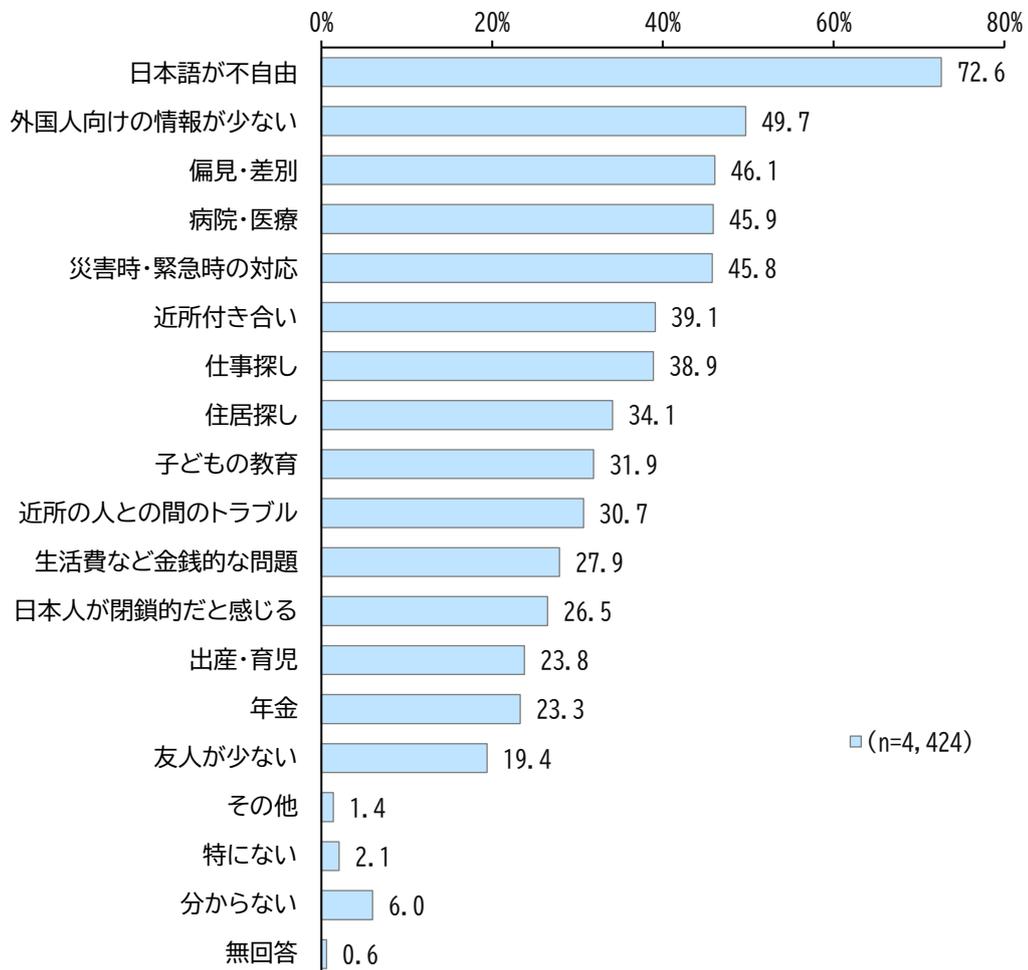
Q14 お住まいの地域に外国人が増えることへの影響について、どう思いますか。以下の考え
方それぞれについてお答えください。(それぞれ1つ選択)



外国人が増加することの考えについて聞いたところ、「そう思う」、「少しそう思う」を合わせた《そう思う》が多くの項目で高くなっているが、「⑫日本人の働き先や仕事が減る」「⑬少子高齢化を部分的に緩和できる」「⑭日本の文化が変わる」では《そう思わない》が高くなっている。

(6) 外国人が困っていると思うこと

Q15 あなたは、外国人にとって、生活で困っていること、不満なことは何だと思いますか。
(あてはまるもの全てを選択)



外国人にとって、生活で困っていること、不満なことは何だと思うか聞いたところ、「日本語が不自由」が72.6%で最も高く、以下、「外国人向けの情報が少ない」(49.7%)、「偏見・差別」(46.1%)、「病院・医療」(45.9%)、「災害時・緊急時の対応」(45.8%)が4割台で続いている。

第2章 アンケート調査結果

外国人が困っていると思うこと（クロス集計）

単位：%

		n	日本語が不自由	外国人向けの情報が少ない	住居探し	病院・医療	年金	出産・育児	子どもの教育	仕事探し	災害時・緊急時の対応	近所付き合い	友人が少ない	近所の人との間のトラブル	偏見・差別	日本人が閉鎖的だと感じる	生活費など金銭的な問題	その他	特にない	分からない	無回答
全体		4,424	72.6	49.7	34.1	45.9	23.3	23.8	31.9	38.9	45.8	39.1	19.4	30.7	46.1	26.5	27.9	1.4	2.1	6.0	0.6
性別	男性	2,130	74.1	48.5	34.9	43.7	23.2	22.3	32.0	40.2	41.4	41.0	20.8	32.9	46.0	27.4	28.2	1.8	2.3	5.4	0.7
	女性	2,263	71.2	50.7	33.3	48.0	23.3	25.2	31.9	37.6	50.0	37.3	18.0	28.4	46.2	25.5	27.6	1.1	2.1	6.5	0.5
年代14区分	18-19 歳	47	70.2	53.2	25.5	34.0	8.5	17.0	25.5	34.0	36.2	31.9	17.0	21.3	51.1	31.9	31.9	4.3	2.1	4.3	-
	20-24 歳	133	72.9	46.6	33.8	36.1	21.1	23.3	28.6	39.8	45.1	39.1	13.5	31.6	58.6	26.3	28.6	3.0	3.0	3.0	-
	25-29 歳	183	68.3	54.1	37.2	42.1	24.0	26.2	26.8	39.3	41.5	32.8	22.4	31.7	54.1	24.6	31.1	1.6	1.6	4.4	-
	30-34 歳	230	68.7	53.5	37.0	43.0	20.0	26.5	30.4	40.4	45.2	28.7	18.7	32.6	55.2	31.3	27.4	2.6	0.9	4.8	-
	35-39 歳	280	67.1	48.9	33.9	41.4	16.1	23.2	24.6	38.2	41.1	32.1	14.6	31.1	50.4	28.9	25.0	2.5	2.1	8.2	0.4
	40-44 歳	329	73.6	53.2	39.5	48.9	25.2	28.9	37.1	41.6	51.1	41.0	17.9	31.0	53.8	31.6	26.4	0.9	1.5	4.0	-
	45-49 歳	405	70.9	49.9	40.5	52.1	25.2	26.7	35.8	39.3	49.1	39.8	21.0	41.5	53.1	29.6	31.1	1.2	1.2	4.2	-
	50-54 歳	425	75.8	56.5	40.0	53.9	26.6	29.2	32.5	44.0	52.2	44.9	21.6	39.5	51.3	31.1	26.4	0.9	2.1	4.7	-
	55-59 歳	389	78.1	48.8	33.7	47.6	21.3	24.2	31.6	39.6	46.3	41.4	21.1	34.4	46.5	26.5	27.2	2.3	2.3	5.4	0.3
	60-64 歳	406	77.8	50.7	36.7	46.1	23.4	24.1	35.0	40.6	44.3	37.4	14.3	28.8	45.8	27.3	26.1	2.2	1.2	4.7	0.2
	65-69 歳	398	77.1	51.5	31.4	48.7	26.6	25.4	34.7	40.2	51.5	41.5	17.3	27.1	43.5	23.6	33.2	0.5	2.8	5.8	0.3
	70-74 歳	461	72.0	46.4	28.9	47.7	22.6	20.8	32.8	38.6	44.0	40.3	18.7	24.9	37.5	21.3	30.2	0.2	2.4	7.8	1.1
	75-79 歳	360	68.3	49.4	29.7	42.8	23.6	18.3	30.3	36.4	43.1	39.7	24.7	23.6	37.2	18.3	24.4	1.4	1.7	7.2	3.3
	80歳以上	357	68.3	37.3	24.1	35.0	24.4	15.4	27.5	28.6	37.3	40.1	22.7	21.8	29.7	24.6	24.6	1.1	4.8	10.9	1.4
最終学歴	小学校	12	58.3	41.7	33.3	33.3	25.0	25.0	41.7	41.7	33.3	58.3	33.3	16.7	16.7	16.7	50.0	-	-	16.7	-
	中学校	348	61.2	35.1	26.4	33.6	20.1	14.4	23.0	25.6	37.1	33.0	16.1	25.3	32.8	20.7	25.3	1.7	5.2	12.6	2.3
	高校	1,617	72.3	46.1	28.0	42.4	21.7	20.5	28.1	38.0	43.3	39.6	19.6	29.5	43.0	23.2	25.6	0.9	2.6	6.7	0.6
	専門、短大*	1,037	74.6	53.4	34.9	50.0	26.2	26.9	33.3	40.6	48.5	39.8	19.1	31.7	48.6	26.3	29.4	1.1	1.4	5.5	0.4
	大学	1,241	75.3	54.7	41.7	49.9	23.9	27.4	36.7	42.8	49.1	39.3	20.0	32.5	52.1	31.3	29.4	2.3	1.5	3.5	0.2
	大学院	149	69.8	56.4	49.7	53.0	24.2	32.2	43.0	37.6	49.7	39.6	21.5	33.6	47.0	36.9	33.6	2.0	0.7	3.4	1.3
海外経験	ある	322	77.0	61.8	47.8	65.2	28.0	38.2	45.3	46.6	58.7	40.1	24.8	35.7	56.8	40.1	32.6	4.3	0.6	1.9	0.6
	ない	4,082	72.3	48.7	33.0	44.3	22.9	22.7	30.8	38.3	44.8	38.9	18.9	30.2	45.3	25.4	27.4	1.2	2.3	6.3	0.6
外国人との交流頻度	よくある	410	76.6	53.9	42.0	49.3	27.8	28.5	35.4	43.7	49.3	42.0	24.6	32.2	53.7	31.0	31.0	4.4	1.5	2.9	1.0
	たまにある	763	72.5	52.6	38.0	49.4	22.5	26.7	34.2	38.9	48.9	38.0	20.3	32.5	51.2	31.1	27.5	1.7	1.6	3.8	0.1
	あまりない	1,026	75.1	55.8	36.1	50.6	23.6	25.9	34.0	40.7	50.0	39.7	20.2	35.0	48.3	30.2	29.7	1.7	1.2	3.4	0.4
	全くない	2,202	70.7	45.1	30.5	41.9	22.7	21.1	29.5	37.3	42.2	38.8	17.8	27.9	42.0	22.6	26.5	0.7	2.9	8.5	0.9

*専門学校、高専、短大 ※濃い網掛けは、各区分の最大値（その他、特にない、分からないを除く）

外国人にとって、生活で困っていることでは、性別、年代別、最終学歴別、海外生活経験別、外国人との交流頻度別のいずれも「日本語が不自由」が最も高くなっている。

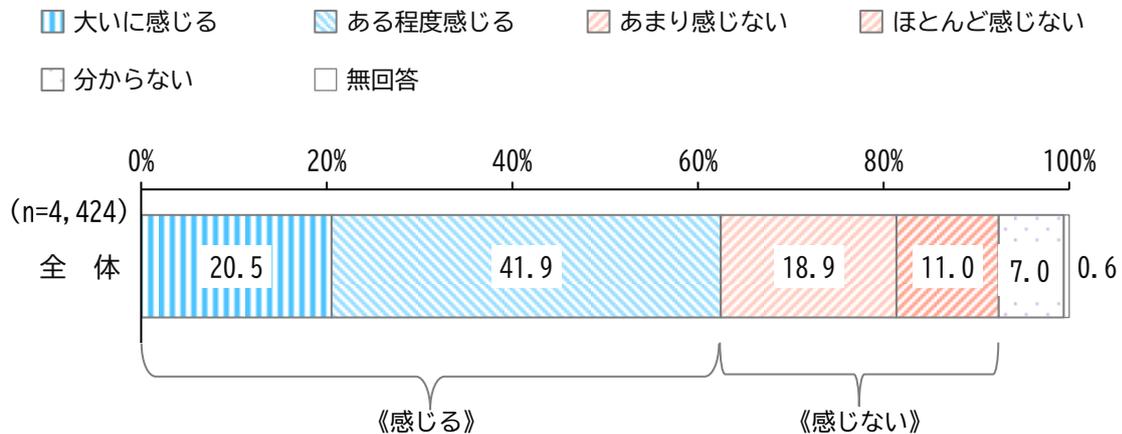
年代別にみると、他の年代と比べて50-54歳では、「外国人向けの情報が少ない」(56.5%)、「病院・医療」(53.9%)、「出産・育児」(29.2%)、「仕事探し」(44.0%)、「災害時・緊急時の対応」(52.2%)、「近所付き合い」(44.9%)が高くなっている。

海外生活経験別にみると、ある人となない人で特にポイント差が大きいものは「病院・医療」では20.9ポイント、「出産・育児」では15.5ポイント、「住居探し」では14.8ポイントとなっている。

外国人との交流頻度別にみると、“よくある”と“全くない”で、特にポイント差が大きいものは、「偏見・差別」が11.7ポイント、「住居探し」が11.5ポイントと、“よくある”の方が高くなっている。

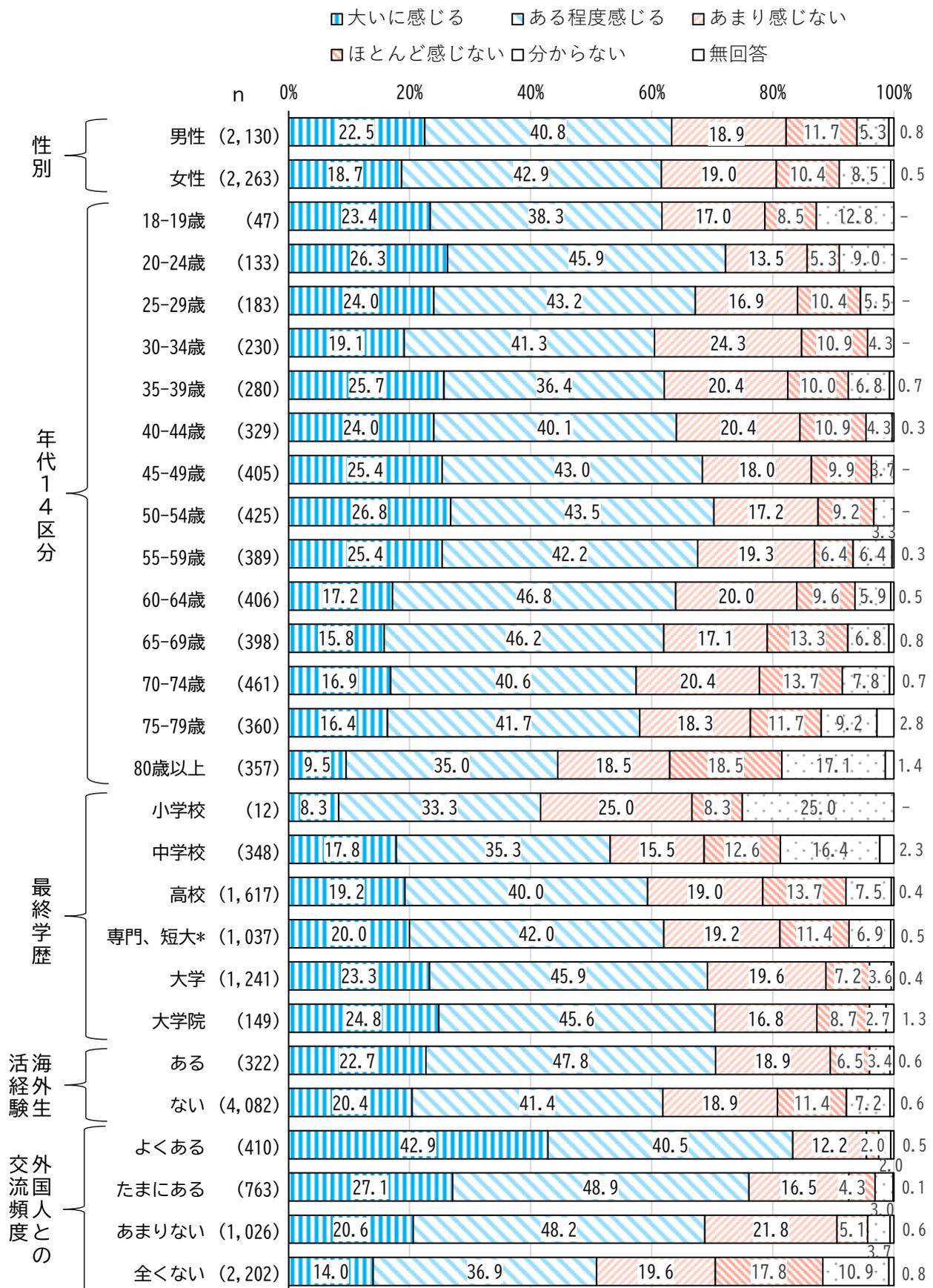
(7) 働く外国人は増えたと思うか

Q16 あなたは最近、身の回りに働いている外国人が増加してきていると感じますか。
(1つ選択)



最近、身の回りに働いている外国人が増加してきていることを「大いに感じる」は20.5%、「ある程度感じる」は41.9%で、両者を合わせた《感じる》は62.4%、一方、「あまり感じない」は18.9%、「ほとんど感じない」は11.0%で、両者を合わせた《感じない》は29.9%となっており、増えてきていると感じている人が多い。

働く外国人は増えたと思うか (クロス集計)



*専門学校、高専、短大

第2章 アンケート調査結果

最近、身の回りに働いている外国人が増加してきていると感じるかを尋ねたところ、年代別では20-24歳が《感じる》は72.2%、50-54歳が70.3%と特に高くなっている。

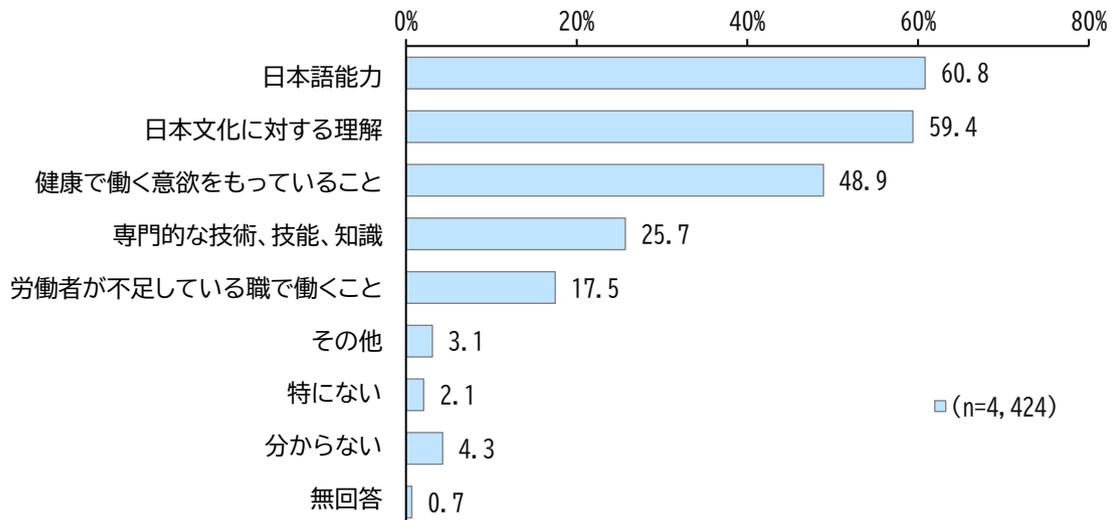
最終学歴別にみると、最終学歴が上がるほど、《感じる》が高くなり、大学、大学院で7割前後と高くなっている。

海外生活経験別にみると、海外生活経験がある人はない人よりも、《感じる》が8.7ポイント高くなっている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高いほど、《感じる》が高くなっている。

(8) 外国人労働者に求めるもの

Q17 外国人労働者を受け入れるにあたって、外国人労働者に求めるものとして重要なものは何だと思えますか。(あてはまるもの全てを選択)



外国人労働者に求めるものとして重要なものを聞いたところ、「日本語能力」(60.8%)、「日本文化に対する理解」(59.4%)の2項目が6割前後で高く、これに「健康で働く意欲をもっていること」が48.9%が続いている。

第2章 アンケート調査結果

外国人労働者に求めるもの（クロス集計）

単位：%

		n	日本語能力	日本文化に対する理解	専門的な技術、技能、知識	健康で働く意欲をもっていること	労働者が不足している職で働くこと	その他	特にな	分らない	無回答
全体		4,424	60.8	59.4	25.7	48.9	17.5	3.1	2.1	4.3	0.7
性別	男性	2,130	62.5	59.6	26.0	46.4	19.4	3.5	2.3	3.4	0.7
	女性	2,263	59.2	59.4	25.4	51.3	15.7	2.7	1.9	5.2	0.6
年代14区分	18-19 歳	47	48.9	48.9	23.4	40.4	8.5	4.3	4.3	8.5	-
	20-24 歳	133	57.9	54.1	21.1	34.6	16.5	2.3	3.8	3.8	-
	25-29 歳	183	61.2	59.0	24.0	44.3	13.7	1.6	3.8	0.5	-
	30-34 歳	230	49.1	61.7	24.8	48.7	13.0	6.5	3.0	3.0	-
	35-39 歳	280	54.6	59.3	25.7	45.0	14.3	7.5	1.8	2.5	-
	40-44 歳	329	58.1	63.2	21.3	46.8	12.5	3.0	3.3	3.0	-
	45-49 歳	405	58.3	68.4	23.5	44.9	13.1	4.4	1.2	3.5	0.2
	50-54 歳	425	64.0	69.9	24.9	44.9	14.1	2.8	1.4	2.4	-
	55-59 歳	389	61.4	60.2	24.7	44.7	12.9	3.6	1.5	3.9	0.3
	60-64 歳	406	66.5	58.1	25.6	53.4	18.7	4.2	1.0	3.2	1.0
	65-69 歳	398	64.1	57.0	29.1	57.5	25.6	3.5	2.3	3.0	0.5
	70-74 歳	461	64.6	59.2	27.5	55.1	21.3	0.9	2.4	5.2	1.1
	75-79 歳	360	63.1	53.3	32.5	53.3	21.7	1.4	0.8	7.2	2.5
	80歳以上	357	59.7	46.2	23.8	49.9	25.2	-	3.4	11.8	1.4
最終学歴	小学校	12	50.0	50.0	33.3	41.7	25.0	-	-	33.3	-
	中学校	348	54.9	47.4	19.8	41.1	23.6	1.4	4.0	12.4	2.0
	高校	1,617	64.4	55.8	23.6	49.3	19.8	2.2	1.5	4.8	0.6
	専門、短大*	1,037	60.0	60.9	25.8	48.7	14.5	2.9	1.8	4.4	0.5
	大学	1,241	59.6	65.6	28.4	50.5	15.9	4.8	2.7	1.4	0.4
	大学院	149	55.0	67.8	38.3	54.4	12.1	6.0	1.3	-	0.7
海外経験	ある	322	56.8	68.3	32.9	51.9	17.1	5.9	1.6	0.6	0.3
	ない	4,082	61.1	58.9	25.1	48.7	17.5	2.9	2.2	4.6	0.7
外国人との交流頻度	よくある	410	61.5	64.9	26.3	52.2	15.4	5.4	1.5	0.7	0.2
	たまにある	763	58.7	65.5	28.2	49.5	15.3	4.5	2.5	0.9	0.1
	あまりない	1,026	60.6	62.9	26.8	50.6	17.5	3.0	2.2	2.0	0.6
	全くない	2,202	61.3	55.0	24.2	47.5	18.6	2.3	2.0	7.2	1.0

*専門学校、高専、短大 ※濃い網掛けは、各区分の最大値と最大値から2.0ポイント以内の値（その他、特にな、分らないを除く）

外国人労働者に求めるものとして重要なものを尋ねたところ、18-19歳では「日本語能力」と「日本文化に対する理解」が48.9%で最も高い。20代、55歳以上では「日本語能力」が最も高く、30歳から54歳では「日本文化に対する理解」が最も高くなっている。

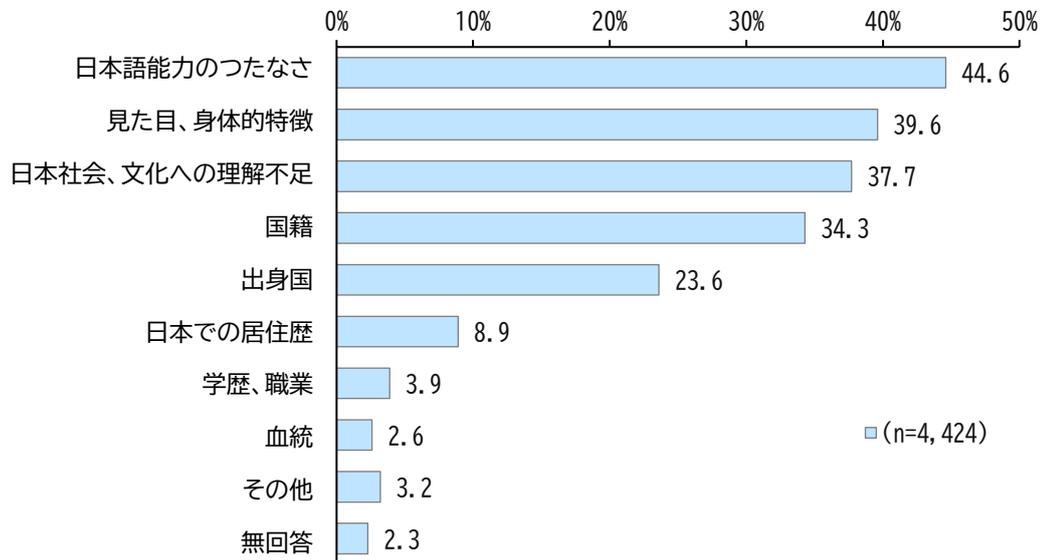
最終学歴別にみると、中学校、高校では「日本語能力」、専門、短大以上では「日本文化に対する理解」が最も高くなっている。

海外生活経験別にみると、海外生活経験がある人は「日本文化に対する理解」が68.3%で最も高く、一方で、海外生活経験がない人は「日本語能力」(61.1%)が最も高くなっている。

外国人との交流頻度別にみると、全くないは「日本語能力」が61.3%で最も高く、それ以外は「日本文化に対する理解」が6割を超えて高くなっている。一方で「労働者が不足している職で働くこと」は、“全くない”が“よくある”よりも3.2ポイント高くなっている。

(9) 外国人と認識する点

Q18 あなたが誰かを「外国人」と認識する場合、重視するのはどの点ですか。
(あてはまるもの全てを選択)



誰かを「外国人」と認識する場合、重視する点は、「日本語能力のつたなさ」が44.6%で最も高く、「見た目、身体的特徴」(39.6%)、「日本社会、文化への理解不足」(37.7%)、「国籍」(34.3%)が3割台で続いている。

外国人と認識する点 (クロス集計)

単位：%

		n	国籍	日本語能力のつたなさ	日本社会、文化への理解不足	日本での居住歴	血統	見た目、身体的特徴	出身国	学歴、職業	その他	無回答
全体		4,424	34.3	44.6	37.7	8.9	2.6	39.6	23.6	3.9	3.2	2.3
性別	男性	2,130	37.6	43.1	39.3	8.3	3.0	39.2	24.5	3.9	3.2	1.7
	女性	2,263	31.4	46.1	36.1	9.5	2.3	40.2	22.9	3.9	3.1	2.8
年代14区分	18-19 歳	47	38.3	29.8	19.1	4.3	8.5	51.1	29.8	2.1	2.1	2.1
	20-24 歳	133	37.6	43.6	27.8	7.5	3.0	45.1	21.8	-	2.3	-
	25-29 歳	183	39.3	39.3	27.9	9.3	2.7	42.1	21.9	1.6	2.7	1.1
	30-34 歳	230	39.6	43.9	38.7	8.7	3.9	40.9	29.6	3.5	0.9	-
	35-39 歳	280	33.6	45.4	29.6	5.7	2.1	48.9	19.6	2.5	3.2	0.4
	40-44 歳	329	37.1	45.6	32.8	6.4	3.3	42.2	24.3	3.6	2.1	0.3
	45-49 歳	405	31.4	45.9	40.5	7.2	2.7	44.9	22.5	1.5	2.2	1.0
	50-54 歳	425	32.2	46.8	38.6	8.2	2.8	40.2	21.4	2.6	4.5	1.4
	55-59 歳	389	29.8	49.9	40.6	6.4	1.8	39.6	23.7	2.6	3.3	1.8
	60-64 歳	406	31.8	48.0	36.2	8.6	2.2	41.6	21.9	3.9	4.7	2.5
	65-69 歳	398	32.7	46.0	42.5	8.3	1.5	36.4	22.9	4.5	2.0	3.8
	70-74 歳	461	38.4	42.1	40.8	10.2	1.5	34.9	27.5	6.9	3.7	2.8
	75-79 歳	360	35.6	40.6	42.8	12.5	2.2	33.6	25.6	7.2	4.2	4.7
	80歳以上	357	33.6	41.5	39.5	16.0	4.2	31.7	23.0	5.6	3.6	6.2
最終学歴	小学校	12	33.3	58.3	41.7	25.0	-	33.3	25.0	16.7	-	8.3
	中学校	348	34.5	36.8	37.4	12.6	3.2	29.9	20.4	5.2	4.0	7.8
	高校	1,617	33.6	45.0	37.0	8.4	2.1	39.7	21.6	2.5	2.8	2.5
	専門、短大*	1,037	32.7	48.7	35.9	9.3	2.4	41.9	23.9	4.5	3.0	1.4
	大学	1,241	36.7	43.5	39.2	8.0	3.2	41.6	27.4	4.5	3.5	1.0
	大学院	149	33.6	40.3	45.6	10.1	2.7	33.6	19.5	5.4	4.0	2.0
海外経験	ある	322	39.1	48.8	43.2	8.7	3.4	41.0	26.1	6.8	5.9	1.6
	ない	4,082	34.0	44.3	37.3	8.9	2.5	39.7	23.5	3.7	2.9	2.3
外国人との交流頻度	よくある	410	34.4	46.8	41.0	8.5	2.2	33.2	23.4	3.7	4.4	1.5
	たまにある	763	33.9	46.4	37.0	7.1	2.8	40.0	25.2	2.8	3.4	1.3
	あまりない	1,026	34.2	45.1	40.2	9.1	2.9	38.9	23.2	4.6	3.0	1.6
	全くない	2,202	34.5	43.3	36.3	9.6	2.4	41.2	23.4	4.0	3.0	3.0

*専門学校、高専、短大 ※濃い網掛けは、各区分の最大値と最大値から2.0ポイント以内の値 (その他を除く)

第2章 アンケート調査結果

誰かを「外国人」と認識する場合、重視する点を性別にみると、男女とも「日本語能力のつたなさ」が4割台で最も高くなっている。

年代別にみると、18歳から29歳と35-39歳は「見た目、身体的特徴」が最も高く、30-34歳、40歳から74歳、及び80歳以上では「日本語能力のつたなさ」が最も高くなっている。また、75-79歳では「日本社会、文化への理解不足」が最も高い。

最終学歴別にみると、高校、専門学校、高専、短大、大学では「日本語能力のつたなさ」が最も高く、中学校、大学院では「日本社会、文化への理解不足」が最も高くなっている。

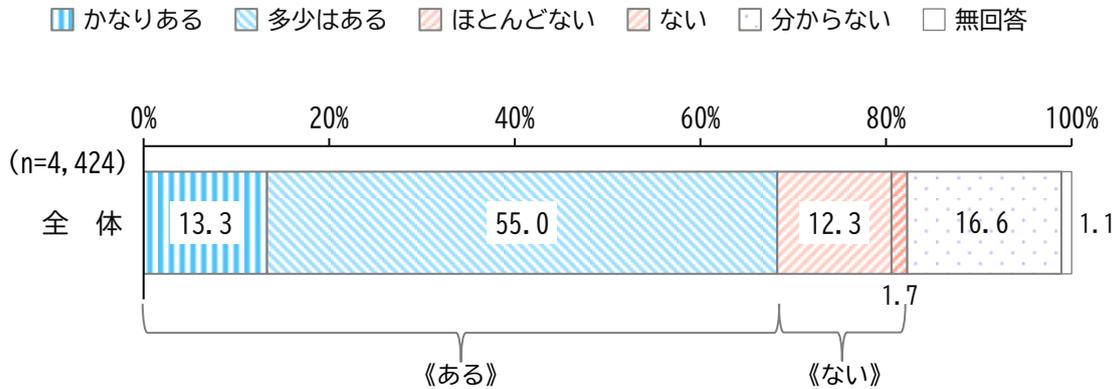
海外生活経験別にみると、“ある”と“ない”どちらも「日本語能力のつたなさ」が4割台で最も高くなっている。“ある”と“ない”の差をみると「日本社会、文化への理解不足」が5.9ポイント差となっている。

外国人との交流頻度別にみると、全ての属性で「日本語能力のつたなさ」が最も高くなっている。

4. 差別や偏見について

(1) 外国人に対する偏見や差別の有無

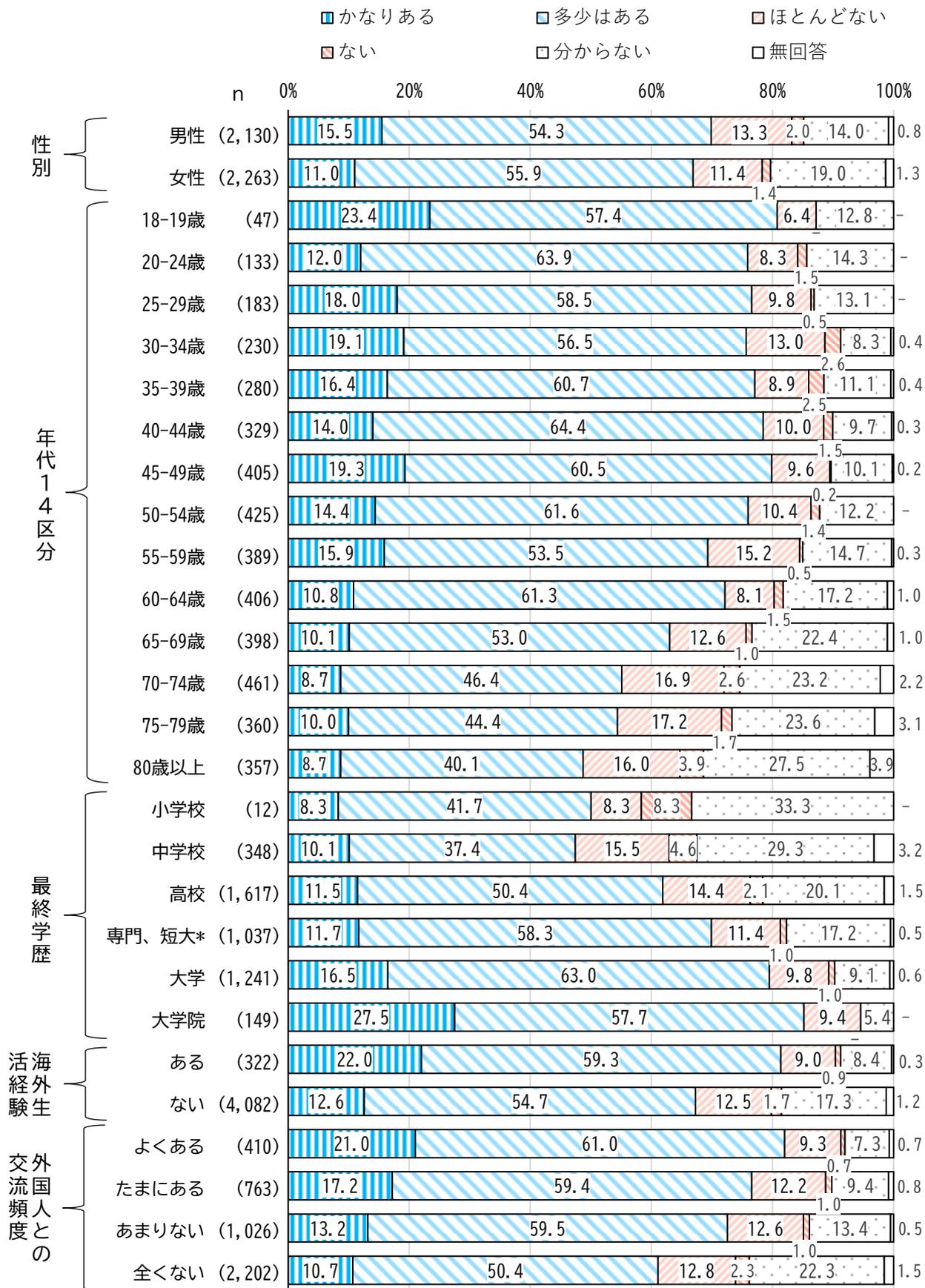
Q19 日本人から外国人に対する偏見や差別はありますか。(1つ選択)



外国人に対する偏見や差別の有無は、「かなりある」は13.3%、「多少はある」は55.0%で、両者を合わせた《ある》は68.3%、一方《ない》（「ほとんどない」と「ない」の合計）は14.0%となっており、偏見や差別があると思う人が多くなっている。

第2章 アンケート調査結果

外国人に対する偏見や差別の有無（クロス集計）



*専門学校、高専、短大

外国人に対する偏見や差別の有無を年代別にみると、18-19歳では《ある》が80.8%と全ての年代で最も高くなっている。45歳以上では年代が上がるほど《ある》が低くなる傾向がみられるが、30歳以上では年代が上がるほど「分からない」が高くなる傾向がみられる。

最終学歴別にみると、《ある》は高校以上で6割以上となっており、大学で79.5%、大学院で85.2%となっている。

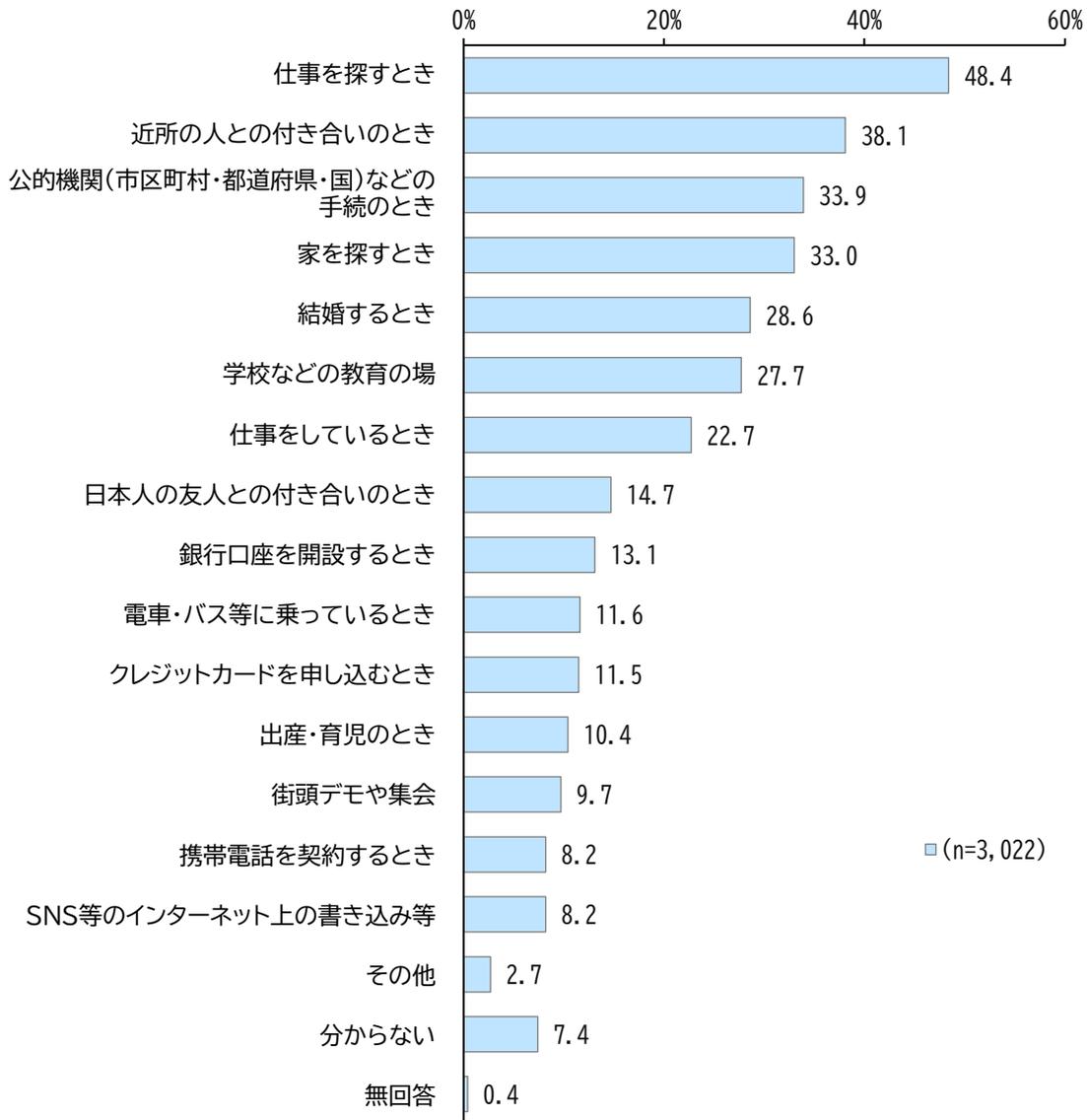
海外生活経験別にみると、海外生活経験がある人の方が、偏見や差別が《ある》が高い。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高いほど、偏見や差別が《ある》が高い。

(2) 偏見や差別があると思う場面

【Q19で「かなりある」「多少はある」のいずれかを選択された方】

Q19-1 偏見や差別はどのような場合にあると思いますか。(あてはまるもの全てを選択)



偏見や差別があると思う場面は、「仕事を探すとき」が48.4%で最も高く、以下、「近所の人との付き合いのとき」(38.1%)、「公的機関(市区町村・都道府県・国)などの手続のとき」(33.9%)、「家を探すとき」(33.0%)が3割台、「結婚するとき」(28.6%)、「学校などの教育の場」(27.7%)、「仕事をしているとき」(22.7%)が2割台となっている。

偏見や差別があると思う場面（クロス集計）

単位：％

		n	公的機関（市区町村・都道府県・国）などの手続のとき	日本人の友人との付き合いのとき	近所の人との付き合いのとき	家を探するとき	結婚するとき	電車・バス等に乗っているとき	出産・育児のとき	学校などの教育の場	仕事を探するとき	仕事をしているとき	携帯電話を契約するとき	銀行口座を開設するとき	クレジットカードを申し込むとき	SNS等のインターネット上の書き込み等	街頭デモや集会	その他	分からない	無回答
全体		3,022	33.9	14.7	38.1	33.0	28.6	11.6	10.4	27.7	48.4	22.7	8.2	13.1	11.5	8.2	9.7	2.7	7.4	0.4
性別	男性	1,488	36.2	16.2	39.7	32.9	28.0	12.2	10.8	28.4	47.1	22.8	8.2	12.9	11.5	8.7	12.4	3.0	5.9	0.3
	女性	1,516	31.5	13.2	36.4	33.0	29.3	11.0	9.9	26.8	49.4	22.5	8.1	13.2	11.5	7.7	7.0	2.4	9.0	0.5
年代14区分	18-19歳	38	13.2	23.7	36.8	15.8	15.8	31.6	2.6	42.1	39.5	28.9	7.9	7.9	7.9	13.2	13.2	-	2.6	-
	20-24歳	101	31.7	14.9	31.7	18.8	21.8	28.7	9.9	33.7	51.5	27.7	8.9	16.8	13.9	19.8	18.8	2.0	3.0	1.0
	25-29歳	140	27.9	20.0	30.7	27.9	27.9	21.4	10.0	30.0	45.7	30.7	10.7	12.9	11.4	13.6	13.6	2.1	5.0	-
	30-34歳	174	31.6	17.2	38.5	33.9	24.7	13.8	10.9	33.3	54.6	33.3	9.2	15.5	11.5	12.1	11.5	3.4	6.3	-
	35-39歳	216	30.6	19.0	38.0	27.8	25.9	13.0	8.8	28.2	42.1	30.6	12.0	15.3	14.8	12.0	12.5	5.1	8.3	-
	40-44歳	258	33.7	15.1	28.3	29.1	25.6	8.5	9.3	24.4	52.3	29.5	10.5	15.1	11.2	7.0	7.8	1.9	10.1	-
	45-49歳	323	28.5	15.8	35.3	32.2	26.3	9.6	9.6	20.1	43.7	20.4	9.3	12.4	12.7	8.0	12.7	3.7	11.8	0.6
	50-54歳	323	29.4	12.4	41.5	37.2	26.6	9.0	10.2	26.9	52.3	27.9	7.7	11.1	10.8	6.8	7.7	4.0	8.7	0.3
	55-59歳	270	29.6	13.0	41.5	37.0	30.4	7.0	12.6	24.8	50.4	22.2	8.5	11.1	10.4	11.1	10.4	3.7	6.3	-
	60-64歳	293	39.2	9.9	38.2	39.9	30.4	11.6	9.6	25.3	45.7	18.4	5.8	14.7	13.7	8.5	7.2	1.4	6.8	-
	65-69歳	251	35.5	13.5	38.6	37.8	31.1	7.2	9.6	28.7	49.4	17.1	6.8	12.4	10.0	5.2	8.0	1.6	5.6	1.2
	70-74歳	254	43.7	15.0	43.3	37.4	35.8	10.2	17.3	33.5	51.2	16.1	7.1	15.4	13.8	3.5	9.8	2.8	5.5	-
	75-79歳	196	43.4	13.8	41.8	32.1	35.2	13.3	9.2	31.6	47.4	15.3	4.1	9.2	8.2	3.1	6.6	0.5	5.6	0.5
	80歳以上	174	38.5	15.5	43.7	24.7	29.3	13.2	8.0	26.4	44.3	10.3	7.5	11.5	7.5	4.0	5.2	1.1	9.2	2.3
最終学歴	小学校	6	66.7	16.7	33.3	50.0	50.0	33.3	33.3	33.3	83.3	16.7	33.3	50.0	50.0	-	-	-	-	-
	中学校	165	35.2	14.5	41.8	31.5	24.2	12.1	7.9	24.8	40.0	19.4	4.2	7.9	6.7	5.5	11.5	3.0	9.1	1.8
	高校	1,001	35.2	13.8	40.0	27.2	26.6	12.1	9.9	27.0	44.7	24.0	7.6	10.8	9.9	5.6	9.6	2.8	8.2	0.5
	専門、短大*	726	34.2	12.4	34.4	31.1	26.6	9.2	9.9	26.0	47.9	22.7	8.5	11.7	11.2	6.1	8.8	3.2	9.5	0.4
	大学	987	32.7	17.1	38.4	39.3	32.1	12.5	11.2	29.3	53.1	22.1	9.1	17.3	14.4	12.6	10.3	2.1	5.2	0.2
	大学院	127	26.0	15.7	37.0	42.5	33.9	14.2	12.6	31.5	52.8	22.0	7.9	11.0	8.7	11.0	8.7	3.1	4.7	-
海外経験	ある	262	37.4	18.7	36.6	48.9	31.7	14.9	16.0	30.9	57.6	23.7	12.6	20.6	18.7	9.9	11.1	4.2	4.6	0.4
	ない	2,748	33.4	14.3	38.2	31.5	28.3	11.3	9.9	27.3	47.5	22.6	7.8	12.3	10.8	8.0	9.5	2.5	7.8	0.4
外国人との交流頻度	よくある	336	33.3	15.2	34.8	41.1	28.6	11.3	11.3	25.0	52.1	30.7	10.1	15.2	13.7	10.7	9.5	2.1	3.3	0.9
	たまにある	584	34.9	17.3	38.5	33.6	30.1	10.8	12.2	30.1	50.3	23.3	11.3	16.4	14.4	9.2	12.5	3.1	4.5	-
	あまりない	745	37.2	14.2	38.5	31.9	28.7	12.5	8.9	27.1	48.2	24.3	8.3	14.4	12.2	9.1	8.2	3.0	6.8	0.3
	全くない	1,344	31.8	13.8	38.8	31.3	27.9	11.7	10.3	27.8	46.9	19.7	6.3	10.3	9.4	6.6	9.2	2.5	10.2	0.4

*専門学校、高専、短大 ※濃い網掛けは、各区分の最大値と最大値から2.0ポイント以内の値（その他、分からないを除く）

第2章 アンケート調査結果

偏見や差別があると思う場面を性別にみると、男女とも「仕事を探すとき」（男性47.1%、女性49.4%）が最も高い。

年代別でみると、18-19歳では「学校などの教育の場」が42.1%で最も高いが、それ以上の年代では「仕事を探すとき」が最も高くなっている。

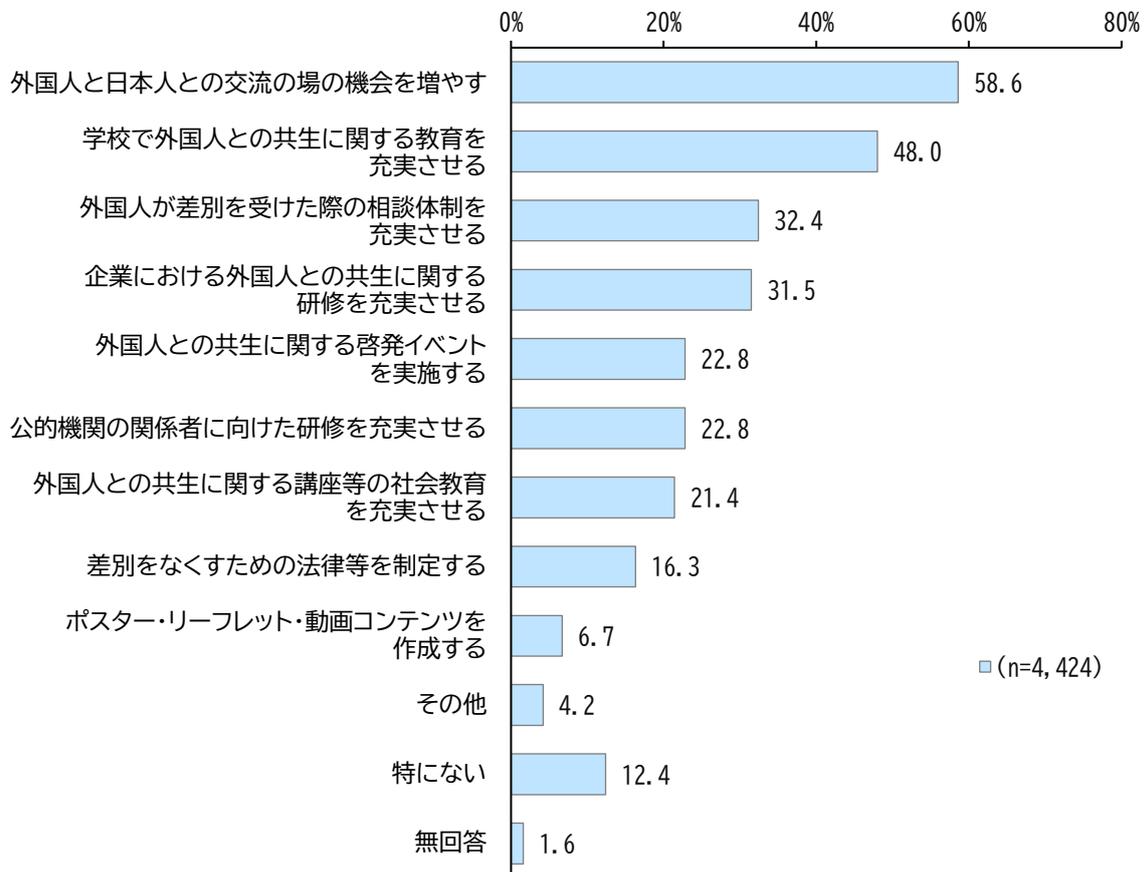
最終学歴別にみると、中学校では「近所の人との付き合いのとき」が41.8%で最も高く、それ以外では「仕事を探すとき」が最も高くなっている。

海外生活経験別にみると、海外生活経験がある人とない人で最もポイント差の大きいものは「家を探すとき」が17.4ポイント差となっている。

外国人との交流頻度別にみると、“よくある”と“全くない”で特にポイント差の大きいものは「仕事をしているとき」で11.0ポイント差、「家を探すとき」が9.8ポイント差となっている。

(3) 偏見や差別をなくすために必要と思う取組等

Q20 あなたは、偏見や差別をなくし、人権を守るためにどのような取組や活動があるとよいと思いますか。(あてはまるもの全てを選択)



偏見や差別をなくし、人権を守るための取組や活動への要望としては、「外国人と日本人との交流の場の機会を増やす」が58.6%で最も高く、以下、「学校で外国人との共生に関する教育を充実させる」が48.0%、「外国人が差別を受けた際の相談体制を充実させる」(32.4%)、「企業における外国人との共生に関する研修を充実させる」(31.5%)が3割台で続いている。

第2章 アンケート調査結果

偏見や差別をなくすために必要と思う取組等（クロス集計）

単位：％

		n	外国人との共生に関する啓発イベントを実施する	ポスター・リーフレット・動画コンテンツを作成する	外国人と日本人との交流の場の機会を増やす	学校で外国人との共生に関する教育を充実させる	企業における外国人との共生に関する研修を充実させる	外国人との共生に関する講座等の社会教育を充実させる	外国人が差別を受けた際の相談体制を充実させる	差別をなくすための法律等を制定する	公的機関の関係者に向けた研修を充実させる	その他	特にない	無回答
全体		4,424	22.8	6.7	58.6	48.0	31.5	21.4	32.4	16.3	22.8	4.2	12.4	1.6
性別	男性	2,130	24.9	7.3	56.4	44.4	29.8	21.5	29.1	18.6	22.3	5.5	14.2	1.4
	女性	2,263	20.8	6.1	60.8	51.3	33.2	21.3	35.7	14.1	23.1	2.9	10.8	1.7
年代14区分	18-19 歳	47	12.8	2.1	66.0	61.7	23.4	17.0	25.5	17.0	14.9	-	12.8	-
	20-24 歳	133	20.3	9.8	54.9	46.6	30.1	11.3	30.1	20.3	17.3	4.5	11.3	-
	25-29 歳	183	15.3	14.2	53.6	45.9	23.0	15.8	26.8	16.9	13.7	4.4	18.6	1.1
	30-34 歳	230	16.1	4.8	57.4	48.7	30.4	16.5	27.4	13.9	16.5	6.1	13.9	0.4
	35-39 歳	280	15.4	2.9	53.9	48.6	26.4	13.6	23.2	20.0	17.9	8.9	18.2	0.4
	40-44 歳	329	19.5	8.5	60.2	59.0	35.9	21.0	25.2	14.0	19.5	5.5	8.5	0.6
	45-49 歳	405	16.0	4.4	56.8	50.6	32.8	17.8	30.1	13.6	20.7	5.7	12.3	0.2
	50-54 歳	425	22.8	8.0	56.9	52.2	35.1	23.1	33.4	13.6	21.4	5.6	12.2	0.5
	55-59 歳	389	25.2	7.2	54.8	44.2	30.8	22.4	38.0	16.7	22.1	5.9	10.3	1.0
	60-64 歳	406	24.6	5.7	65.0	50.5	32.0	23.9	34.7	13.3	21.2	3.7	10.3	1.0
	65-69 歳	398	27.1	6.5	61.3	49.0	30.7	25.4	35.9	18.1	27.6	2.5	11.6	1.8
	70-74 歳	461	25.2	8.5	61.8	44.5	32.3	21.9	38.2	18.0	29.3	1.7	11.7	3.0
	75-79 歳	360	30.0	5.6	61.1	43.1	33.6	27.8	36.1	17.5	28.3	1.1	11.9	3.6
	80歳以上	357	29.1	5.6	56.6	37.8	30.5	24.6	32.5	19.3	28.6	1.1	15.7	5.0
最終学歴	小学校	12	33.3	8.3	50.0	50.0	33.3	25.0	41.7	25.0	33.3	-	33.3	-
	中学校	348	23.6	5.2	45.4	34.5	30.2	18.7	28.4	19.5	20.4	2.3	20.7	4.9
	高校	1,617	23.9	6.9	57.8	44.4	32.0	20.1	32.8	15.3	22.1	2.8	13.7	2.1
	専門、短大*	1,037	22.0	6.6	60.8	51.3	31.9	21.8	34.8	15.4	23.6	4.1	11.6	1.0
	大学	1,241	22.6	7.4	62.0	53.4	31.4	23.9	32.1	17.5	23.9	5.9	9.3	0.6
	大学院	149	14.8	3.4	58.4	49.7	30.2	17.4	26.2	14.8	18.8	8.7	8.7	-
海外経験	ある	322	27.6	6.5	65.2	58.1	36.0	23.6	39.4	22.7	30.1	7.1	10.6	0.3
	ない	4,082	22.3	6.7	58.1	47.2	31.2	21.2	31.9	15.8	22.1	3.9	12.6	1.7
外国人との交流頻度	よくある	410	21.2	7.3	57.8	54.4	36.6	23.9	36.8	18.3	26.3	6.6	11.2	0.7
	たまにある	763	24.4	8.0	61.7	53.7	33.3	22.4	34.5	16.9	25.2	6.3	7.6	1.0
	あまりない	1,026	22.9	6.4	59.6	50.4	33.1	20.6	34.0	16.1	23.6	4.4	11.1	1.2
	全くない	2,202	22.5	6.3	57.1	43.7	29.4	20.9	30.3	15.8	21.0	2.9	15.0	2.1

*専門学校、高専、短大 ※濃い網掛けは、各区分の最大値と最大値から2.0ポイント以内の値（その他、特にないを除く）

偏見や差別をなくし、人権を守るための取組や活動への要望は、性別、年代別、海外生活経験別、外国人との交流頻度別のいずれも「外国人と日本人との交流の場の機会を増やす」が最も高くなっている。

最終学歴別にみると、中学校以上では「外国人と日本人との交流の場の機会を増やす」が最も高くなっている。小学校では、「外国人と日本人との交流の場の機会を増やす」と「学校で外国人との共生に関する教育を充実させる」がともに50.0%となっている。

海外生活経験別にみると、海外生活経験がある人が、ない人よりも高い項目では「学校で外国人との共生に関する教育を充実させる」が10.9ポイント差、次いで「公的機関の関係者に向けた研修を充実させる」が8.0ポイント差で高くなっている。

外国人との交流頻度別にみると、外国人との交流頻度が、“よくある”と“全くない”で特に差がある項目は、「学校で外国人との共生に関する教育を充実させる」が10.7ポイント差、「企業における外国人との共生に関する研修を充実させる」が7.2ポイント差で、交流頻度が高いほど、高くなっている。

(参考) Q20 (偏見や差別をなくすために必要と思う取組等) について、外国人との付き合いの有無や、海外生活&交流頻度でみた場合

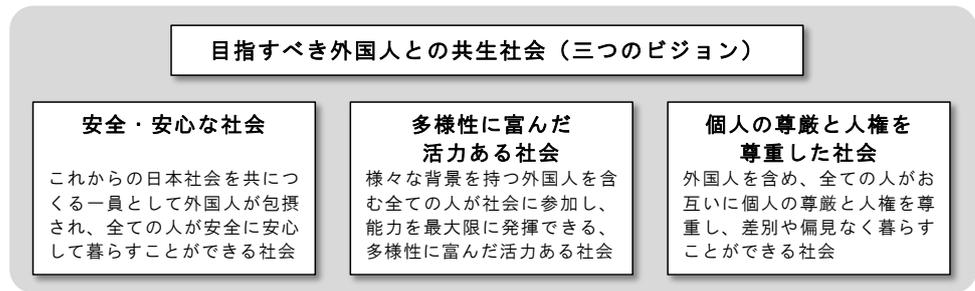
単位:%

		n	外国人との共生に関する啓発イベントを実施する	ポスター・リーフレット・動画コンテンツを作成する	外国人と日本人との交流の場の機会を増やす	学校で外国人との共生に関する教育を充実させる	企業における外国人との共生に関する研修を充実させる	外国人との共生に関する講座等の社会教育を充実させる	外国人が差別を受けた際の相談体制を充実させる	差別をなくすための法律等を制定する	公的機関の関係者に向けた研修を充実させる	その他	特になし	無回答
全体		4,424	22.8	6.7	58.6	48.0	31.5	21.4	32.4	16.3	22.8	4.2	12.4	1.6
外国人との有付き	外国人と何らかの付き合い経験あり	2,526	22.4	7.5	59.9	51.7	33.8	22.8	35.2	16.7	24.9	5.6	10.2	1.1
	外国人の知人はいなく、付き合いも無い	1,835	23.2	5.7	57.2	43.5	28.6	19.3	29.3	15.8	19.9	2.3	15.3	1.9
海外生活&交流頻度	海外生活経験があり、外国人と交流頻度高い	164	26.2	8.5	64.6	61.6	32.9	20.1	40.9	23.8	31.1	9.1	9.1	0.6
	海外生活経験があり、外国人と交流頻度低い	155	29.7	4.5	65.2	54.8	40.0	26.5	37.4	21.9	29.7	5.2	12.3	-
	海外生活経験はなく、外国人と交流頻度高い	1,004	22.6	7.6	59.8	52.8	34.7	23.3	34.6	16.4	24.6	6.0	8.9	1.0
	海外生活経験はなく、外国人と交流頻度低い	3,062	22.3	6.4	57.5	45.4	30.1	20.6	31.2	15.5	21.4	3.2	13.9	1.9

※濃い網掛けは、各区分の最大値(その他、特になしを除く)

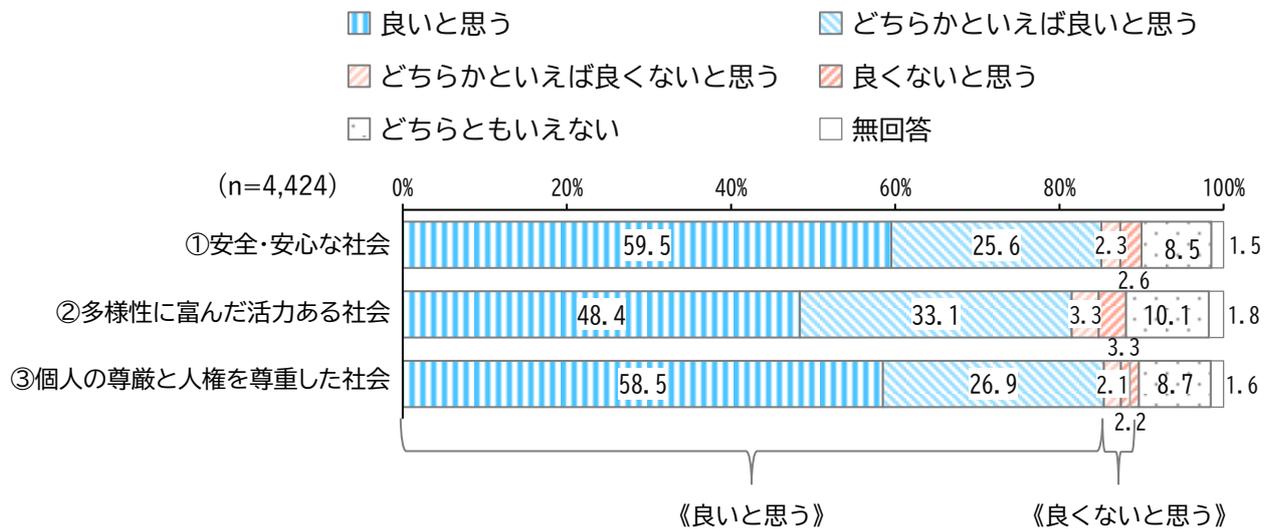
5. 外国人との共生社会について

国は、外国人との共生社会の実現に向けて、目指すべき外国人との共生社会のビジョン（三つのビジョン）を示しています。



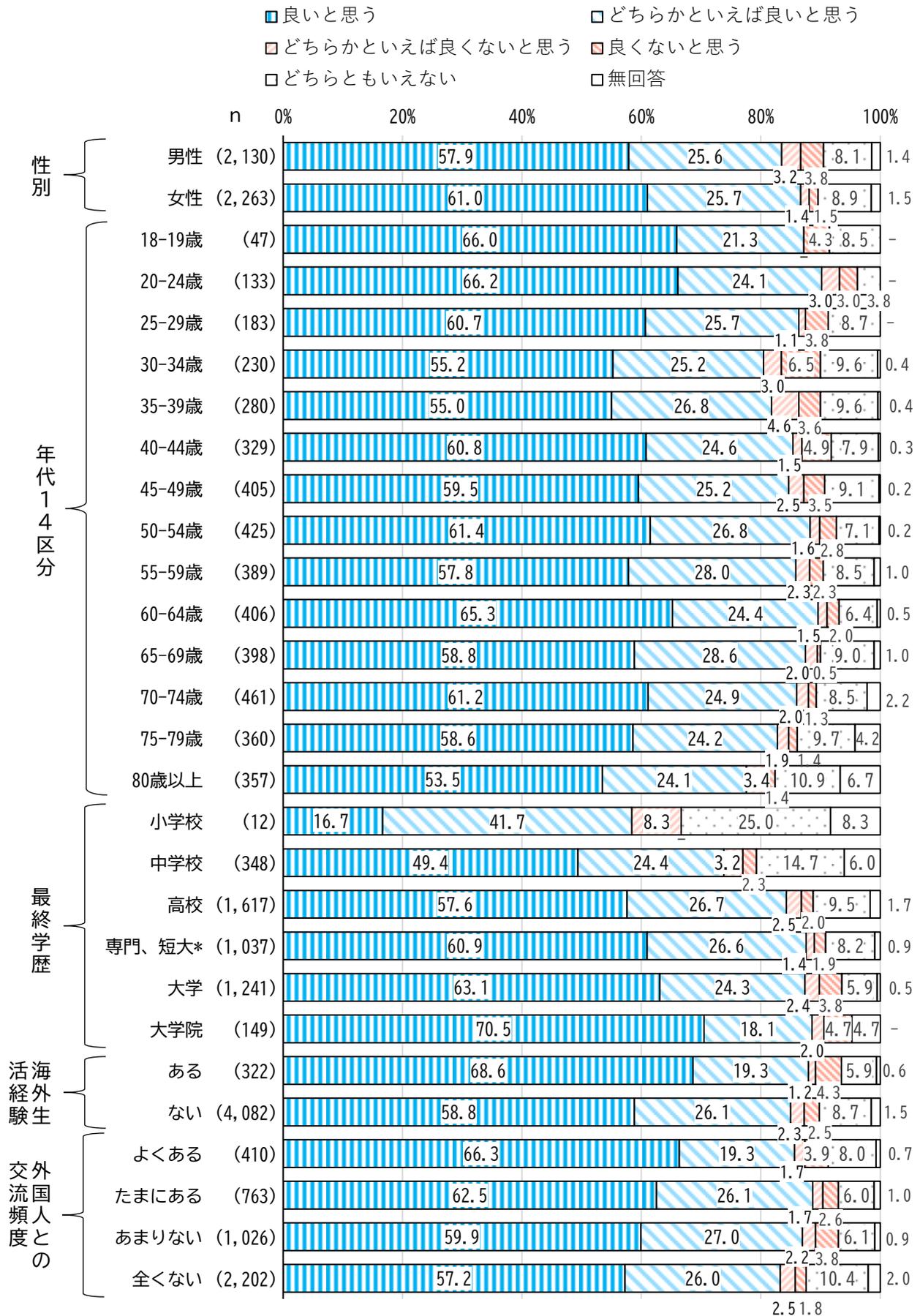
（1）三つのビジョンについて

Q21 この三つのビジョンについて、あなたはどのように思いますか（それぞれ1つ選択）



三つのビジョンについてどう思うか聞いたところ、「良いと思う」は、①安全・安心な社会、③個人の尊厳と人権を尊重した社会で6割弱となっている。これに「どちらかといえば良いと思う」を合わせた《良いと思う》で見ると、①～③のいずれも8割を超えている。一方、《良くないと思う》（「どちらかといえば良くないと思う」と「良くないと思う」の合計）は①～③いずれも1割未満となっており、三つのビジョンについては高い評価が得られている。

三つのビジョンについて（クロス集計／①安全・安心な社会）



*専門学校、高専、短大

第2章 アンケート調査結果

“安全・安心な社会”について、性別、年代別、海外生活経験別、外国人との交流頻度別のいずれも「良いと思う」が過半数を占めている。

最終学歴別にみると、最終学歴が上がるほど、「良いと思う」が高くなっており、大学院で70.5%となっている。

海外生活経験別にみると、海外生活経験がある方が、「良いと思う」が高くなっている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高い方が、「良いと思う」が高くなっている。

第2章 アンケート調査結果

“多様性に富んだ活力ある社会”について、性別にみると、「良いと思う」は女性の方がやや高くなっている。

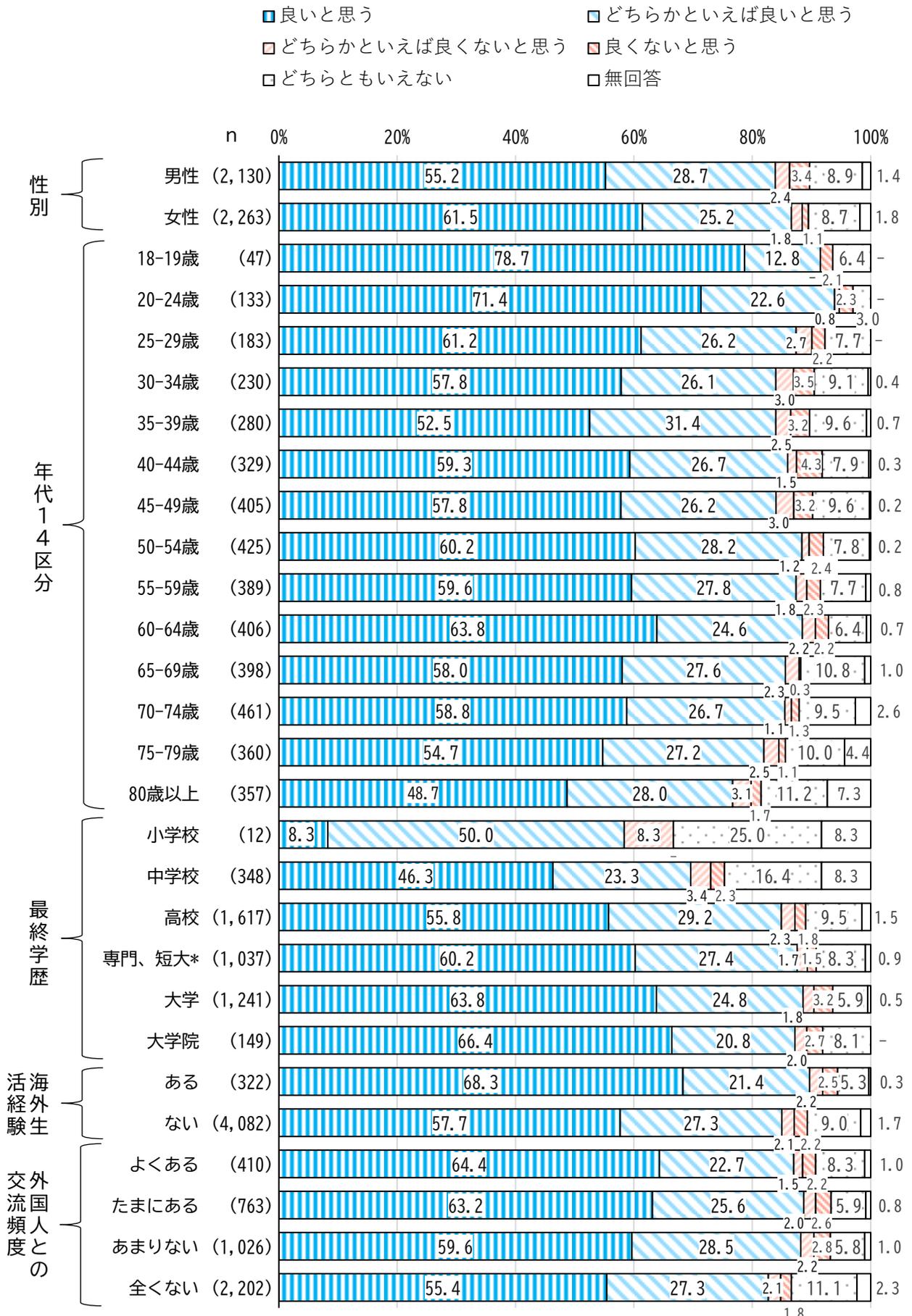
年代別にみると、18-19歳で「良いと思う」が72.3%と最も高くなっている。以降は年代が高い層でやや低く、80歳以上で40.1%と最も低くなっている。

最終学歴別にみると、最終学歴が上がるほど、「良いと思う」が高くなっている。

海外生活経験別にみると、海外生活経験がある方が、「良いと思う」が高くなっている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高い方が、「良いと思う」が高くなっている。

三つのビジョンについて (クロス集計/③個人の尊厳と人権を尊重した社会)



*専門学校、高専、短大

第2章 アンケート調査結果

“個人の尊厳と人権を尊重した社会”について、性別にみると、女性の方が「良いと思う」がやや高くなっている。

年代別にみると、18-19歳で「良いと思う」が78.7%と最も高く、20-24歳でも71.4%と高くなっている。以降は年代が高い層でやや低く、80歳以上で48.7%と最も低くなっている。

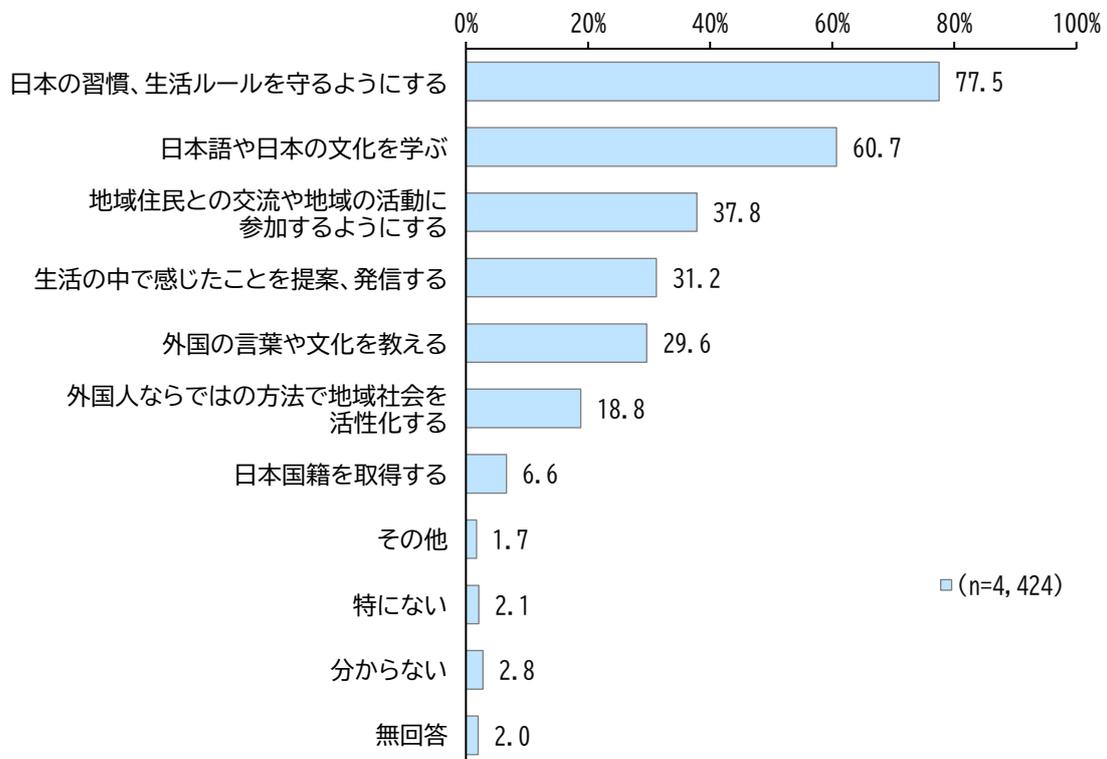
最終学歴別にみると、最終学歴が上がるほど、「良いと思う」が高くなっている。

海外生活経験別にみると、海外生活経験がある方が「良いと思う」が高くなっている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高い方が「良いと思う」が高くなっている。

(2) 共生社会実現のため外国人にしてほしいこと

Q22 共生社会実現のため、外国人には何をしてほしいと思いますか。
(あてはまるもの全てを選択)



共生社会実現のため、外国人にしてほしいことを聞いたところ、「日本の習慣、生活ルールを守るようにする」が77.5%で最も高く、以下、「日本語や日本の文化を学ぶ」が60.7%、「地域住民との交流や地域の活動に参加するようにする」(37.8%)、「生活の中で感じたことを提案、発信する」(31.2%)が3割台で続いている。

第2章 アンケート調査結果

共生社会実現のため外国人にしてほしいこと（クロス集計）

単位：%

		n	日本の習慣、生活ルールを守るようにする	日本語や日本の文化を学ぶ	地域住民との交流や地域の活動に参加するようにする	外国人ならではの方法で地域社会を活性化する	外国の言葉や文化を教える	生活の中で感じたことを提案、発信する	日本国籍を取得する	その他	特にない	分からない	無回答
全体		4,424	77.5	60.7	37.8	18.8	29.6	31.2	6.6	1.7	2.1	2.8	2.0
性別	男性	2,130	78.7	62.5	38.1	19.5	26.9	28.9	9.2	2.3	2.2	2.3	2.1
	女性	2,263	76.2	58.9	37.7	18.1	32.3	33.4	4.2	1.1	2.0	3.4	1.9
年代14区分	18-19 歳	47	59.6	57.4	14.9	27.7	42.6	25.5	8.5	-	4.3	4.3	-
	20-24 歳	133	74.4	57.1	24.1	16.5	33.8	31.6	4.5	3.8	2.3	2.3	-
	25-29 歳	183	73.2	59.0	21.9	16.9	30.6	32.8	6.0	1.1	3.3	1.6	1.1
	30-34 歳	230	78.7	61.3	29.6	18.3	31.7	30.0	7.8	4.8	1.7	0.4	-
	35-39 歳	280	77.5	57.5	21.4	15.4	34.6	30.4	8.9	1.8	2.5	1.8	-
	40-44 歳	329	74.5	65.7	32.2	15.2	35.0	31.0	4.3	3.3	1.2	3.0	0.3
	45-49 歳	405	76.3	65.9	32.8	16.8	34.3	30.1	6.9	2.0	2.0	3.0	1.2
	50-54 歳	425	85.4	60.0	34.4	18.4	28.9	33.4	4.5	1.4	1.4	2.1	0.2
	55-59 歳	389	81.2	65.3	38.6	17.7	26.2	26.7	3.1	1.5	2.6	1.8	0.8
	60-64 歳	406	79.3	60.6	39.9	19.7	29.1	29.8	4.7	2.5	1.0	3.4	1.2
	65-69 歳	398	80.9	58.5	49.0	22.4	29.6	31.7	8.3	0.5	1.5	1.8	2.5
	70-74 歳	461	75.5	60.5	50.8	20.6	26.5	31.9	7.8	0.7	3.3	3.3	3.3
	75-79 歳	360	76.9	58.6	51.9	21.1	24.4	34.4	8.6	0.6	1.7	3.9	5.0
	80歳以上	357	70.6	54.9	41.5	19.9	24.9	33.1	9.5	0.6	3.1	6.4	7.6
最終学歴	小学校	12	75.0	58.3	50.0	16.7	16.7	41.7	8.3	-	-	16.7	-
	中学校	348	68.7	47.1	32.2	15.8	22.7	24.7	8.6	1.4	4.3	8.9	8.0
	高校	1,617	78.4	60.0	40.3	18.9	27.3	31.2	7.2	1.1	1.8	3.2	2.0
	専門、短大*	1,037	78.7	61.4	38.4	18.4	33.8	34.2	5.8	1.4	2.0	2.6	1.3
	大学	1,241	78.1	64.9	36.7	20.0	32.4	30.8	6.2	2.7	1.9	0.9	1.0
	大学院	149	76.5	60.4	30.9	18.1	23.5	28.2	3.4	4.0	1.3	0.7	0.7
海外生活経験	ある	322	80.4	70.8	40.1	22.4	30.4	34.8	5.0	4.0	1.2	0.6	1.6
	ない	4,082	77.2	59.9	37.6	18.5	29.6	30.9	6.7	1.5	2.2	3.0	2.0
外国人との交流頻度	よくある	410	77.3	66.8	36.6	21.2	32.0	36.1	4.9	3.7	1.7	1.2	1.2
	たまにある	763	80.6	63.4	39.6	21.6	32.9	34.7	7.7	2.5	1.6	0.7	1.4
	あまりない	1,026	78.1	61.4	38.1	20.9	29.2	32.1	5.9	1.9	1.9	1.7	1.1
	全くない	2,202	76.1	58.4	37.2	16.3	28.3	28.8	6.8	1.0	2.5	4.5	2.7

*専門学校、高専、短大 ※濃い網掛けは、各区分の最大値（その他、特にない、分からないを除く）

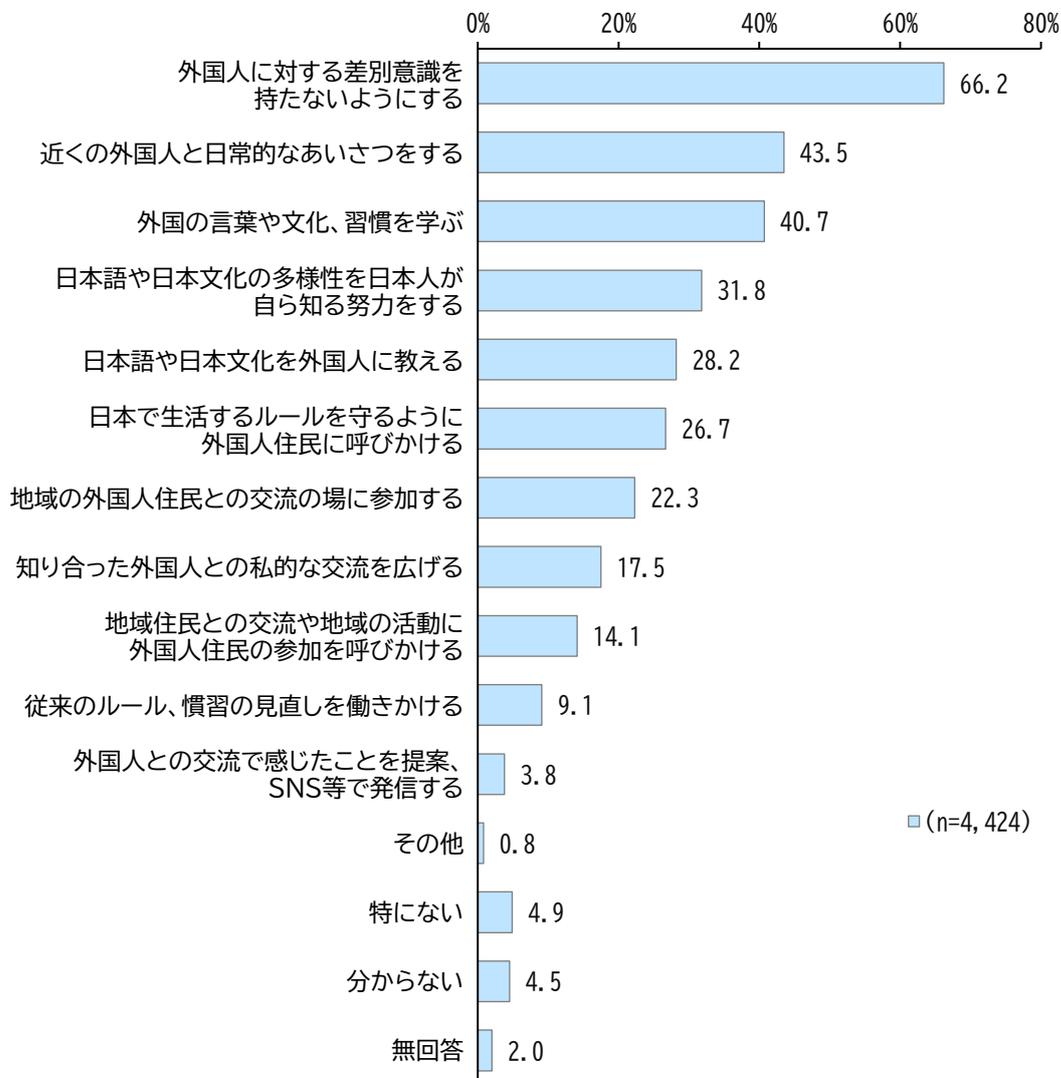
共生社会実現のため、外国人にしてほしいことを尋ねたところ、性別、年代別、最終学歴別、海外生活経験別、外国人との交流頻度別、いずれも「日本の習慣、生活ルールを守るようにする」が最も高くなっている。

海外生活経験別にみると、海外生活経験がある人が、ない人よりも高い項目では「日本語や日本の文化を学ぶ」が10.9ポイント差で高くなっている。

外国人との交流頻度別にみると、外国人との交流頻度が、“よくある”と“全くない”で特に差がある項目は、「日本語や日本の文化を学ぶ」が8.4ポイント差、「生活の中で感じたことを提案、発信する」が7.3ポイント差で、交流頻度が高い方が、高くなっている。

(3) 共生社会実現のため自分ができること

Q23 共生社会実現のため、あなた自身ができることは何だと思いますか。
(あてはまるもの全てを選択)



共生社会実現のために自分ができると答えたことは、「外国人に対する差別意識を持たないようにする」が66.2%で最も高く、「近くの外国人と日常的なあいさつをする」(43.5%)、「外国の言葉や文化、習慣を学ぶ」(40.7%)が4割台、「日本語や日本文化の多様性を日本人が自ら知る努力をする」が31.8%と続いている。

共生社会実現のため自分ができること（クロス集計）

単位：%

		n	外国人に対する差別意識を持たないようにする	外国の言葉や文化、習慣を学ぶ	日本語や日本文化の多様性を日本人が自ら知る努力をする	日本語や日本文化を外国人に教える	日本で生活するルールを守るように外国人住民に呼びかける	地域の外国人住民との交流の場に参加する	地域住民との交流や地域の活動に外国人住民の参加を呼びかける	近くの外国人と日常的なあいさつをする	知り合った外国人との私的な交流を広げる	従来ルール、慣習の見直しを働きかける	外国人との交流で感じたことを提案、SNS等で発信する	その他	特にない	分からない	無回答
全体		4,424	66.2	40.7	31.8	28.2	26.7	22.3	14.1	43.5	17.5	9.1	3.8	0.8	4.9	4.5	2.0
性別	男性	2,130	63.9	39.1	30.6	30.8	29.8	22.7	15.4	40.7	20.0	10.7	4.4	1.0	6.1	4.1	2.2
	女性	2,263	68.2	42.2	33.0	25.7	23.7	22.0	12.9	46.2	15.3	7.6	3.4	0.7	3.9	4.8	1.8
年代14区分	18-19歳	47	61.7	57.4	31.9	34.0	19.1	25.5	14.9	46.8	31.9	14.9	8.5	-	4.3	4.3	-
	20-24歳	133	64.7	54.1	32.3	32.3	21.8	22.6	6.8	36.1	21.8	16.5	6.8	-	4.5	3.0	-
	25-29歳	183	57.9	49.2	28.4	25.7	19.1	17.5	6.0	37.7	23.5	12.6	7.1	-	7.1	2.7	1.1
	30-34歳	230	65.2	51.3	33.9	34.3	26.1	20.4	9.1	42.6	24.3	13.9	5.2	2.2	3.9	3.5	-
	35-39歳	280	61.4	51.4	30.4	27.5	21.8	17.5	7.5	32.5	18.6	8.6	4.6	1.8	7.1	4.6	-
	40-44歳	329	61.4	52.0	36.5	32.2	24.9	24.9	10.9	45.9	21.9	10.6	7.3	1.5	4.3	5.2	0.3
	45-49歳	405	61.0	45.7	35.1	30.9	25.2	22.0	11.6	40.2	21.7	9.9	3.7	0.7	4.0	4.9	1.2
	50-54歳	425	68.5	42.8	32.7	30.6	26.4	23.1	13.2	46.8	17.9	10.1	4.5	1.2	4.0	3.1	0.2
	55-59歳	389	65.8	41.6	35.0	34.2	27.2	21.1	12.1	44.0	18.5	7.2	4.1	1.0	5.1	4.4	1.0
	60-64歳	406	69.2	36.9	31.0	23.4	25.6	23.2	11.3	47.5	13.8	8.1	1.2	0.5	3.7	3.7	1.2
	65-69歳	398	65.6	34.4	32.4	26.1	22.6	25.4	15.8	46.2	14.1	6.0	1.8	0.5	4.8	5.3	2.3
70-74歳	461	69.2	33.0	27.5	25.8	32.8	24.9	21.7	43.8	13.2	7.4	2.0	0.9	6.3	4.3	3.0	
75-79歳	360	74.7	31.1	31.4	25.6	31.7	25.6	24.2	48.6	13.6	9.4	4.4	0.3	4.7	5.0	5.0	
80歳以上	357	68.3	26.3	26.9	20.4	33.6	17.1	19.3	41.5	12.6	6.7	2.0	0.3	5.6	7.0	7.6	
最終学歴	小学校	12	75.0	16.7	33.3	16.7	33.3	-	16.7	50.0	8.3	16.7	-	-	-	25.0	-
	中学校	348	61.5	22.1	25.9	24.4	29.6	16.4	14.4	37.9	11.8	6.9	4.0	0.9	8.0	8.0	7.8
	高校	1,617	68.5	33.1	26.5	27.0	28.5	19.8	15.3	42.1	14.2	7.8	3.8	0.4	5.1	5.7	2.1
	専門、短大*	1,037	68.2	46.0	35.0	27.5	26.6	22.8	13.5	46.6	17.2	9.0	3.7	0.9	4.8	4.0	1.1
	大学	1,241	64.1	50.2	37.6	31.3	23.5	26.8	13.3	45.0	23.7	11.0	4.2	1.4	3.7	2.5	1.0
	大学院	149	56.4	55.0	32.9	28.9	26.8	27.5	11.4	38.9	20.1	15.4	2.0	0.7	6.0	0.7	0.7
海外経験	ある	322	59.3	53.7	41.0	37.0	28.9	31.1	16.5	51.2	32.3	12.4	7.8	2.2	4.7	2.8	1.2
	ない	4,082	66.6	39.7	31.0	27.5	26.4	21.7	13.9	42.7	16.4	8.9	3.6	0.7	5.0	4.6	2.0
外国人との交流頻度	よくある	410	66.6	54.4	37.3	42.9	31.2	22.0	15.9	45.4	24.9	12.7	4.6	2.2	3.4	2.2	0.7
	たまにある	763	70.6	49.9	37.7	33.2	27.4	26.7	16.5	49.0	27.0	11.4	5.8	1.8	3.4	1.4	1.3
	あまりない	1,026	66.6	44.0	33.2	28.0	26.8	23.7	12.4	47.2	18.7	9.8	3.3	0.6	3.7	2.4	1.3
	全くない	2,202	64.1	33.7	27.9	23.8	25.4	20.2	13.8	39.6	12.4	7.3	3.3	0.4	6.4	6.9	2.8

*専門学校、高専、短大 ※濃い網掛けは、各区分の最大値と最大値から2.0ポイント以内の値（その他、特にない、分からないを除く）

第2章 アンケート調査結果

共生社会実現のため、自分自身が出来ることを尋ねたところ、性別、年代別、最終学歴別、海外生活経験別、外国人との交流頻度別のいずれも「外国人に対する差別意識を持たないようにする」が最も高くなっている。

海外生活経験別にみると、海外生活経験がある人が、ない人よりも高い項目では「知り合った外国人との私的な交流を広げる」が15.9ポイント差で高くなっている。

外国人との交流頻度別にみると、“よくある”と“全くない”で特に差のある項目は、「外国の言葉や文化、習慣を学ぶ」が20.7ポイント差、「日本語や日本文化を外国人に教える」が19.1ポイント差で、交流頻度が高い方が、高くなっている。

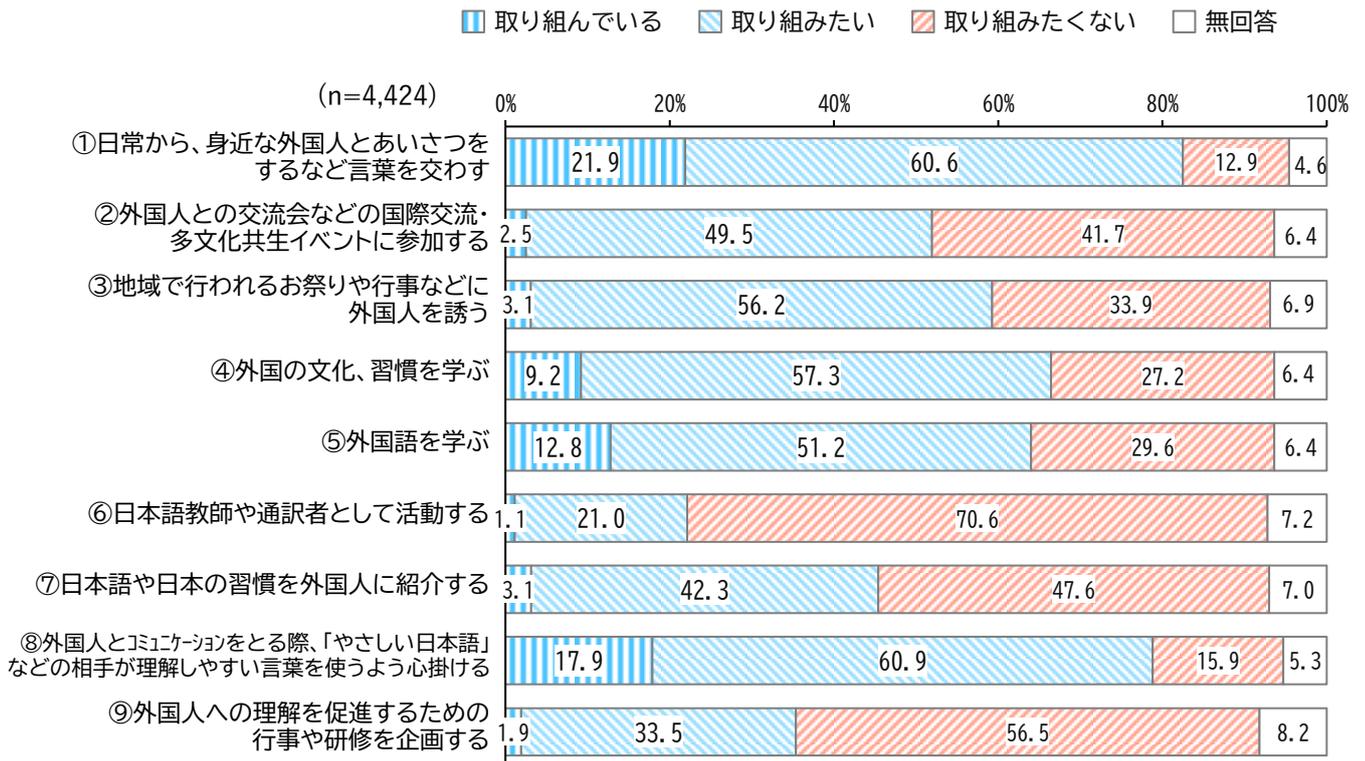
(4) 参加できる取組に対する考えと課題

Q24 あなたが参加できる取組として、以下の取組に対するあなたの考えと、その課題を選んでください。

(1)現状（それぞれ1つ選択）

(2)取り組む上での課題（あてはまるもの全てを選択）

(1)現状

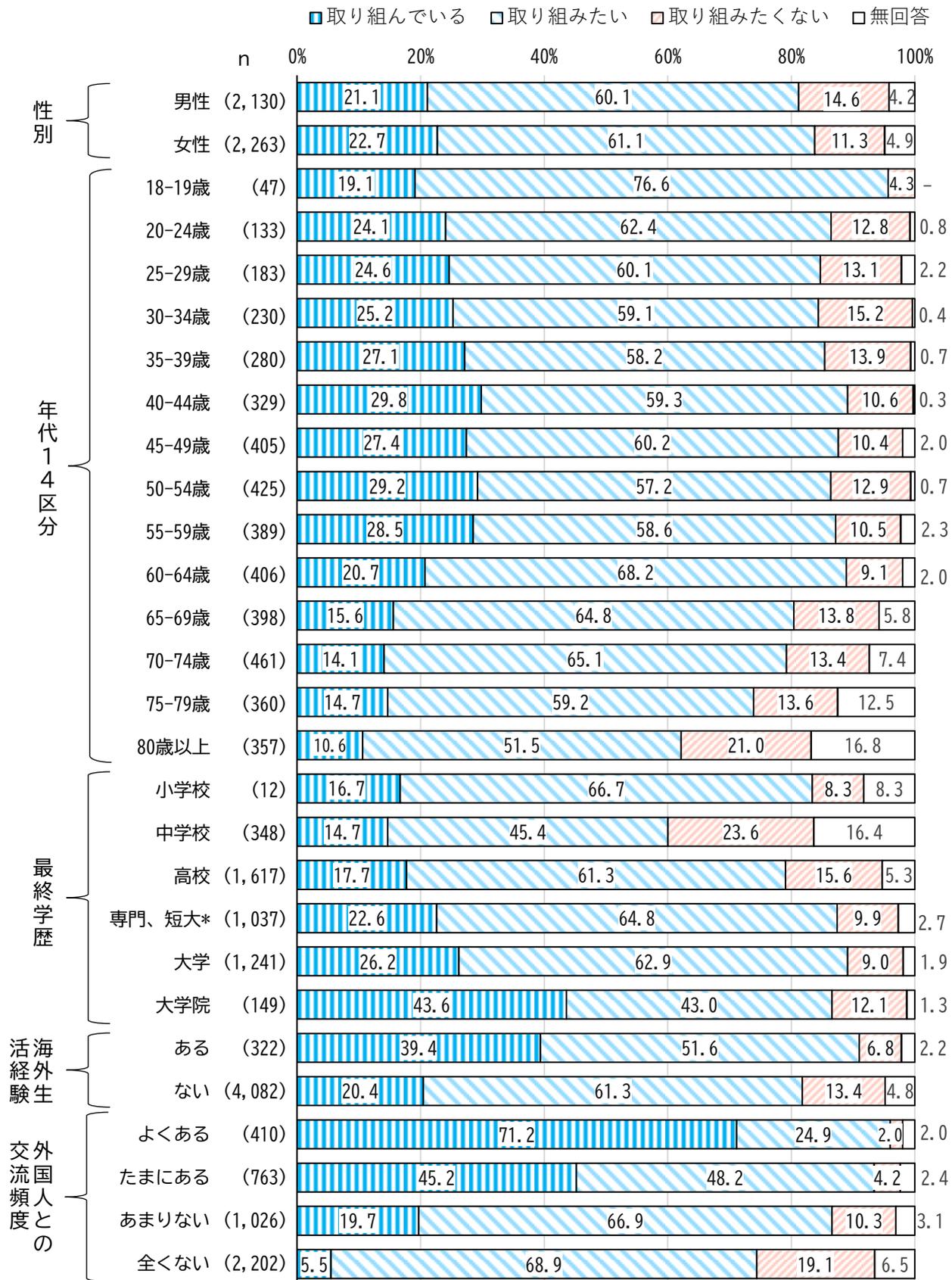


参加できる取組を聞いたところ、「取り組んでいる」は①日常から、身近な外国人とあいさつするなど言葉を交わすが21.9%、⑧外国人とコミュニケーションをとる際、「やさしい日本語」などの相手が理解しやすい言葉を使うよう心掛けるが17.9%と他の取組より高くなっている。

「取り組みたい」では、⑧外国人とコミュニケーションをとる際、「やさしい日本語」などの相手が理解しやすい言葉を使うよう心掛ける、①日常から、身近な外国人とあいさつするなど言葉を交わす、④外国の文化、習慣を学ぶ、③地域で行われるお祭りや行事などに外国人を誘う、⑤外国語を学ぶが5割以上となっている。

一方、「取り組みたくない」では、⑥日本語教師や通訳者として活動するが70.6%、⑨外国人への理解を促進するための行事や研修を企画するが56.5%、この他、⑦日本語や日本の習慣を外国人に紹介する、②外国人との交流会などの国際交流・多文化共生イベントに参加するが4割台となっている。

クロス集計／①日常から、身近な外国人とあいさつするなど言葉を交わす



*専門学校、高専、短大

①日常から、身近な外国人とあいさつするなど言葉を交わすに対する現状を性別にみると、男女とも「取り組んでいる」は2割台、「取り組みたい」は6割台となっている。

年代別にみると、「取り組んでいる」は20歳から64歳で2割台、「取り組みたい」は年代を通じて過半数を占めている。

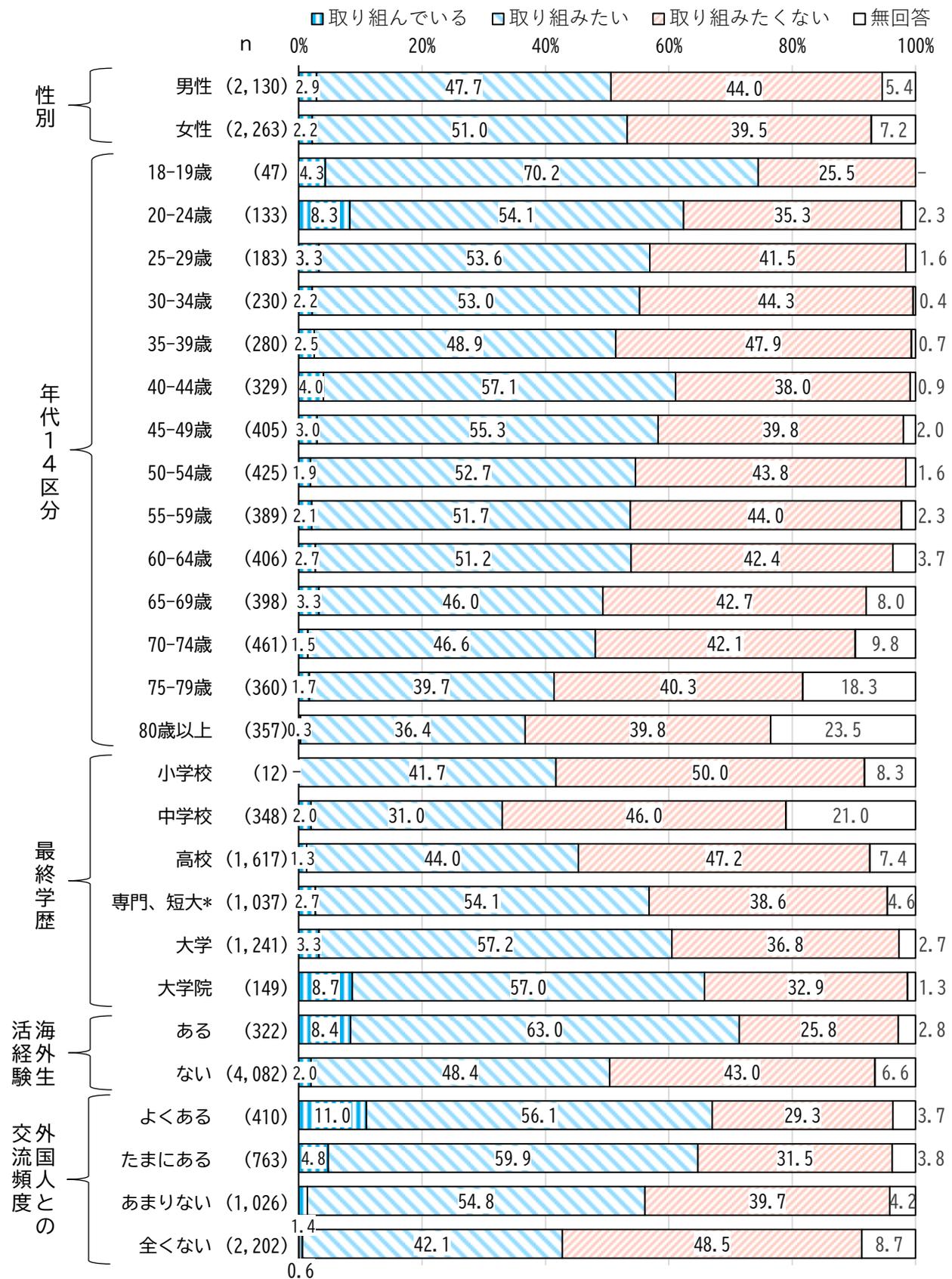
最終学歴別にみると、「取り組んでいる」は大学院で43.6%、専門学校、高専、短大、大学で2割台となっている。「取り組みたい」は高校、専門学校、高専、短大、大学で6割台となっている。

海外生活経験別にみると、「取り組んでいる」は、“ある”が39.4%、“ない”が20.4%で19.0ポイントの差がみられるが、「取り組みたい」は“ない”（61.3%）が“ある”（51.6%）を9.7ポイント上回っている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高いほど「取り組んでいる」は高く、“よくある”が71.2%、“たまにある”が45.2%となっている。逆に交流頻度が低いほど「取り組みたい」が高くなっている。

第2章 アンケート調査結果

クロス集計／②外国人との交流会などの国際交流・多文化共生イベントに参加する



*専門学校、高専、短大

②外国人との交流会などの国際交流・多文化共生イベントに参加するに對する現状を性別にみると、男女とも「取り組んでいる」は2%台となっている。

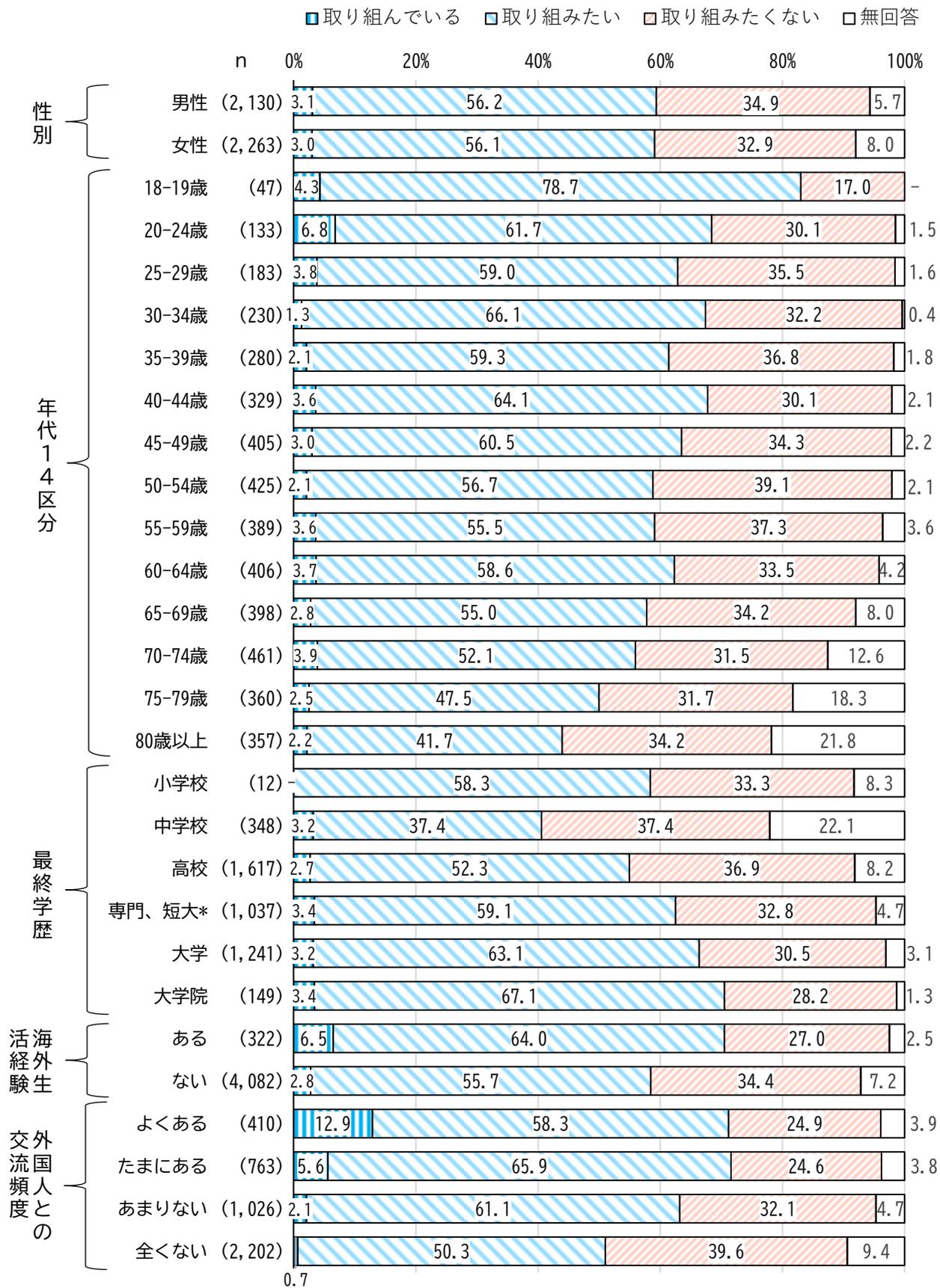
年代別にみると、「取り組みたい」は18-19歳で70.2%と高く、20歳から34歳、40歳から64歳で過半数となっている。

最終學歷別にみると、「取り組みたい」は最終學歷が上がるほど高くなる傾向があり、専門学校、高専、短大以上で過半数となっている。

海外生活経験別にみると、「取り組みたい」は、“ある”が63.0%、“ない”が48.4%で14.6ポイントの差がみられる。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高いほど「取り組みたい」が、高くなる傾向がみられる。

クロス集計／③お祭りや行事などに外国人を誘う



*専門学校、高専、短大

③お祭りや行事などに外国人を誘うに対する現状を性別にみると、男女で大きな違いが見られない。

年代別にみると、「取り組みたい」は18-19歳で78.7%と高く、20歳から74歳で5割から6割台となっている。

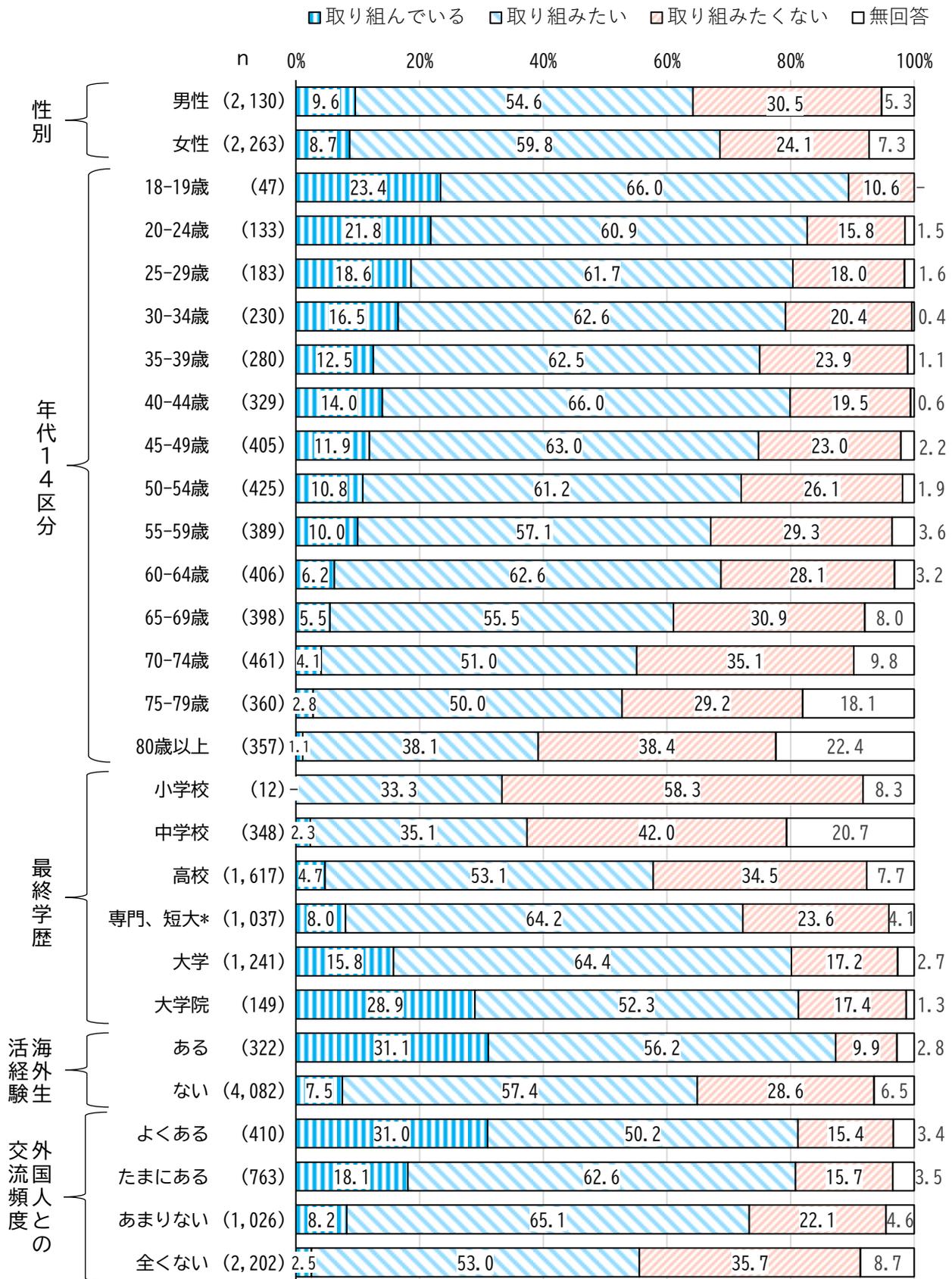
最終学歴別にみると、「取り組みたい」は最終学歴が上がるほど高くなる傾向があり、大学、大学院では6割台となっている。

海外生活経験別にみると、「取り組みたい」は、“ある”が64.0%、“ない”が55.7%で8.3ポイントの差がみられる。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高い方が「取り組んでいる」と「取り組みたい」が、高くなる傾向がみられる。

第2章 アンケート調査結果

クロス集計／④外国の文化、習慣を学ぶ



*専門学校、高専、短大

④外国の文化、習慣を学ぶに対する現状を性別にみると、男性では「取り組みたくない」が30.5%と女性よりも高くなっている。

年代別にみると、「取り組んでいる」は18-19歳、20-24歳の若い年代で2割台、「取り組みたい」は54歳以下の年代と60-64歳で6割台となっており、外国の文化、習慣を学ぶに対する現状の取組の有無にかかわらず、年代が上がるにつれ低くなる傾向となっている。

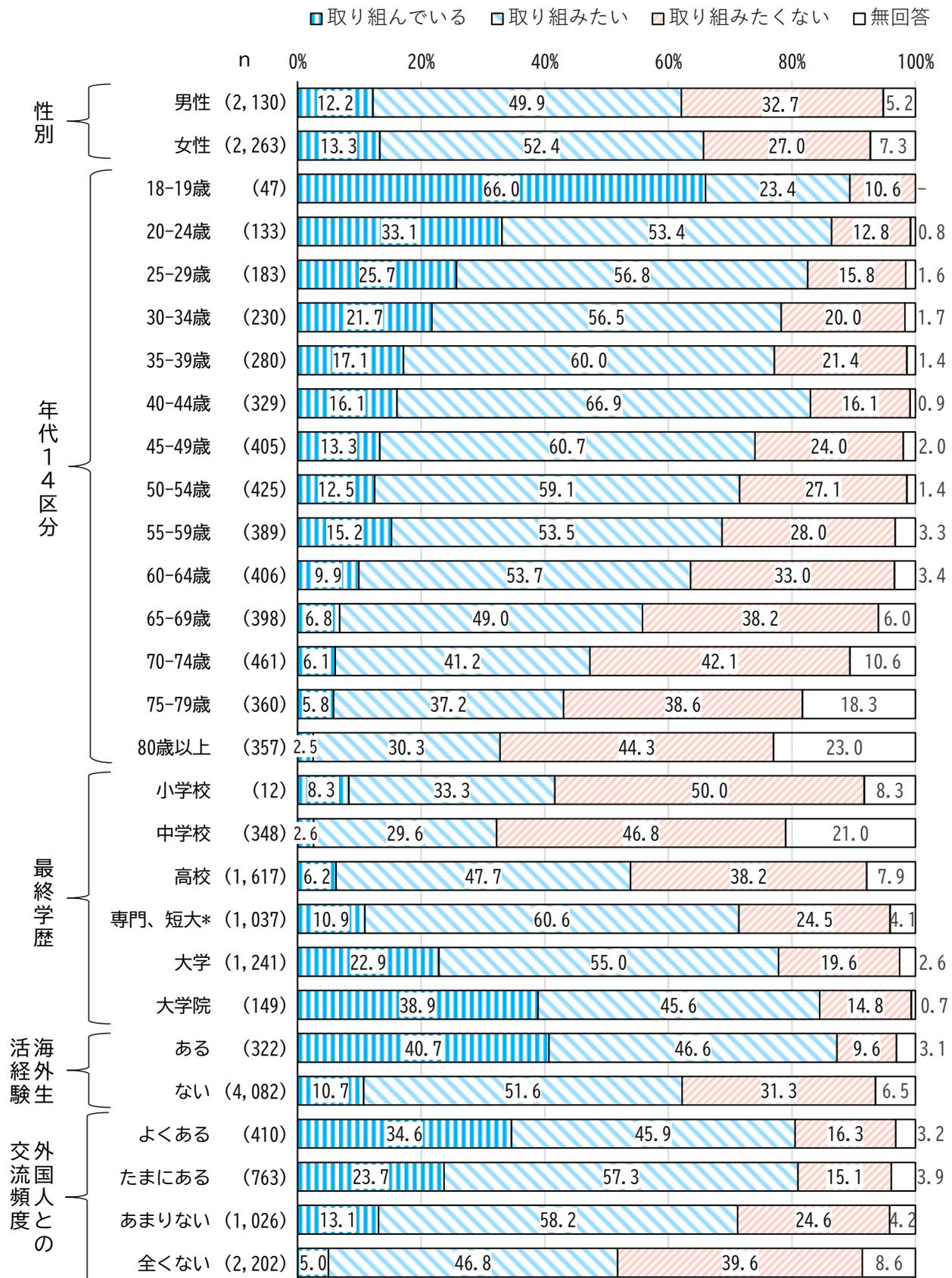
最終学歴別にみると、「取り組んでいる」は最終学歴が上がるほど高く、大学院で28.9%となっている。「取り組みたい」は高校以上で過半数となっている。

海外生活経験別にみると、「取り組んでいる」は“ある”が31.1%で、“ない”が7.5%と、“ある”が23.6ポイント上回っている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高いほど「取り組んでいる」は高く、“よくある”で31.0%。「取り組みたい」はいずれも5割から6割台となっている。

第2章 アンケート調査結果

クロス集計／⑤外国語を学ぶ



*専門学校、高専、短大

⑤外国語を学ぶに対する現状を性別にみると、「取り組みたい」では女性が52.4%と男性より高く、「取り組みたくない」では男性が32.7%で女性より高くなっている。

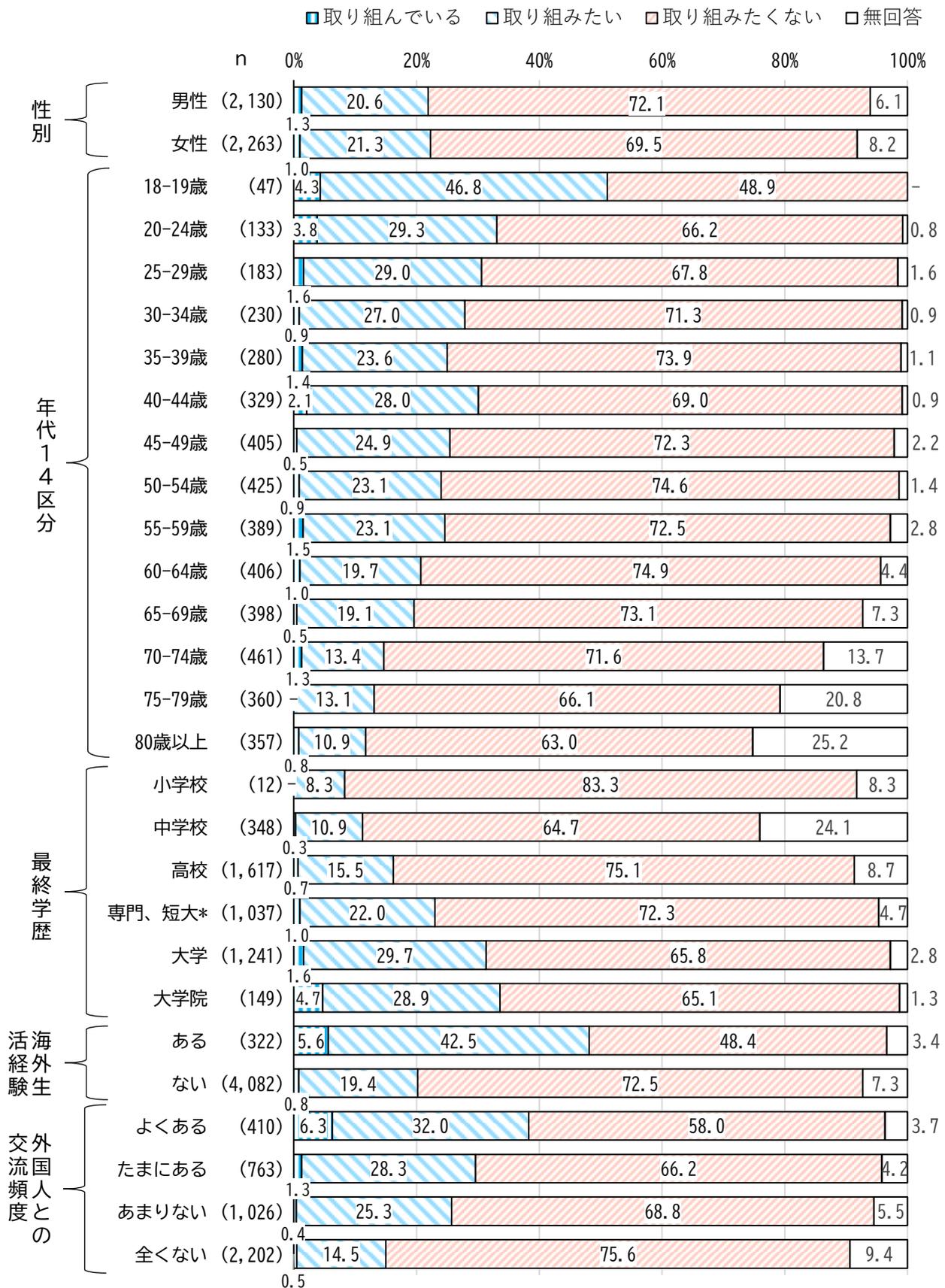
年代別にみると、「取り組んでいる」は18-19歳が66.0%、20-24歳が33.1%、25-29歳と30-34歳で2割台となっており、年代が上がるにつれて低くなる傾向となっている。

最終学歴別にみると、「取り組んでいる」は最終学歴が上がるほど高くなる傾向があり、大学院で38.9%、大学で22.9%となっている。「取り組みたい」は専門学校、高専、短大で60.6%、大学で55.0%となっている。

海外生活経験別にみると、「取り組んでいる」は“ある”が40.7%、“ない”が10.7%と、“ある”が30.0ポイント上回っている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高いほど「取り組んでいる」は高く、“よくある”で34.6%となっている。

クロス集計／◎日本語教師や通訳者として活動する



*専門学校、高専、短大

⑥日本語教師や通訳者として活動するに対する現状を性別にみると、「取り組みたい」は男女とも2割台となっている。

年代別にみると、「取り組みたい」は18-19歳で46.8%であるが、それ以上の年代では「取り組みたくない」が6割から7割台と高くなっている。

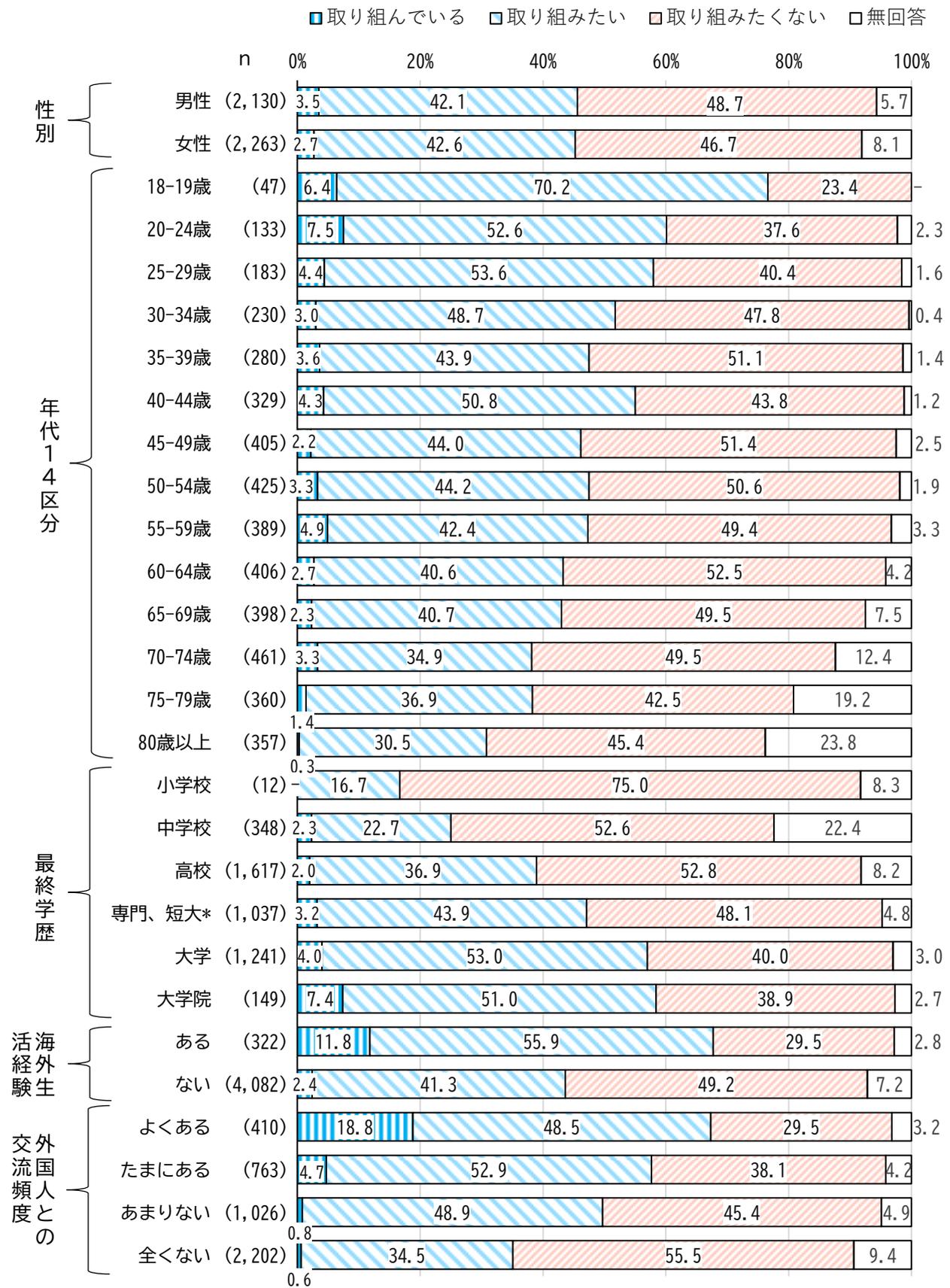
最終学歴別にみると、「取り組みたい」は大学、大学院で約3割となっているが、「取り組みたくない」はいずれも6割から7割台となっている。

海外生活経験別にみると、「取り組みたい」は“ある”が42.5%となっている。「取り組みたくない」は“ない”が72.5%と高くなっている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高いほど「取り組みたい」は高く、“よくある”では32.0%となっている。一方、交流頻度が低いほど「取り組みたくない」は高く、“まったくない”では75.6%となっている。

第2章 アンケート調査結果

クロス集計／⑦日本語や日本の習慣を外国人に紹介する



*専門学校、高専、短大

⑦日本語や日本の習慣を外国人に紹介するに対する現状を性別にみると、「取り組みたい」は男女とも4割台となっている。

年代別にみると、「取り組みたい」は18-19歳で70.2%であるが、年代が上がるにつれて低くなる傾向となっている。

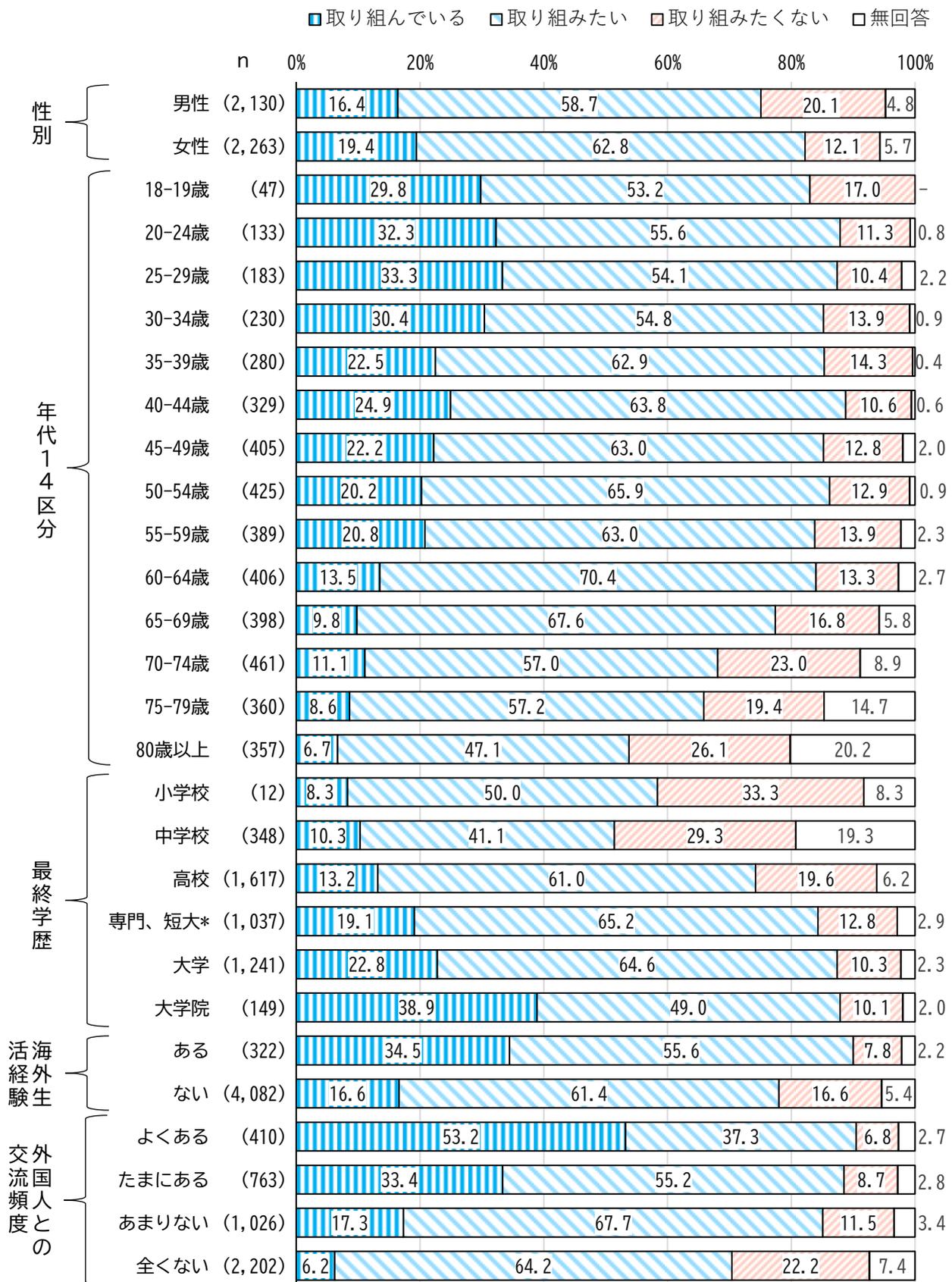
最終学歴別にみると、「取り組みたい」は最終学歴が上がるほど高くなり、大学、大学院で過半数となっている。

海外生活経験別にみると、「取り組みたい」は“ある”が55.9%、“ない”が41.3%で、“ある”が14.6ポイント上回っている。

外国人との交流頻度別にみると、「取り組んでいる」は“よくある”で18.8%であるが、それ以外では1割未満となっている。「取り組みたい」は“たまにある”が52.9%となっている。

第2章 アンケート調査結果

クロス集計／⑧コミュニケーションの際、理解しやすい言葉を使う



*専門学校、高専、短大

⑧コミュニケーションの際、理解しやすい言葉を使うに対する現状を性別にみると、男女とも「取り組みたい」は6割前後となっている。

年代別にみると、「取り組んでいる」は18歳から34歳で3割前後、35歳から59歳でも2割台となっている。「取り組みたい」は79歳までは5割以上で、特に60-64歳では70.4%と他の年代より高くなっている。

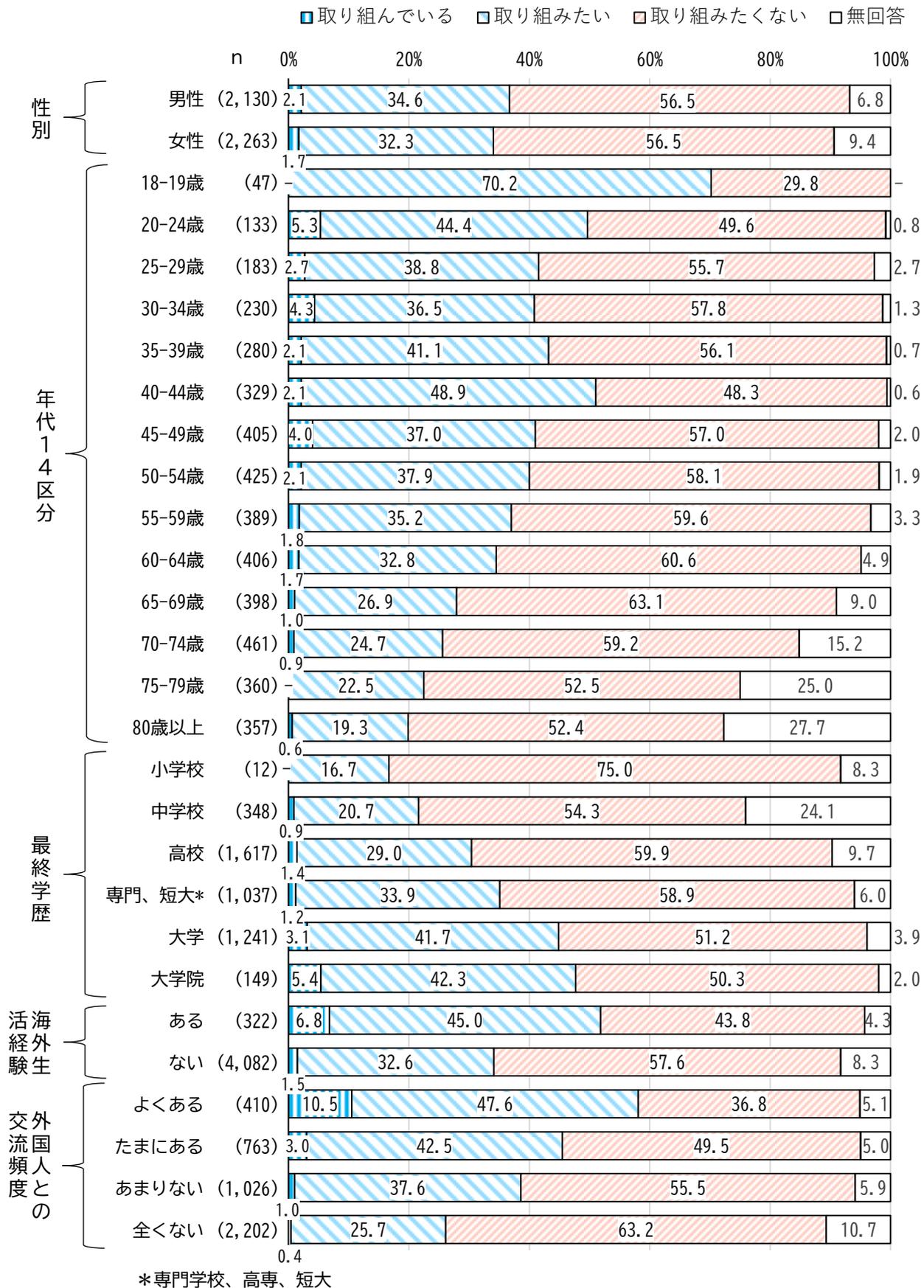
最終学歴別にみると、「取り組んでいる」は最終学歴が上がるほど高く、大学院で38.9%、大学で22.8%となっている。「取り組みたい」は高校から大学で6割台となっている。

海外生活経験別にみると、「取り組んでいる」は“ある”が34.5%、“ない”が16.6%で、“ある”が17.9ポイント上回っている。「取り組みたい」は“ない”が61.4%と、“ある”（55.6%）をやや上回っている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高いほど「取り組んでいる」は高く、“よくある”が53.2%、“たまにある”が33.4%となっている。交流頻度が低いほど「取り組みたい」は高くなる傾向があり、“あまりない”、“全くない”が6割台となっている。

第2章 アンケート調査結果

クロス集計／⑨外国人への理解を促進するための行事や研修を企画する



⑨外国人への理解を促進するための行事や研修を企画するに對する現状を性別で見ると、男女とも「取り組みたくない」が過半数となっている。

年代別にみると、「取り組みたい」は18-19歳で70.2%であるが、年代が上がるにつれて低くなる傾向となっている。「取り組みたくない」は40-44歳を除く25歳以上の年代でいずれも過半数となっている。

最終学歴別にみると、「取り組みたい」は最終学歴が上がるほど高く、大学、大学院で4割台となっている。「取り組みたくない」はいずれも過半数となっている。

海外生活経験別にみると、「取り組みたくない」は“ない”が57.6%で、“ある”（43.8%）を13.8ポイント上回っている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高いほど「取り組みたい」は高く、“よくある”、“たまにある”が4割台となっている。交流頻度が低いほど「取り組みたくない」は高く、“全くない”で63.2%となっている。

(2) 取り組む上での課題（「(1)現状」の回答別）

単位：%

「取り組んでいる」の回答者の課題	n	仲間がいない	場がない	お金がない	時間がない	その他	特にない	無回答
①日常から、身近な外国人とあいさつをする	967	8.6	19.3	2.9	6.5	4.0	59.0	9.8
②国際交流・多文化共生イベントに参加する	110	10.9	19.1	6.4	20.9	3.6	41.8	14.5
③地域で行われるお祭りや行事などに外国人を誘う	135	10.4	11.9	5.9	11.1	5.2	51.1	16.3
④外国の文化、習慣を学ぶ	406	7.1	13.3	6.9	13.3	4.4	62.6	6.4
⑤外国語を学ぶ	566	6.5	8.5	12.4	26.7	7.8	48.6	7.6
⑥日本語教師や通訳者として活動する	50	18.0	24.0	18.0	14.0	2.0	42.0	14.0
⑦日本語や日本の習慣を外国人に紹介する	135	7.4	17.0	7.4	12.6	5.9	53.3	12.6
⑧コミュニケーションの際、理解しやすい言葉にする	791	8.1	13.0	1.8	4.8	7.5	65.5	7.8
⑨外国人への理解を促進するための行事や研修を企画	84	3.6	8.3	8.3	13.1	8.3	63.1	8.3

※濃い網掛けは、①～⑨の項目ごとの最大値と最大値から2.0ポイント以内の値（その他、特にないを除く）

取り組んでいると回答した方の課題は、いずれも「特にない」が最も高くなっている。課題があるものでは、「場がない」、「時間がない」の2項目が高くなっている。

単位：%

「取り組みたい」の回答者の課題	n	仲間がいない	場がない	お金がない	時間がない	その他	特にない	無回答
①日常から、身近な外国人とあいさつをする	2,683	24.1	70.6	3.7	9.8	3.3	13.9	2.5
②国際交流・多文化共生イベントに参加する	2,188	23.9	65.1	9.0	29.8	3.5	8.6	1.6
③地域で行われるお祭りや行事などに外国人を誘う	2,485	36.7	53.3	5.2	17.3	4.7	13.4	1.8
④外国の文化、習慣を学ぶ	2,534	21.9	55.6	12.0	31.8	4.2	13.0	2.1
⑤外国語を学ぶ	2,265	15.3	34.7	29.7	48.3	6.8	12.1	1.9
⑥日本語教師や通訳者として活動する	931	15.6	50.4	18.3	36.3	14.5	13.1	1.7
⑦日本語や日本の習慣を外国人に紹介する	1,873	23.4	61.1	8.4	27.6	6.9	13.3	2.0
⑧コミュニケーションの際、理解しやすい言葉にする	2,694	16.4	51.6	3.1	11.2	8.1	28.0	2.7
⑨外国人への理解を促進するための行事や研修を企画	1,480	20.0	56.4	8.4	23.6	8.4	17.6	2.0

※濃い網掛けは、①～⑨の項目ごとの最大値（その他、特にないを除く）

取り組みたいと回答した方の課題は、ほとんどの取組で「場がない」があげられ、⑤外国語を学ぶ取組の課題では「時間がない」が他の取組より高くなっている。

単位：%

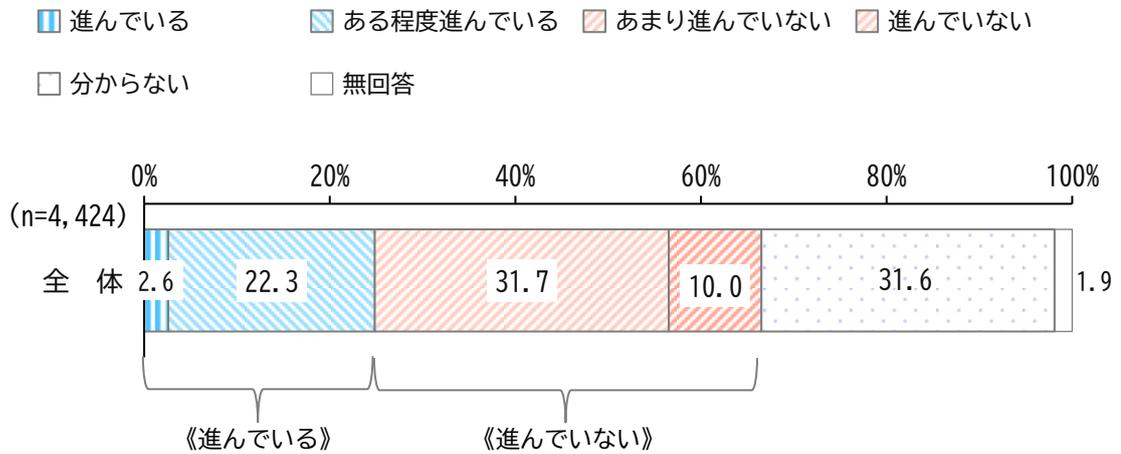
「取り組みたくない」の回答者の課題	n	仲間がいない	場がない	お金がない	時間がない	その他	特にない	無回答
①日常から、身近な外国人とあいさつをする	571	16.8	33.6	6.0	12.8	11.0	42.4	3.5
②国際交流・多文化共生イベントに参加する	1,843	16.9	26.0	7.5	33.0	9.7	33.0	3.4
③地域で行われるお祭りや行事などに外国人を誘う	1,498	21.8	26.6	5.7	21.4	10.7	36.0	3.7
④外国の文化、習慣を学ぶ	1,202	11.3	21.3	7.8	24.2	9.6	44.9	4.8
⑤外国語を学ぶ	1,311	8.2	17.0	14.4	27.8	12.3	41.4	4.6
⑥日本語教師や通訳者として活動する	3,125	6.6	14.8	7.4	25.6	22.8	40.2	4.1
⑦日本語や日本の習慣を外国人に紹介する	2,107	8.8	19.7	4.9	26.3	17.0	41.1	3.4
⑧コミュニケーションの際、理解しやすい言葉にする	703	7.4	21.2	5.5	15.9	9.1	53.8	5.3
⑨外国人への理解を促進するための行事や研修を企画	2,498	9.4	25.0	5.9	24.6	15.0	40.8	3.0

※濃い網掛けは、①～⑨の項目ごとの最大値と最大値から2.0ポイント以内の値（その他、特にないを除く）

取り組みたくないと回答した方の課題は、「特にない」が最も高くなっている。課題があるものでは、「時間がない」、「場がない」の2項目が多くあげられている。

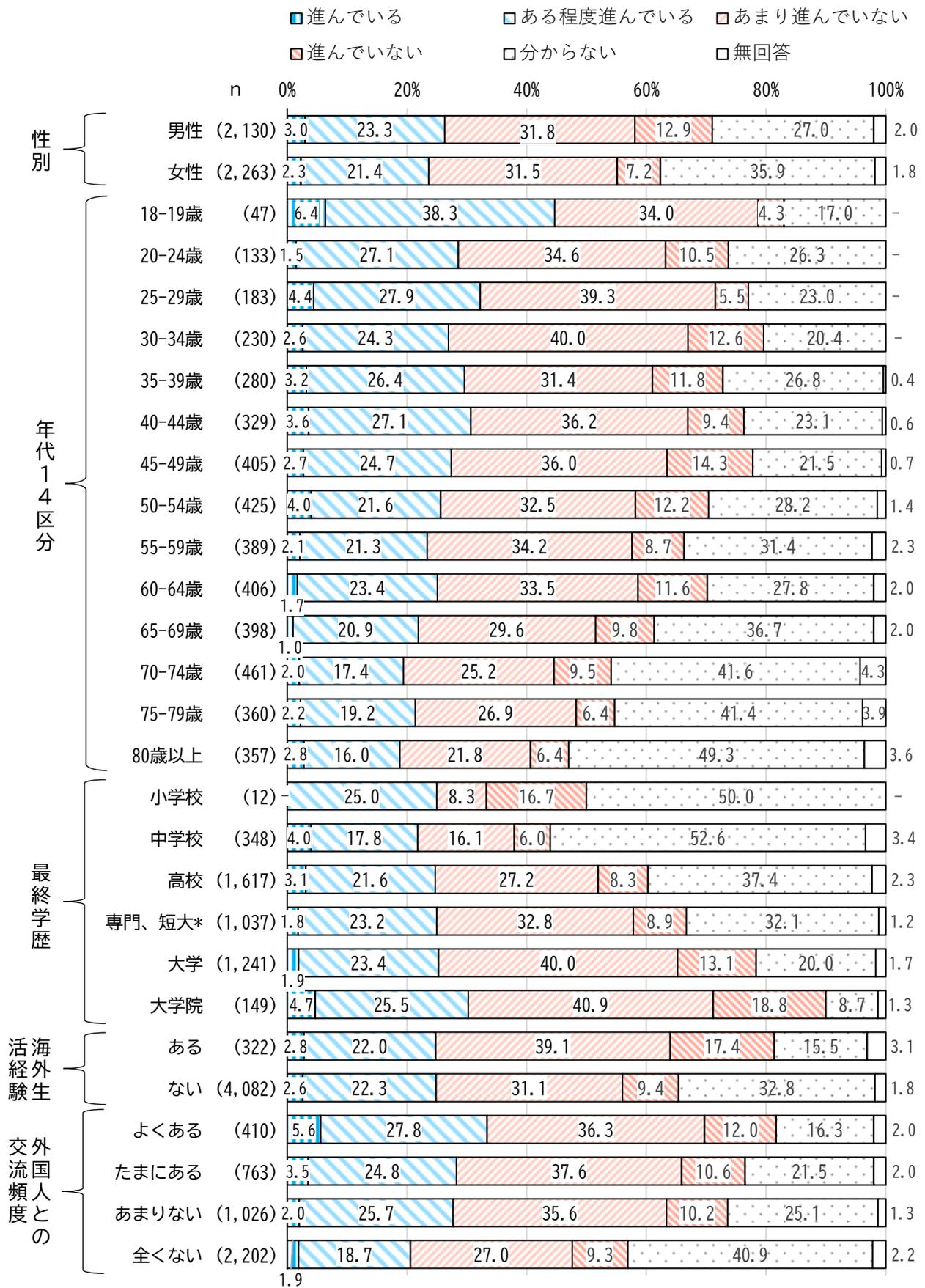
(5) 外国人の受入れ環境整備

Q25 日本の外国人を受け入れる環境整備の現状をどのように考えますか。(1つ選択)



外国人を受け入れる環境整備の現状は「進んでいる」が2.6%、「ある程度進んでいる」が22.3%で、両者を合わせた《進んでいる》は24.9%、一方、「あまり進んでいない」は31.7%、「進んでいない」が10.0%で、両者を合わせた《進んでいない》は41.7%となっており、受入れの環境整備は進んでいないと考える人が多い。

外国人の受入れ環境整備（クロス集計）



*専門学校、高専、短大

第2章 アンケート調査結果

外国人を受け入れる環境整備の現状を性別にみると、男女とも《進んでいない》は4割前後となっている。

年代別にみると、《進んでいない》は20歳～64歳は4割から5割台で高くなっている。70歳以上では「分からない」が4割台で最も高くなっている。

最終学歴別にみると、最終学歴が上がるほど《進んでいない》が高くなる傾向がある。

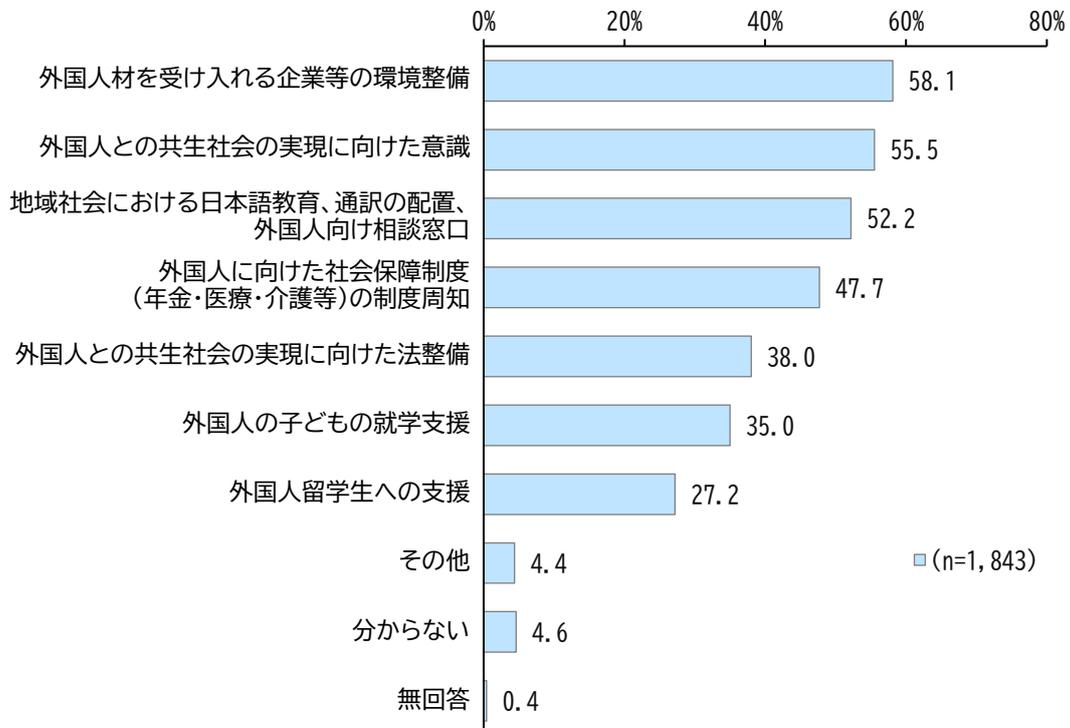
海外生活経験別にみると、海外生活経験がある方が《進んでいない》が高くなっている。

外国人との交流頻度別にみると、交流頻度が高いほど、《進んでいない》が高くなっている。

(6) 受入れ環境整備が進んでいないと思う部分

【Q25で「あまり進んでいない」「進んでいない」を選択された方】

Q25-1 どのような部分が進んでいないと考えますか。(あてはまるもの全てを選択)



外国人を受け入れる環境整備が進んでいないと回答した方に、どのような部分で受入れが進んでいないか尋ねたところ、「外国人材を受け入れる企業等の環境整備」(58.1%)、「外国人との共生社会の実現に向けた意識」(55.5%)、「地域社会における日本語教育、通訳の配置、外国人向け相談窓口」(52.2%)の3項目が5割台となっており、これに「外国人に向けた社会保障制度(年金・医療・介護等)の制度周知」が47.7%で続いている。

第2章 アンケート調査結果

受入れ環境整備が進んでいないと思う部分（クロス集計）

単位：%

		n	外国人の子どもの就学支援	外国人留学生への支援	外国人材を受け入れる企業等の環境整備	外国人に向けた社会保障制度（年金・医療・介護等）の制度周知	地域社会における日本語教育、通訳の配置、外国人向け相談窓口	外国人との共生社会の実現に向けた意識	外国人との共生社会の実現に向けた法整備	その他	分からない	無回答
全体		1,843	35.0	27.2	58.1	47.7	52.2	55.5	38.0	4.4	4.6	0.4
性別	男性	952	36.3	28.5	60.1	48.8	52.7	54.5	39.8	5.1	4.1	0.3
	女性	876	33.6	26.0	56.2	46.5	51.6	56.4	36.0	3.5	5.1	0.5
年代14区分	18-19 歳	18	38.9	33.3	55.6	44.4	44.4	55.6	33.3	-	-	-
	20-24 歳	60	30.0	20.0	40.0	40.0	41.7	61.7	35.0	8.3	8.3	-
	25-29 歳	82	30.5	29.3	52.4	35.4	43.9	48.8	40.2	4.9	6.1	-
	30-34 歳	121	32.2	27.3	56.2	37.2	47.1	52.9	34.7	7.4	5.0	0.8
	35-39 歳	121	26.4	19.8	51.2	39.7	44.6	55.4	28.1	6.6	5.8	-
	40-44 歳	150	38.7	25.3	56.0	48.7	44.7	60.7	39.3	6.7	4.7	-
	45-49 歳	204	32.4	22.5	52.0	39.2	40.7	54.4	35.3	4.4	6.4	0.5
	50-54 歳	190	32.6	27.4	60.0	47.9	57.4	67.9	41.1	3.2	2.6	-
	55-59 歳	167	31.1	22.2	52.1	44.3	49.1	56.3	39.5	5.4	6.0	0.6
	60-64 歳	183	33.9	21.9	59.6	49.7	54.6	55.2	33.9	3.8	5.5	1.1
	65-69 歳	157	38.2	25.5	62.4	52.9	64.3	52.9	38.2	1.9	4.5	-
	70-74 歳	160	50.0	40.0	63.8	61.3	66.9	50.6	48.8	3.8	2.5	-
	75-79 歳	120	40.0	40.8	75.8	61.7	61.7	55.0	45.0	1.7	1.7	-
80歳以上	101	33.7	32.7	67.3	57.4	52.5	44.6	31.7	3.0	3.0	2.0	
最終学歴	小学校	3	33.3	-	66.7	-	33.3	66.7	33.3	-	-	-
	中学校	77	35.1	33.8	64.9	46.8	51.9	40.3	26.0	3.9	5.2	1.3
	高校	575	32.5	25.4	56.3	45.6	52.7	51.0	36.0	3.1	6.4	0.3
	専門、短大*	432	31.5	26.9	58.6	48.8	52.3	61.3	40.5	4.2	3.5	0.2
	大学	658	39.1	28.6	58.4	49.1	51.7	56.7	39.2	5.0	4.3	0.5
	大学院	89	38.2	25.8	58.4	49.4	53.9	61.8	41.6	10.1	-	-
海外経験	ある	182	42.3	26.9	56.0	52.7	57.1	57.7	45.1	6.6	2.7	0.5
	ない	1,653	34.2	27.2	58.3	47.1	51.5	55.3	37.3	4.2	4.8	0.4
外国人との交流頻度	よくある	198	29.3	24.7	56.1	50.5	54.0	56.6	39.4	7.6	3.5	0.5
	たまにある	368	36.4	28.8	57.1	44.8	53.3	62.5	39.4	4.9	3.8	0.5
	あまりない	470	34.7	24.7	56.4	46.4	54.3	54.9	38.1	4.3	2.8	0.4
	全くない	800	35.9	28.5	60.1	49.0	50.1	52.6	37.0	3.4	6.3	0.4

*専門学校、高専、短大 ※濃い網掛けは、各区分の最大値と最大値から2.0ポイント以内の値（その他、分からないを除く）

受入れ環境整備が進んでいないと思う部分を性別にみると、男性は「外国人材を受け入れる企業等の環境整備」が60.1%、女性は「外国人との共生社会の実現に向けた意識」が56.4%で最も高くなっている。

年代別にみると、25-34歳、および65~74歳を除く60歳以上では「外国人材を受け入れる企業等の環境整備」が最も高くなっている。20~24歳、35歳から59歳では「外国人との共生社会の実現に向けた意識」が最も高くなっている。

最終学歴別にみると、中学校、高校、大学では「外国人材を受け入れる企業等の環境整備」、専門学校、高専、短大、大学院では「外国人との共生社会の実現に向けた意識」が最も高くなっている。

海外生活経験別にみると、海外生活経験がある人が、ない人よりも高い項目では「外国人の子どもの就学支援」が8.1ポイント差、次いで「外国人との共生社会の実現に向けた法整備」が7.8ポイント差となっている。

外国人との交流頻度別にみると、“よくある”と“全くない”で特に差が大きい項目は「外国人との共生社会の実現に向けた意識」が4.0ポイント差、「地域社会における日本語教育、通訳の配置、外国人向け相談窓口」が3.9ポイント差で、交流頻度が高い方が、高くなっている。一方で、“全くない”が“よくある”より高い項目では「外国人の子どもの就学支援」が6.6ポイント差となっている。

(7) 調査に対する意見（自由記述）

Q26 最後に、本調査に関して何かご意見があれば自由にお書きください。

Q26の自由記述を分類するにあたり、Q13（地域社会に外国人が増えることに対する感情）の回答を基に、三つに分類を行った。

Q13での回答	Q26自由記述 件数
《好ましい》と回答した方の意見	315 件
《好ましくない》と回答した方の意見	370 件
「どちらともいえない」と回答した方の意見	478 件

以下、代表的な意見をいくつか参考に掲載する。

なお、掲載している意見については、回答者の意見をあくまでも一つの意見として掲載¹しているものであり、必ずしも全ての意見が事実に基づいているものとは限らない。

【《好ましい》と回答した方の意見（315件）】

① 外国人との共生について

- ・国境を越えた国際的な人的関係は既に始まっている。単一国家のみでは許されずグローバルな交流・共生が求められると思う。
- ・日本の国力を上げる為には他人種を受け入れる多様性を認める事が重要である。
- ・日本の避けられない少子高齢化の中で、外国人と共生できる社会にしていくことが不可欠。その為には日本人の意識改革が不可避と思う。
- ・お互いが尊敬し合い、住みやすい環境に臨機応変に変更していけば良いのではないかな。

② 外国人の受入れ環境の整備について

- ・外国人を会社へ受け入れる際の手続きが面倒というイメージがある。ハードルが高い。
- ・外国籍の方やその子どもたちが、よりよく生活できるためには、人的サポートは欠かせないと思います。特に、就学前経済的な理由等で保育園や幼稚園に通えない子どもたちが日本語を学ぶための場合は、絶対不可欠だと考えます。
- ・専門的な知識や技能を持った外国人が過ごしやすい環境であってほしい。単に不足する労働力を補うだけはやめてほしい。
- ・外国人に対する支援や環境整備は必要。半面、納税などの義務の明確化と運用、日本国民との権利・義務面での明確な線引きと運用も欠かせない。
- ・外国人一人ひとりに向けた充実した支援、相談窓口が必要だと考えます。

¹ 明らかな誤字脱字等については、修正を加えている場合がある。

③ 仕事について

- ・受け入れは進んでいると思うが、その後の各所の対応に課題があると思う。周囲に馴染まずに、すぐ仕事を辞めてしまう外国人もいる。
- ・外国の方にとって、日本で働きたくなるような魅力的な国にならないと、働きに来てもらえないのでは?と危惧しています。

④ 差別・偏見について

- ・日本はまだまだ外国人に対しての偏見が多いように感じます。それは日常的に外国の方と関わる機会が少ないからだと思います。交流できる場を作ることが大事かと思います。
- ・私の職業では外国人を受け入れることがとても大事なので、偏見等はありません。(公立学校) A E T の外国語の先生もいて、子どもたちとの関係も良好です。クラスにも外国人の子がいます。1人1人の日本人の認識がとても重要で、温かくむかえる気持ちがあればと思います。
- ・アメリカ人の夫と日本でアパートを探していた時、外国人だからや、どこの国出身かで内見すらできない物件もありました。手続き等も大変でした。市役所へ行くと必ずなぜか在留カードを求められます。差別ではなく区別をしているのかもしれませんがとても不快です。こういう問題が改善して初めて国際社会と言えらと思います。
- ・日本人は、外国人に対して、苦手意識や、差別意識が強いと思います。テレビ、CM、SNSで、知る機会や、意識づけをしてほしいです。
- ・外国の方は、皆「日本が好き」と言ってくれるので、いつも嬉しい。ずっと好きでいてもらう為にも、移住しやすく、暮らしやすくなって欲しい。職場等でも、まだ差別を感じるシーンが多くあるとよく聞きます。差別するのではなく、日本に来て働いてくれる彼らをもっと敬い、トラブルや不安を軽減させていくべき。出産、育児、教育の場でも、日本人の子どもと分けへだてなく、周りに支えられ、成長していく世の中になってほしい。
- ・自分が外国人に対して偏見がある事を認識する機会になった。

⑤ 外国人には日本のルール、習慣等を学んでもらいたい

- ・外国人の方が日本に来る前に、日本語・日本の習慣を知った上で専門的なスキルを身に付けてほしい。
- ・交通法規を守って欲しい。
- ・郷に入っては郷に従えで、外国の人もマナーを守って生活していくと周りともうまくいくと思います。
- ・日本社会の中で外国の人と共生していくには、外国の人にはまず日本語教育だと思います。そして日本人も外国語の習得や文化・習慣などに理解を深めるべき。お互いが学習しないといけないと感じます。

⑥ 外国人との交流について

- ・外国人と接したいと思いますが、なかなか機会がない。接する場はもっと宣伝して欲しい。
- ・外国の方との交流は素敵だと思うが、学生の時の学校にいる外国の先生との交流とは違って、社会においてはハードルが高いと感じている。自分から話しかけるには勇気が必要だ。
- ・サークル活動や、スポーツ活動でも外国の方と交流を図れる場がほしい。
- ・沢山の技能実習の方がいらっしゃるが、交流はほとんどない。在留の様態により、社会・地域との関わりはだいぶ違うと思う。より多くの在留外国人の方々と、日常的に関われたらと思う。

第2章 アンケート調査結果

- ・交流が必要で、日本の社会も対応していく必要があることはわかっているが、互いに警戒していたりきっかけがなかったりして、うまくいかないのが現状ではないでしょうか。

⑦ 治安悪化への懸念

- ・外国人が犯罪を犯すニュースを見てしまうと、どうしても偏見が生じてしまいます。
- ・どこの国にも良い人と悪い人が居ります。
- ・文化、習慣の違いによるトラブルが考えられるので、外国人向け相談場所の設置、治安維持の為の対策（警官の増員 他）が必要。

⑧ 身近に外国人がおらず、分からない

- ・住居が山間部で外国人を見かける事は全くない。
- ・身近に外国人がいないから実感がない。
- ・近所に外国人が住んでいないので正直、よくわかりません。

⑨ その他

- ・今後もこのような調査を継続して行って欲しい。日本人の意識改革につながると思う。
- ・外国人だからと差別することなく平和な社会になってほしいと願っています。
- ・外国人といっても欧米、アジア、アフリカ他地域や、観光客など、その背景が違うので、外国人の範囲が広すぎるので、もう少し絞って議論する必要があるのでは？
- ・もう少し啓発活動をしてから、アンケート協力をお願いしてはどうかと思いました。
- ・今は身近に外国人を見掛ける事はあまり無い為、具体的な考えも無かったですが、回答する中で考える機会を頂きました。私のようにこの調査が啓発に繋がりますようにと思います。

[《好ましくない》と回答した方の意見 (370件)]

① 外国人の受入れ等に抵抗・不安がある

- ・安易な外国人の受入れに抵抗がある。
- ・身近な外国人はあまりルールを守る人ではない方が住んでいるので、不安がある。
- ・外国人が集中した地域が生まれ、その地域が外国化するのは良くないと感じる。

② 治安悪化への懸念

- ・労働力として外国人が必要かもしれないが、あまり入ってくると治安が心配である。
- ・日本のマナーを守れる人なら問題はないと思う。治安の悪化だけが不安に思う。

③ 日本人への支援等を厚くするべき

- ・留学生への支援が手厚い。日本の学生を支援して欲しい。
- ・共生社会も大事だが、その前に自分の生活を維持して行くのが大変です。
- ・生活保護などの行政支援は、まず日本人が受けられるようにするべき。
- ・日本国民の賃金上げや子育て支援、学力向上、教育支援に力を入れてほしい。
- ・外国人を増やすことよりも日本人の人口が増えるような政策を取るべき。

④ 外国人には日本のルール、習慣等を学んでもらいたい

- ・外国人の方々には日本の法律を勉強してもらい、そしてマナーを順守してもらいたいです。
- ・まずは日本語を学んだうえで、自分から日本の社会に馴染む姿勢が大事だと思う。
- ・共生するためには、大前提としてその国のルールや文化を守ることからだと思う。
- ・地域でのマナーや交通ルール等を教えてあげる人がいないのでしょうか。教えることが必要なのではと思います。そうやって改善されれば地域ともなじむのでは、と思います。
- ・日本人が海外の人への理解を示すことも大切であるが、海外から日本へ来る人達の選択や、ある一定期間のサポート、外国人を雇う側へのサポートも大切だと考える。
- ・外国人には地域のルールを守ってもらえるよう、住所登録をする際には書類や、口頭での説明をして、理解してもらえるように努力してもらえたらと思います。
- ・外国人の受け入れに関して、受け入れる側の企業が彼らとその家族を日本人と共生できるような教育をしていないことが大きな問題の一つで、結局彼らは自身のコミュニティを作ってしまう、分断が起きていると思う。

⑤ 外国人との共生について

- ・まず共生ありき、といった聞き方をされるのはあまり愉快的なものではない。しかしながら既に一部地域では外国人との軋轢を生んでいる今の状況で、国の機関がアンケートで一国民の意見を聞いてくださることには感謝している。
- ・外国人との共生については基本的に賛成できません。しかしながら、昔の入管法のように限定的に高度な知識、技術を持つ外国人を受け入れ続けることは必要ですので、そういった外国人と共生していくことは重要だと思います。

第2章 アンケート調査結果

- ・報道で外国人の犯罪を見る事が多く不安を感じます。知識豊かな向上心高い外国人は大いに共生できると思います。
- ・昨今、外国人の犯罪について報道されています。一部の外国人によるものかとは思いますが、不法滞在等の法令遵守がされない中では共生は難しいと思います。
- ・外国の方が日本に税金を納めるのでなければ、外国人労働者に納得できない。
- ・現在日本に居住している外国人の、国民年金や社会保険料等の公共料金の未払いは納得できません。

⑥ 差別・偏見について

- ・時節に応じた良い調査だと思います。今現在私は高校教育を受けていますが、日本人・外国人に対する潜在的な差別・偏見をなくすには教育の場での啓発が重要だと思います。
- ・外国人であろうが、日本人であろうが、互いを思いやる気持ちを持っていれば、トラブルも少なくなると思うので、根本的に人としての対応力だと思います。全ての人が、住みやすい社会になればと願います。

⑦ その他

- ・色々な制度について知らない事が多いなと感じました。この調査でもっと良い社会になる動きが少しでも進めば良いなと思います。
- ・日本に外国人の方が移住する際に外国人が日本のルール、マナー等を守る事ももちろん必要と思いますが、日本人側も外国人に対する否定的、閉鎖的な考えを改めていかなければいけないと思います。でも大人が考えを変える事はなかなかむずかしいです。子どもの頃から学校で外国人との共生について学ぶ機会が増えたら、時間はかかるけれども良い方向に向かうのかなと思いました。
- ・このアンケートを機会に外国人との交流をなるべく多く取り参加したい。
- ・外国人が増えていることを近年感じる機会が増えてきています。良いこととは思いますが、一方で、日本の古き良き風習が忘れられ、外国の方の勢いにおされつつあることに、不安を感じる事もあります。このアンケートに回答する事で、あらためて、考える事ができました。
- ・生活者のありのままの意識を把握するためのこのような取組は、行政への信頼度upにつながると思います。生活者の意識とあまりにもかけ離れた政策が多いと感じていたので、なおさらです。
- ・外国の人との交流はグローバル社会において必然だと思いますが、多くの人がそう思う前に、すでに外国の人が身近なところで増加しており、不満を感じる人が増えています。学校や企業が個人に交流の場を提供しないと積極的に関わろうと思うのは難しいです。
- ・外国人と言っても国籍により、日本人はこの国はok、そちらはnoと思いがちだと思いますので子供達の小さい頃から教育して行く必要があると思います。
- ・外国人と言っても欧米、南米、東南アジア、東アジア、西アジアやその人それぞれで違い、外国人一括りの回答は難しい。
- ・都市部と地方では、外国人に対する認知度に差が有る様な気がします。
- ・社会保障制度の良い所取りだけをされて本気で共生する気のない外国人に良い様に利用されるだけの制度作りをやめて頂きたい。
- ・外国人とひとくくりに扱うべきではありません。正当な手続きを踏み入り、日本と日本人をリスペクトしている外国人を大切に、逆に不法に入国している人、日本と日本人が嫌いな外国人はすぐに出て行って欲しいし、国がそのように取り組むべきだと強く思います。

【どちらともいえないと回答した方の意見（478件）】

① 身近に外国人がおらず、分からない

- ・外国人に接する機会がないので質問の賛否に答えにくい。
- ・身近に外国人がいる前提みたいな質問が多いと思う。自分の周りには外国の方はいないので回答に困る部分もあった。
- ・身近に外国の方をみかけることが少ないので、なじみがないということが問題だと思う。
- ・都市部に比べると外国の方に出会う機会は少なく、普段の生活で意識して考えることがあまりありません。

② 日本の外国人に関する社会制度、教育について

- ・外国人の労働条件の改善と遵守。
- ・外国人受け入れについては、安い労働力として多く来ていただくのではなく、日本人と同等と考え、お互いを知り合う関係を築けるようにしたい。
- ・外国人を単なる労働力不足を補う者や、インバウンドでお金を落としていく者というように見たり考えたりする日本人の意識を改めるものとして役立てていただきたい。
- ・日本に住むのなら同じ法律のもと、職業の選択も自由にすべき。人口減が進むなら外国人にたよるしかない。

③ 外国人との共生について

- ・将来日本人口が減っていくのでもっと外国人を受け入れるべき。日本を愛する人はたくさんいると思う。
- ・将来人口減少により働き手が（外国人も）必要となるでしょう。その時は出来る限り協力、仲良くしていきたいと考えています。
- ・条件は必要だが、外国人を受け入れていく必要がある。
- ・どんなに日本人だけで団結してがんばっても世界とズレてしまい解決できない事案が多く発生しています。アジアの人達とも広く交流しながらやっていくことが大切です。どんな国の人もちがいを受け入れながら認め合い、お互いに尊重し合いながら助け合いの精神でまざり合う方向で行くのが良いと思います。
- ・将来的には、外国人との共生社会になるのかなと考えます。平和的に共生する為のさまざまな環境を整えて行くことが大切だと思います。
- ・政府におかれましては、法務省以外にも、他の省庁との横のつながりを持って外国人との共生に関する政策を進めて頂く様お願い致します。
- ・私の住む地域では農業県であり農作業に農業実習生の人達がかなり居ますが時々生活習慣の違いからトラブルをおこしたり余り良い話は聞かないです。日本も少子高齢化、働き手の減少で必然的に外国人の就業者が必要かつ受け入れなければならない状況になって来ています。これらのアンケートを基に外国人を受け入れる環境整備を進めて頂き、日本が働きやすく住みやすいと言われるよう日本国の為にも頑張ってもらいたいです。
- ・日本人の外国人に対する不満にももっと目を向けるべきだと感じる。

第2章 アンケート調査結果

- ・身近なところに外国籍の方は見当りませんが、ニュース等ではマイナスの事件などの報道が多く、もっと、共生している様々な事例が紹介されればと思います。またこのようなアンケートが多くの人にされることにより、外国人との共生について、身近に感じられると良いと思います。
- ・日本人側も外国人側も歩み寄る必要があると思う。但し、外国人本人らが望まないのに周りがやり過ぎるのは良くないと思う。
- ・国は、外国人との共生の実現に向けて、取り組んでいるのなら、国民にもっとわかりやすく、説明すべきだと思います。何かよくわからないうちに、外国人が増えたぞみたいな感じではいけないと思う。

④ 外国人の受入れ環境整備について

- ・娘の小学校に外国人が転入してきて子どもたちは声を掛けたり（話したいから外国語の勉強を始めた子もいた）一緒に行動したりしていたが教師が強くて当たった事があったらしく小学校をやめてしまいました。とても悲しいと娘が言っていました。外国人の就学・就業支援は必要だと思います。
- ・取り組むことは良いことで、徐々に進歩していると思います。ですが、進捗が良いかという決してそうではなく、まだまだ発展途上です。「ある程度進んでいる」で満足するのではなく、より良い環境、より良い日本を目指しましょう。一人でも多くの人（国籍問わず）が、前向きに笑って過ごせる国は魅力的だと思います。
- ・地域により外国人の居住数も異なるため共生に向けての取り組み方に工夫が必要と感じる。
- ・日本語のわからない子供が小学校に行けるような環境を作ってほしい。

⑤ 外国人との交流について

- ・外国人のあまりいないところで育っているので子どもが、外国人を見ると「こわい」と言う。「こわくない」と伝えるよりいろんな人がいるということがあたり前であるという環境が必要だと思う。自身のことだと、外国人だからどうということだけでなく日本人同士でも「交流の場」というものが苦手だから、場を設けるより、自然におとなりさんとの交流みたいな感じでしか交流できないと思う。
- ・これを機に外国人の方との交流の機会があれば、交流してみようと思いました。
- ・外国人、外国語のチャンスがない。若い頃から交流できるようなくみ、生活ができればと思います。
- ・気軽に集まれて、外国語教室など無料で交流できる場をもっと作ってほしい。出張講座のような感じで。

⑥ 外国人には日本のルール、習慣等を学んでもらいたい

- ・日本人は、海外へ行く時、言葉や文化をある程度学んでいくと思います。海外の人は、その逆にそんな文化の国にくるのだから、ある程度は学んで来てほしいです。
- ・ごみの出し方、タバコの吸い方、ルールを守って頂きたいと思います。
- ・日本に来る前に自国で日本のルール、マナーを覚えてから日本に来てほしい。
- ・一口に外国人と言っても様々な生育歴、出身国の社会情勢等の背景を持っているので、新しい日本での生活を送るに際して、日常生活で困らない程度の会話、コミュニケーション能力を持ち、近隣の日本人住民との意思疎通が出来るようにする必要があると思われる。生活習慣、特に宗教に根差したものは、相互に理解していく必要性を強く感じる。

・外国人と一緒に仕事をしています。外国人ならではのトラブルもあります。理解してもらうため、言葉や態度など気をつけてわかりやすく話したりしています。時間もかかります。理解出来なかった事もあります。ただ本人達も努力をしています。とっても助かる事もあります。理解するために時間がかかります。少しずつです。日本語がわからないと何ヵ月指導しても理解出来ない事もありました。日本語の理解力は必要です。

⑦ 日本人への支援等を厚くするべき

・夫のご両親（外国人）と同居していて、すごく仲良くさせてもらって全ての人が迷惑をかけるわけではないので、きちんと日本のルールや習慣に合った人が共生してくれるんだと思う。また、外国人だけに優遇するのではなく日本人の学生に奨学金返済を免除したり、日本人が生活で困った時生活保護を受ける対象者の緩和など日本人に対してより生活しやすくなる対応を期待したい！

・外国人のサポートも良いが、まず日本国民へのサポート、子供達のサポートが優先だと思う。

・外国人の共生は歓迎しますが、生活保護や、学費の免除など、日本の学生の学費の免除を優先してあげて欲しいと思います。

⑧ 差別・偏見について

・外国人も、日本人も同じ人間なので差別や偏見のない日本でありたい！

・全ての国の人に対して、皆が習慣の違いを理解し、偏見を持たないことが重要だと思います。

・問題が起きて対策を考えることは当たり前ですが、根本的に差別をしない教育をする。現状、差別があるとすれば時代背景からくるものと思われまます。歴史を生きてきた人、知っている人の考えや解釈で問題が起きていると思います。問題解決には根本的な原因の解明解決が必要だと思います。

・犯罪を起こす人もいると思うのでそれが心配です。寄りそってあげる事でそういう事もなくなる、と思いますが最初はとまどう事も多くありそうな気がします。まずは、偏見をなくす事からと思うので、道で会った時のあいさつは、続けていきます。

⑨ その他

・中国の方とは付き合いがあるので好意的に接しています。インド料理が好きでよく食べに行っていてインドの方と交流して楽しいなと思ってます。日常にとけこんでる感じだと「〇〇人」という目で見なくなるのかなぁ…と思いました。

・“外国人”という事で、構えすぎている点が多いと思います。まず、“一人の人間”というところから入っていく方が、力が入らず、すんなりといくのでは？壁を越えてからお互いの事、学んでからでも遅くないと（職場では）感じる事、多いです。

・この調査は、日本社会における現状の調査と未来への共生への調査かと思っています。どこの社会であってもお互いに人として、尊重できれば…と考えます。

・外国人といっても、欧米系、アジア系、アフリカ系等、多岐に亘る。一括りの設問自体かなり無理があり違和感を覚えた。

・外国人とコミュニケーションをとる際「やさしい日本語」などの相手が理解しやすい言葉を使うよう心掛ける。

第3章 調査結果取りまとめ

1. 結果の取りまとめ
2. 「地域社会に外国人が増えることに対する感情」別

1. 結果の取りまとめ

今回調査では、有効配布数：9,900票、有効回収数：4,424票、有効回収率：44.7%であった。

下記に、代表的な調査結果をいくつか挙げる。

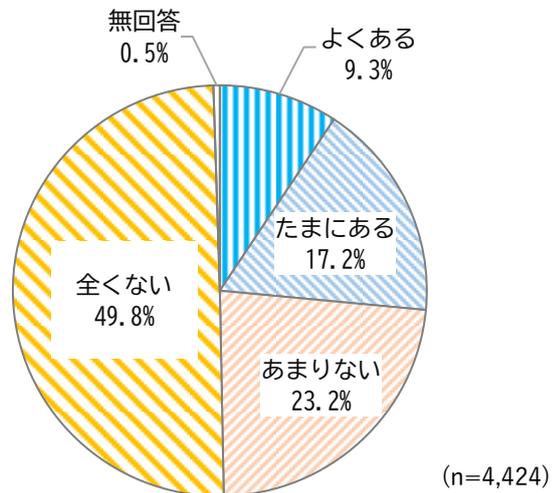
●外国人との交流頻度（Q12）

「よくある」＋「たまにある」

= 《ある》は26.5%

「あまりない」＋「全くない」

= 《ない》は73.0%



●地域社会に外国人が増えることに対する感情（Q13）

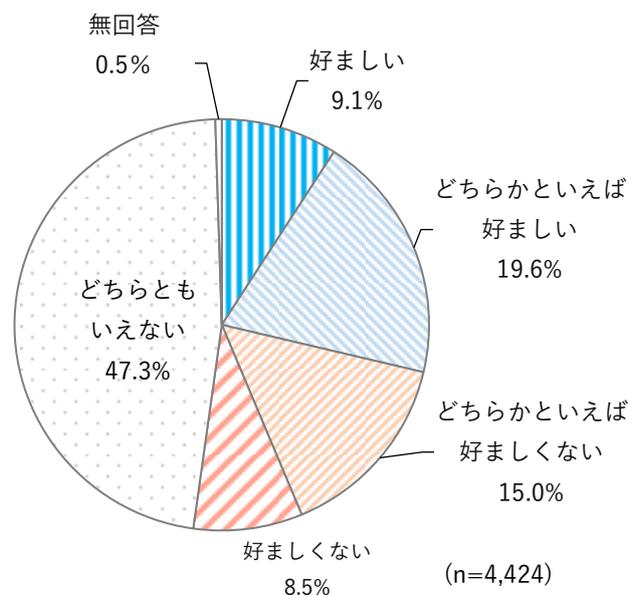
「好ましい」＋「どちらかといえば好ましい」

= 《好ましい》は28.7%

「どちらかといえば好ましい」＋「好ましくない」

= 《好ましくない》は23.5%

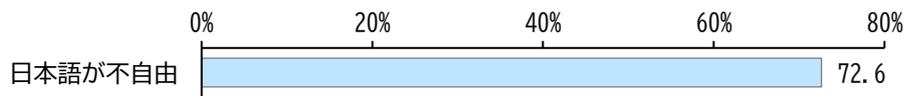
「どちらともいえない」は47.3%



第3章 調査結果取りまとめ

●外国人が困っていると思うこと (Q15)

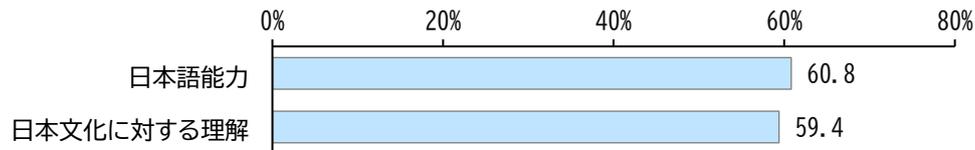
(n=4,424)



日本人が一番外国人が困っていると思う事柄は「日本語が不自由」であること。

●外国人労働者に求めるもの (Q17)

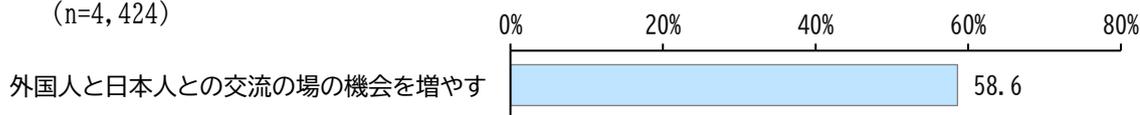
(n=4,424)



日本人が外国人労働者に一番求める事柄は「日本語能力」、次いで「日本文化に対する理解」

●偏見や差別をなくすために必要と思う取組等 (Q20)

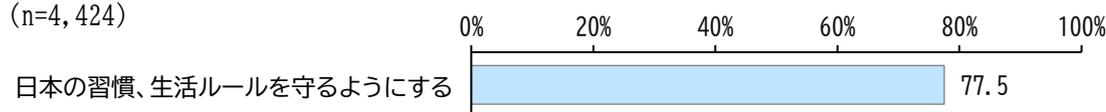
(n=4,424)



日本人が偏見や差別をなくすために必要と思う取組等は「外国人と日本人との交流の場の機会を増やす」

●共生社会実現のため外国人にして欲しいこと (Q22)

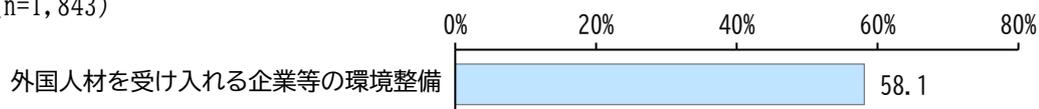
(n=4,424)



日本人が共生社会実現のため外国人に一番して欲しいことは「日本の習慣、生活ルールを守るようにする」

●受入れ環境整備が進んでいないと思う部分 (Q25-1)

(n=1,843)

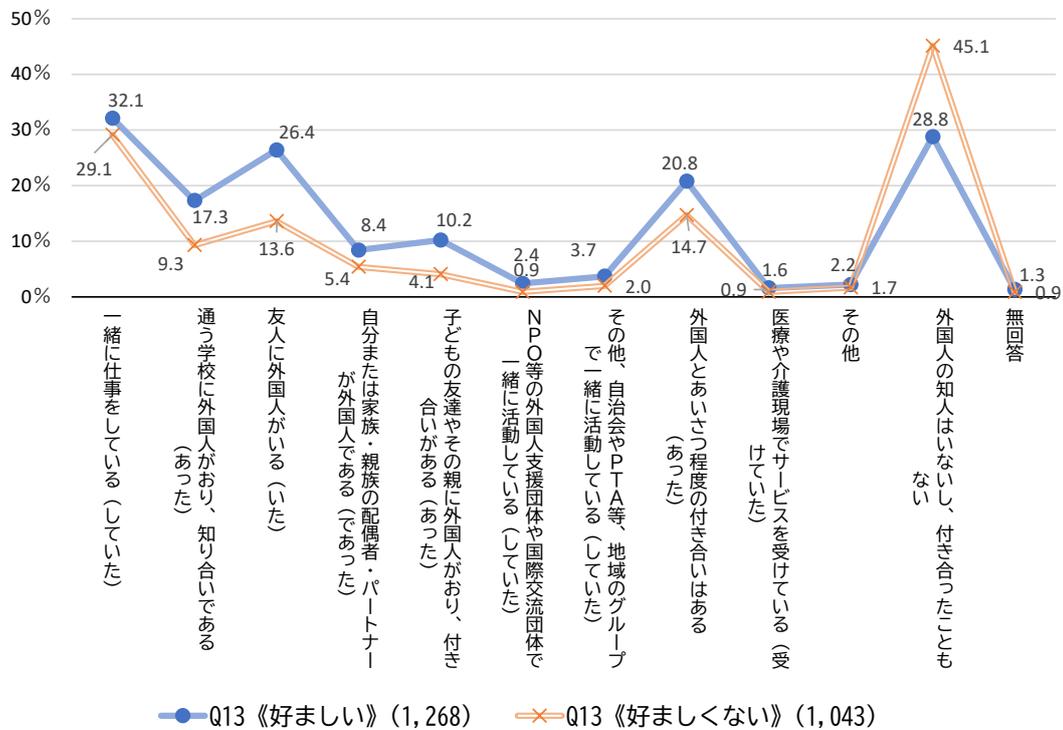


日本人が一番受入れ環境整備が進んでいないと思う部分は「外国人材を受け入れる企業等の環境整備」

2. 「地域社会に外国人が増えることに対する感情」別

Q13（地域社会に外国人が増えることに対する感情）別で、各設問での傾向の違いをみる。

[Q13×Q11（外国人との付き合いの有無）]

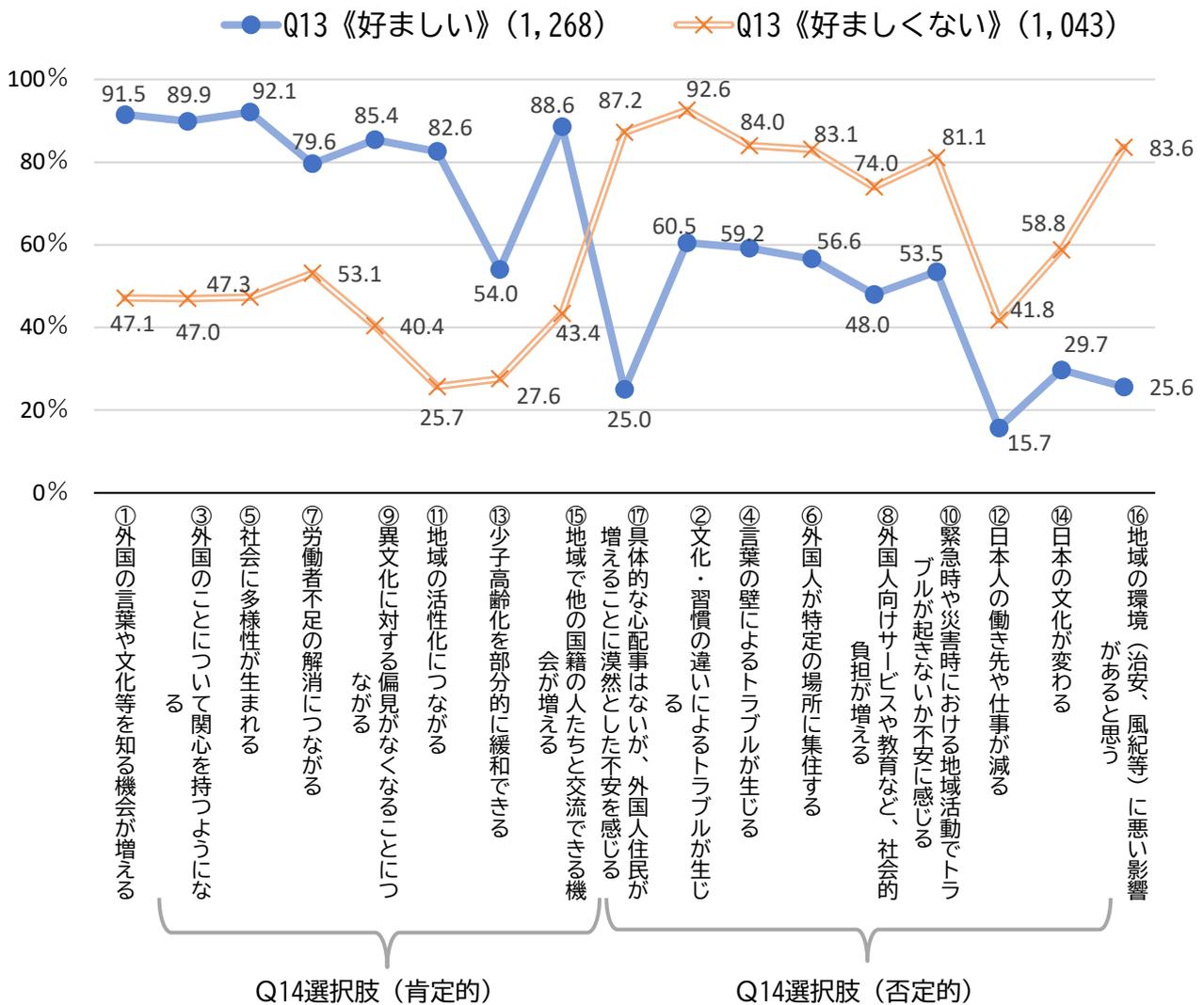


Q11 外国人との付き合いの有無で、地域社会に外国人が増えることが《好ましい》と回答した層が《好ましくない》と回答した層よりも上回ったものでは、「友人に外国人がいる（いた）」が12.8ポイントで最も差が大きく、次いで「通う学校に外国人がおり、知り合いである（あった）」（8.0ポイント差）、「子どもの友達やその親に外国人がおり、付き合いがある（あった）」と「外国人とあいさつ程度の付き合いはある（あった）」（ともに6.1ポイント差）になっている。

一方で、「外国人の知人はいないし、付き合い合ったこともない」は、《好ましくない》が《好ましい》を16.3ポイントの差で上回っている。

[Q13×Q14 (外国人が増加することについての考え)]

<※Q14「そう思う」+「少しそう思う」=《そう思う》をQ13別に分析をした。>

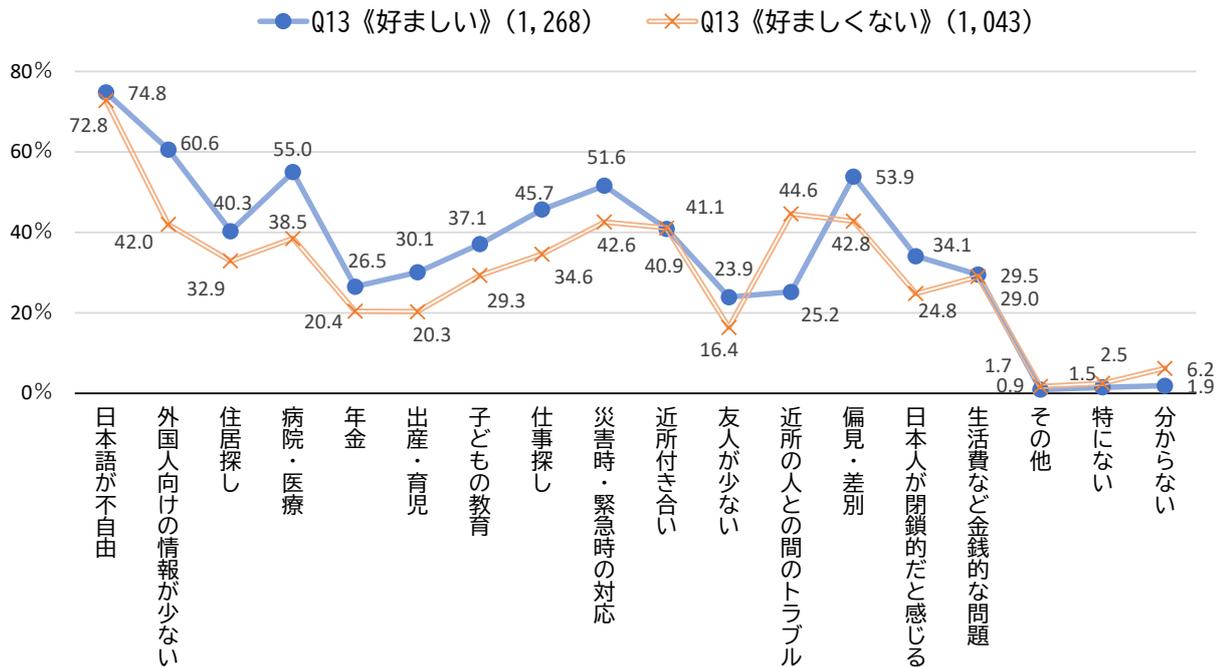


Q14 外国人が増加することについての考えで、地域社会に外国人が増えることが《好ましい》と回答した層は、肯定的な選択肢では高い割合に、一方、否定的な選択肢では低い割合となっている。

特に割合の差の大きかったものでは、《好ましい》が高いものでは「⑪地域の活性化につながる」が56.9ポイント差で最も大きく、次いで「⑮地域で他の国籍の人たちと交流できる機会が増える」が45.2ポイント差、「⑨異文化に対する偏見がなくなることにつながる」が45.0ポイント差になっている。

一方、《好ましくない》が高いものでは、「⑰具体的な心配事はないが、外国人住民が増えることに漠然とした不安を感じる」が62.2ポイント差で最も大きく、次いで「⑯地域の環境(治安、風紀等)に悪い影響があると思う」が58.0ポイント差、「②文化・習慣の違いによるトラブルが生じる」が32.1ポイント差になっている。

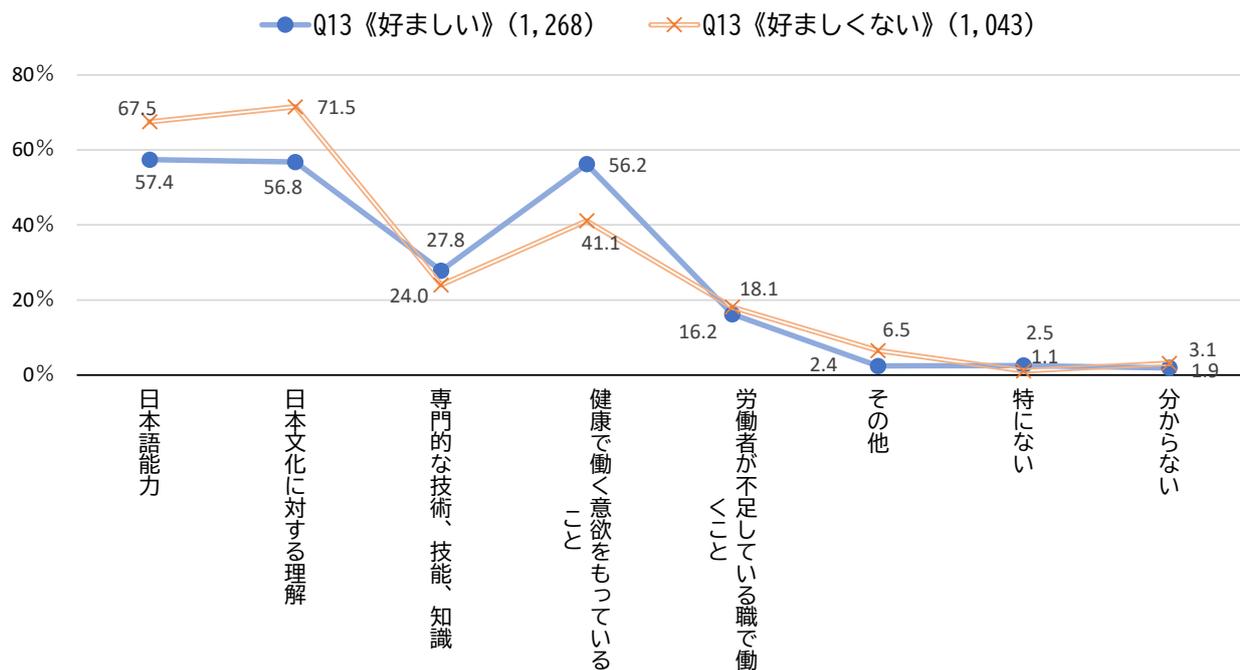
[Q13×Q15 (外国人が困っていると思うこと)]



Q15 外国人が困っていると思うことで、地域社会に外国人が増えることが《好ましい》と回答した層が《好ましくない》と回答した層よりも上回ったものでは、「外国人向けの情報が少ない」が18.6ポイントで最も差が大きく、次いで「病院・医療」(16.5ポイント差)、「仕事探し」と「偏見・差別」(ともに11.1ポイント差)になっている。

一方で、「近所の人との間のトラブル」は、《好ましくない》が《好ましい》を19.4ポイントの差で上回っている。

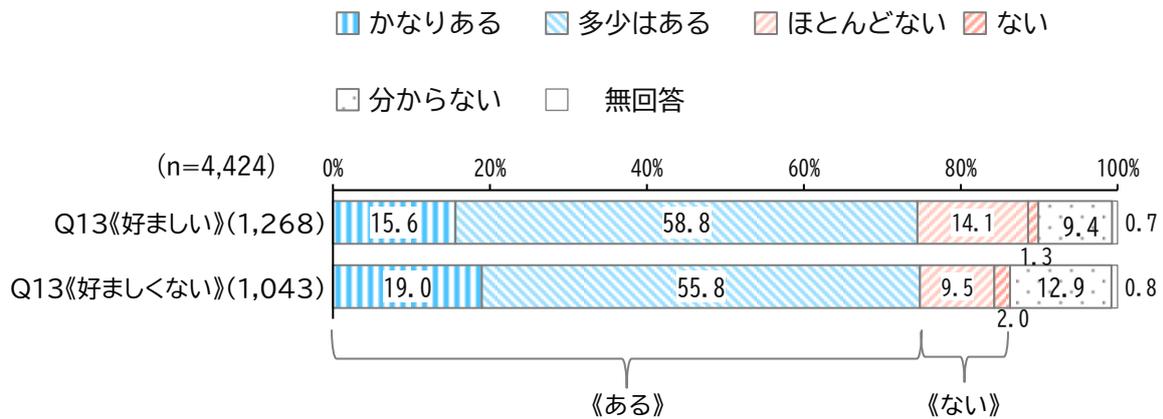
[Q13×Q17 (外国人労働者に求めるもの)]



Q17 外国人労働者に求めるもので、地域社会に外国人が増えることが《好ましい》と回答した層が《好ましくない》と回答した層よりも上回ったものでは、「健康で働く意欲をもっていること」が15.1ポイントで最も差が大きい。

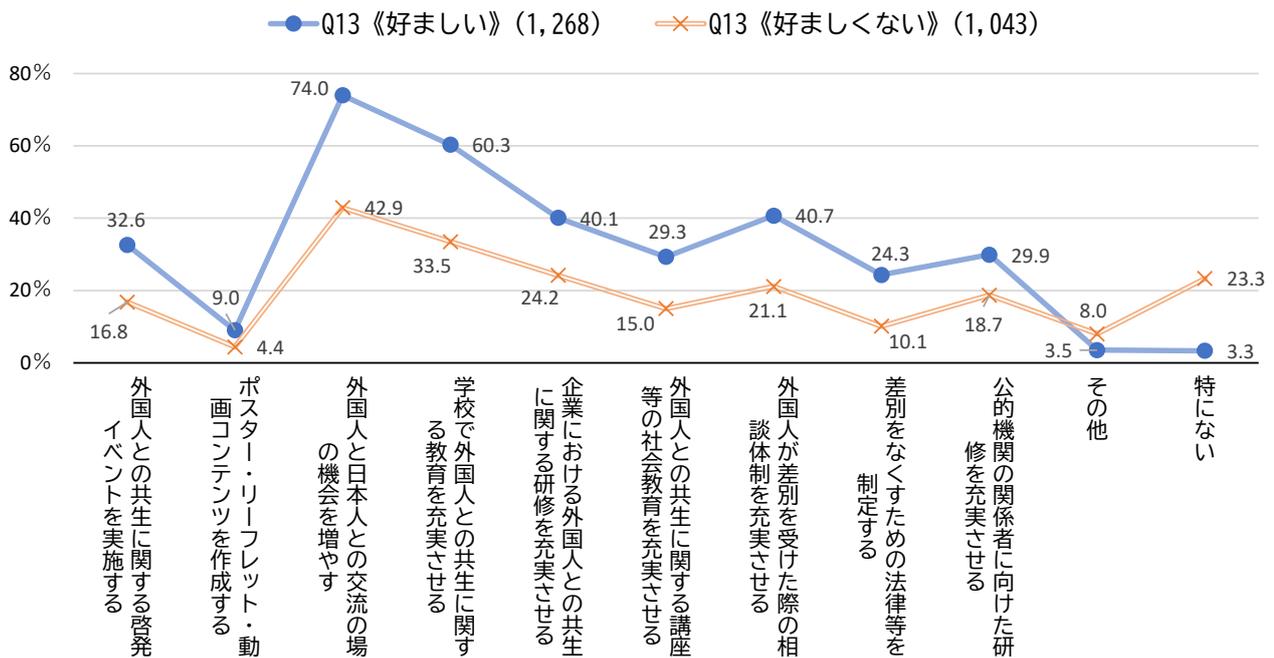
一方で、《好ましくない》が《好ましい》よりも上回ったものでは、「日本文化に対する理解」が14.7ポイント差で最も大きく、次いで「日本語能力」が10.1ポイントの差になっている。

[Q13×Q19 (偏見・差別の有無)]



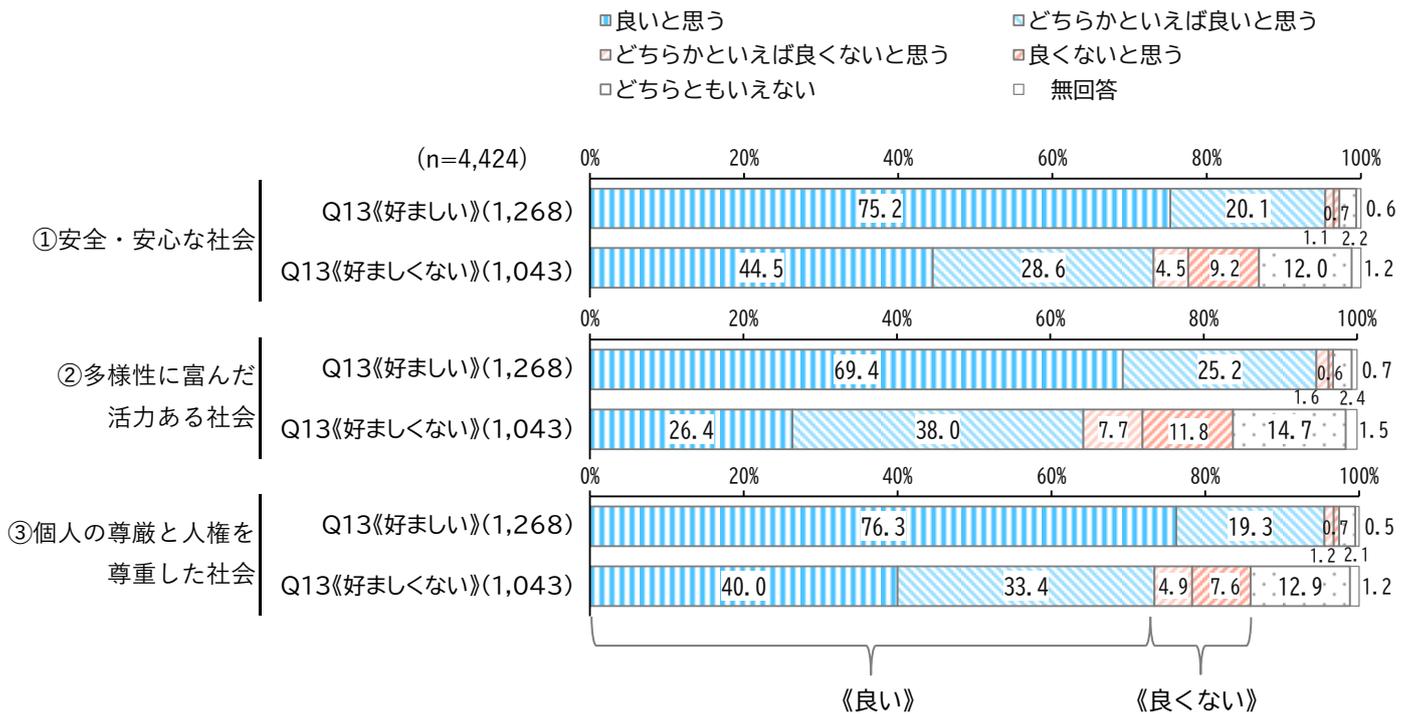
Q19 偏見・差別の有無について、地域社会に外国人が増えることを《好ましい》と回答した層は《ある》(「かなりある」+「多少はある」の合計)が74.4%で、《好ましくない》と回答した層は74.8%となっている。

[Q13×Q20 (偏見や差別をなくすために必要と思う取組等)]



Q20 偏見や差別をなくすために必要と思う取組等で、地域社会に外国人が増えることが《好ましい》と回答した層が《好ましくない》と回答した層よりも上回ったものでは、「外国人と日本人との交流の場の機会を増やす」が31.1ポイントで最も差が大きく、次いで「学校で外国人との共生に関する教育を充実させる」が26.8ポイント差、「外国人が差別を受けた際の相談体制を充実させる」が19.6ポイント差になっている。

〔Q13×Q21（三つのビジョンについて）〕

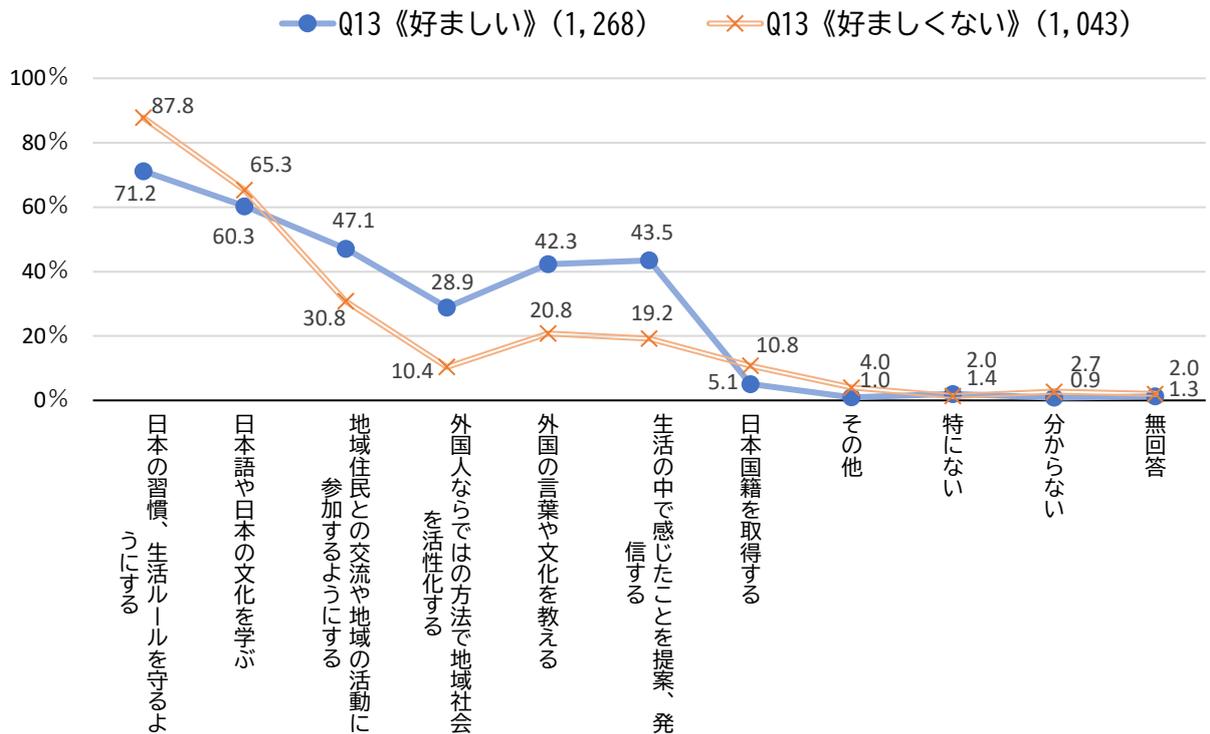


三つのビジョンについて、①安全・安心な社会では、地域社会に外国人が増えるのが《好ましい》層の《良い》は 95.3%、《好ましくない》層の《良い》は 73.1%と、22.2 ポイントの差になっている。

②多様性に富んだ活力ある社会では、地域社会に外国人が増えるのが《好ましい》層の《良い》は 94.6%、《好ましくない》層の《良い》は 64.3%と、30.3 ポイントの差になっている。

③個人の尊厳と人権を尊重した社会では、地域社会に外国人が増えるのが《好ましい》層の《良い》は 95.6%、《好ましくない》層の《良い》は 73.4%と、22.2 ポイントの差になっている。

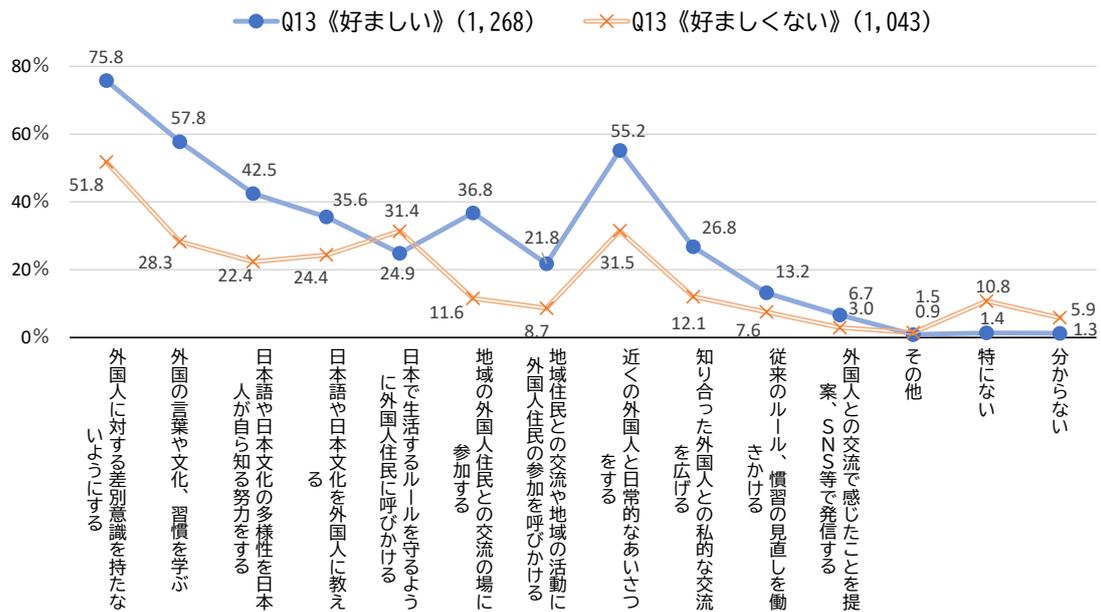
[Q13×Q22（共生社会実現のため外国人にしてほしいこと）]



Q22 共生社会実現のため外国人にしてほしいことで、地域社会に外国人が増えることが《好ましい》と回答した層が《好ましくない》と回答した層よりも上回ったものでは、「生活の中で感じたことを提案、発信する」が 24.3 ポイントで最も差が大きく、次いで「外国の言葉や文化を教える」が 21.5 ポイント差、「外国人ならではの方法で地域社会を活性化させる」18.5 ポイント差になっている。

一方で、《好ましくない》が《好ましい》よりも上回ったものでは、「日本の習慣、生活ルールを守るようにする」が 16.6 ポイント差で最も大きくなっている。

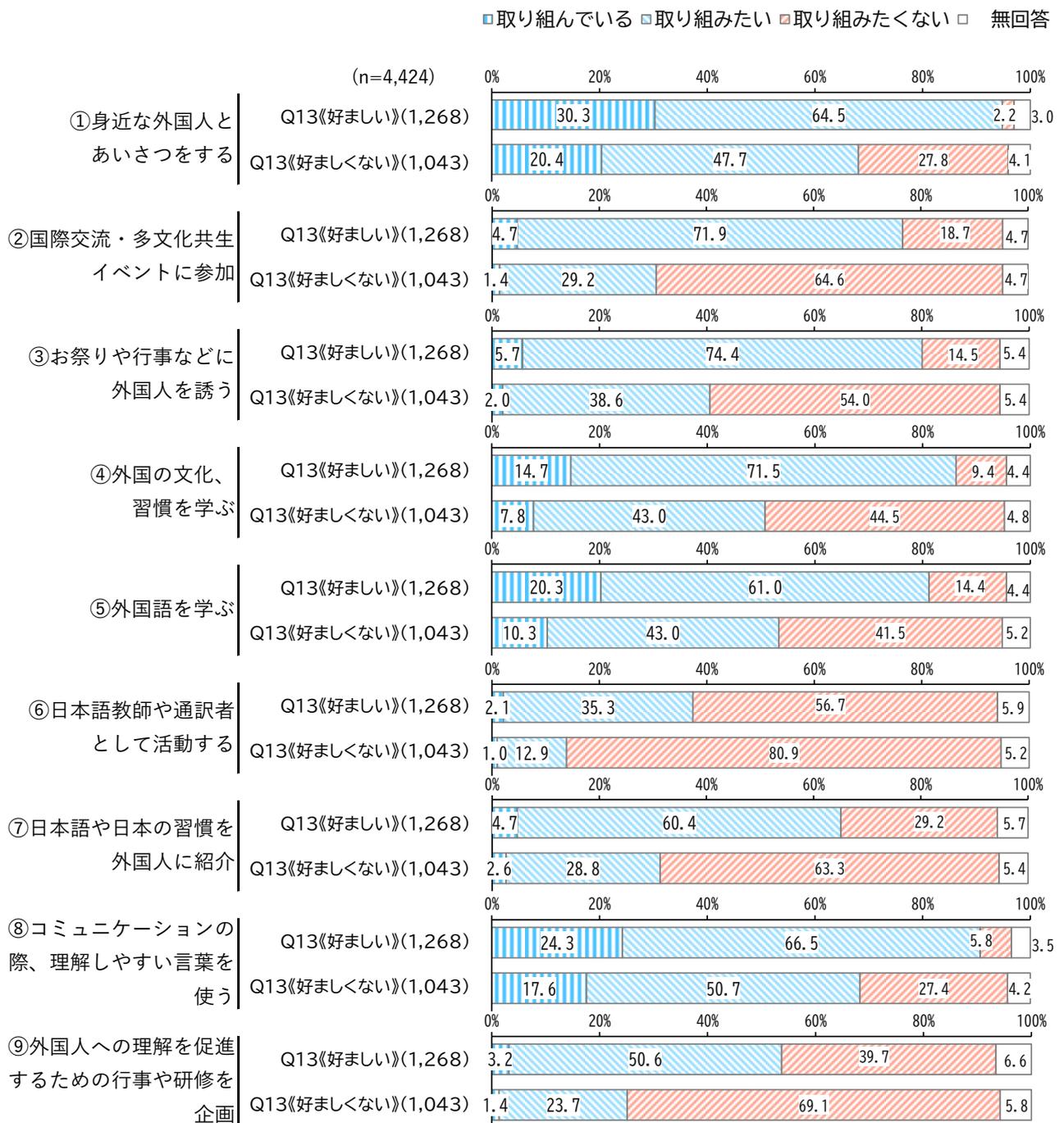
[Q13×Q23（共生社会実現のため自分ができること）]



Q23 共生社会実現のため自分ができることで、地域社会に外国人が増えることが《好ましい》と回答した層が《好ましくない》と回答した層よりも上回ったものでは、「外国の言葉や文化、習慣を学ぶ」が 29.5 ポイントで最も差が大きく、次いで「地域の外国人住民との交流の場に参加する」が 25.2 ポイント差、「外国人に対する差別意識を持たないようにする」24.0 ポイント差になっている。

一方で、《好ましくない》が《好ましい》よりも上回ったものでは、「日本で生活するルールを守るように外国人住民に呼びかける」が 6.5 ポイント差で最も大きくなっている。

[Q13×Q24 (参加できる取組に対する考え)]



Q24 参加できる取組に対する考えについて、地域社会に外国人が増えることに対して《好ましくない》層で、「取り組んでいる」と「取り組みたい」が高いものは、「⑧コミュニケーションの際、理解しやすい言葉を使う」が68.3%で最も高く、次いで「①身近な外国人とあいさつをする」が68.1%、「⑤外国語を学ぶ」が53.3%となっている。

第4章 使用した調査票

外国人との共生に関する意識調査

調査票情報の秘密の保護に万全を期していますので、ありのままをご記入ください。

ご記入にあたってのお願い

- 1 この調査は、原則として、**あて名のご本人**がご回答ください。
- 2 ご回答は、**令和5年10月1日現在**の状況でお願いします。
- 3 ご回答は、選択肢の中から選んで数字に○印をつけてください。(○は一つ)、(あてはまるもの全てに○)などと表示していますので、それに合わせてご回答ください。
- 4 設問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きや矢印に従ってご回答ください。特にことわりのない場合は次の設問に進んでください。
- 5 「その他」を選んだ場合は、() 内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入が終わりましたら

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、
令和5年11月17日(金)までにご投かんください(切手は不要です)。

◆お問い合わせ先：

「外国人との共生に関する意識調査」調査実施事務局
 (調査受託：株式会社サーベイリサーチセンター)

(調査実施者)

法務省出入国在留管理庁 (<https://www.moj.go.jp/isa/>)
 政策課外国人施策推進室
 東京都千代田区霞が関1-1-1

あなたのことについて

Q1 あなたの性別は次のどれですか。(○は1つ)

- | | | |
|------|------|-------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他 |
|------|------|-------|

Q2 あなたの年齢をご記入ください。(右詰めで記入をお願いします。)

--	--	--	--

 歳

Q3 あなたの職業は次のどれですか。(○は1つ)

- | |
|---------------------------------|
| 1 役員を含む、正規の職員・従業員 |
| 2 期間従業員、契約社員、派遣社員を含む、非正規の職員・従業員 |
| 3 自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主、自由業 |
| 4 家族従業者・家族が営んでいる事業を手伝っている者 |
| 5 主婦・主夫 |
| 6 学生 |
| 7 無職 |
| 8 その他 () |

Q4 あなたが最後に卒業した学校、または現在、在学している学校をお答えください。
(○は1つ)

- | | |
|-------|--------------|
| 1 小学校 | 4 専門学校、高専、短大 |
| 2 中学校 | 5 大学 |
| 3 高校 | 6 大学院 |

Q5 あなたが現在一緒に住んでいる人はどなたですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1 配偶者またはパートナー | 5 友人・知人 |
| 2 子ども | 6 その他 |
| 3 自分または配偶者(パートナー)の親 | 7 いない(一人暮らし) |
| 4 その他の親類 | |

▶ 次ページのQ5-1へ

【Q5で「2 子ども」を選択された方】

Q5-1 お子様（2人以上の方は末子）の年齢はどれにあたりますか。

（○は1つ）

1 6歳未満	4 16歳～18歳
2 6歳～12歳	5 19歳以上
3 13歳～15歳	

Q6 学校以外での外国語の学習経験はありますか。（○は1つ）

1 ある	2 ない
------	------

Q7 あなたはこれまで海外での生活経験（連続して3か月以上）がありますか。（○は1つ）

1 ある	2 ない
------	------

Q8 あなたは外国にルーツを持つ方※に該当しますか。（○は1つ）

※祖父母、父母、自分自身のいずれかが、海外出身の方

1 はい	2 いいえ	3 分からない
------	-------	---------

Q9 あなたは「やさしい日本語」※を知っていますか。（○は1つ）

※難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語のことです（例：高台へ避難して下さい→「高い場所へ逃げてください」）

1 知っている	2 知らない
---------	--------

Q10 あなたは普段ニュースなどの情報を何から得ていますか。（最も利用しているもの1つに○）

1 テレビ	6 SNS
2 ラジオ	7 動画配信サイト
3 新聞（電子版を含む）	8 家族や友人から
4 雑誌	9 特にない
5 ウェブサイト	

Q13 あなたのお住まいの地域に外国人が増えることについてどう思いますか。

(○は1つ)

1	好ましい
2	どちらかといえば好ましい
3	どちらかといえば好ましくない
4	好ましくない
5	どちらともいえない

Q14 お住まいの地域に外国人が増えることへの影響について、どう思いますか。以下の考え方それぞれについてお答えください。(それぞれ1つに○)

	そう思う	少しそう思う	あまり思わない	そう思わない	どちらともいえない
① 外国の言葉や文化等を知る機会が増える	1	2	3	4	5
② 文化・習慣の違いによるトラブルが生じる	1	2	3	4	5
③ 外国のことについて関心を持つようになる	1	2	3	4	5
④ 言葉の壁によるトラブルが生じる	1	2	3	4	5
⑤ 社会に多様性が生まれる	1	2	3	4	5
⑥ 外国人が特定の場所に集住する	1	2	3	4	5
⑦ 労働者不足の解消につながる	1	2	3	4	5
⑧ 外国人向けサービス（多言語対応等）や教育など、社会的負担が増える	1	2	3	4	5
⑨ 異文化に対する偏見がなくなるにつながる	1	2	3	4	5

Q16 あなたは最近、身の回りに働いている外国人が増加してきていると感じますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|---------|
| 1 大いに感じる | 3 あまり感じない | 5 分からない |
| 2 ある程度感じる | 4 ほとんど感じない | |

Q17 外国人労働者を受け入れるにあたって、外国人労働者に求めるものとして重要なものは何だと思えますか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 日本語能力 | 5 労働者が不足している職で働くこと |
| 2 日本文化に対する理解 | 6 その他 () |
| 3 専門的な技術、技能、知識 | 7 特にない |
| 4 健康で働く意欲をもっていること | 8 分からない |

Q18 あなたが誰かを「外国人」と認識する場合、重視するのはどの点ですか。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 国籍 | 6 見た目、身体的特徴 |
| 2 日本語能力のつたなさ | 7 出身国 |
| 3 日本社会、文化への理解不足 | 8 学歴、職業 |
| 4 日本での居住歴 | 9 その他 () |
| 5 血統 | |

偏見・差別について

Q19 日本人から外国人に対する偏見や差別はあると思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|----------|---------|
| 1 かなりある | 3 ほとんどない | 5 分からない |
| 2 多少はある | 4 ない | |

→【Q19で「1 かなりある」「2 多少はある」のいずれかを選択された方】

Q19-1 偏見や差別はどのような場合にあると思いますか。
(あてはまるもの全てに○)

- | |
|------------------------------|
| 1 公的機関（市区町村・都道府県・国）などの手続きのとき |
| 2 日本人の友人との付き合いのとき |
| 3 近所の人との付き合いのとき |
| 4 家を探すとき |
| 5 結婚するとき |
| 6 電車・バス等に乗っているとき |
| 7 出産・育児のとき |
| 8 学校などの教育の場 |
| 9 仕事を探すとき |
| 10 仕事をしているとき |
| 11 携帯電話を契約するとき |
| 12 銀行口座を開設するとき |
| 13 クレジットカードを申し込むとき |
| 14 SNS等のインターネット上の書き込み等 |
| 15 街頭デモや集会 |
| 16 その他（) |
| 17 分からない |

Q20 あなたは、偏見や差別をなくし、人権を守るためにどのような取組や活動があるとよいと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1 外国人との共生に関する啓発イベントを実施する |
| 2 ポスター・リーフレット・動画コンテンツを作成する |
| 3 外国人と日本人との交流の場の機会を増やす |
| 4 学校で外国人との共生に関する教育を充実させる |
| 5 企業における外国人との共生に関する研修を充実させる |
| 6 外国人との共生に関する講座等の社会教育を充実させる |
| 7 外国人が差別を受けた際の相談体制を充実させる |
| 8 差別をなくすための法律等を制定する |
| 9 公的機関の関係者に向けた研修を充実させる |
| 10 その他（) |
| 11 特にない |

外国人との共生社会について

国は、外国人との共生社会の実現に向けて、目指すべき外国人との共生社会のビジョン（三つのビジョン）を示しています。

目指すべき外国人との共生社会（三つのビジョン）

安全・安心な社会

これからの日本社会を共につくる一員として外国人が包摂され、全ての人々が安全に安心して暮らすことができる社会

多様性に富んだ活力ある社会

様々な背景を持つ外国人を含む全ての人々が社会に参加し、能力を最大限に発揮できる、多様性に富んだ活力ある社会

個人の尊厳と人権を尊重した社会

外国人を含め、全ての人がお互いに個人の尊厳と人権を尊重し、差別や偏見なく暮らすことができる社会

Q21 この三つのビジョンについて、あなたはどのように思いますか（それぞれ1つに○）

	良いと思う	どちらかといえば	どちらかといえ	良くないと思う	どちらともいえない
① 安全・安心な社会	1	2	3	4	5
② 多様性に富んだ活力ある社会	1	2	3	4	5
③ 個人の尊厳と人権を尊重した社会	1	2	3	4	5

参考

国では、上記の三つのビジョンを実現するために取り組むべき中長期的な課題として、以下『四つの重点事項』を掲げ、それぞれについて今後5年間で取り組むべき方策を示すロードマップを策定しています。ぜひご参考にどうぞ。

- 1 円滑なコミュニケーションと社会参加のための日本語教育等の取組
- 2 外国人に対する情報発信・外国人向けの相談体制の強化
- 3 ライフステージ・ライフサイクルに応じた支援
- 4 共生社会の基盤整備に向けた取組

◆外国人との共生社会の実現に向けたロードマップ（令和5年度一部変更）
（概要PDF）



○外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策（令和5年度改訂）
（概要PDF）



第4章 使用した調査票

Q22 共生社会実現のため、外国人には何をしてほしいと思いますか。

(あてはまるもの全てに○)

- 1 日本の習慣、生活ルールを守るようにする
- 2 日本語や日本の文化を学ぶ
- 3 地域住民との交流や地域の活動に参加するようにする
- 4 外国人ならではの方法で地域社会を活性化する
- 5 外国の言葉や文化を教える
- 6 生活の中で感じたことを提案、発信する
- 7 日本国籍を取得する
- 8 その他 ()
- 9 特にない
- 10 分からない

Q23 共生社会実現のため、あなた自身ができることは何だと思いますか。

(あてはまるもの全てに○)

- 1 外国人に対する差別意識を持たないようにする
- 2 外国の言葉や文化、習慣を学ぶ
- 3 日本語や日本文化の多様性を日本人が自ら知る努力をする
- 4 日本語や日本文化を外国人に教える
- 5 日本で生活するルールを守るように外国人住民に呼びかける
- 6 地域の外国人住民との交流の場に参加する
- 7 地域住民との交流や地域の活動に外国人住民の参加を呼びかける
- 8 近くの外国人と日常的なあいさつをする
- 9 知り合った外国人との私的な交流を広げる
- 10 従来ルール、慣習の見直しを働きかける
- 11 外国人との交流で感じたことを提案、SNS等で発信する
- 12 その他 ()
- 13 特にない
- 14 分からない

Q24 あなたが参加できる取組として、以下の取組に対するあなたの考えと、その課題を選んでください。

(1)現状（それぞれ1つに○）／

(2)取り組む上での課題（あてはまるもの全てに○）

	(1)現状 (○は1つ)			→	(2)取り組む上での課題 (あてはまるもの全てに○)					
	取り組んでいる	取り組みたい	取り組みたくない		仲間がいない	場がない	お金がない	時間がない	その他	特にない
① 日常から、身近な外国人とあいさつをするなど言葉を交わす	1	2	3	→	1	2	3	4	5	6
② 外国人との交流会などの国際交流・多文化共生イベントに参加する	1	2	3	→	1	2	3	4	5	6
③ 地域で行われるお祭りや行事などに外国人を誘う	1	2	3	→	1	2	3	4	5	6
④ 外国の文化、習慣を学ぶ	1	2	3	→	1	2	3	4	5	6
⑤ 外国語を学ぶ	1	2	3	→	1	2	3	4	5	6
⑥ 日本語教師や通訳者として活動する	1	2	3	→	1	2	3	4	5	6
⑦ 日本語や日本の習慣を外国人に紹介する	1	2	3	→	1	2	3	4	5	6
⑧ 外国人とコミュニケーションをとる際、「やさしい日本語」などの相手が理解しやすい言葉を使うよう心掛ける	1	2	3	→	1	2	3	4	5	6
⑨ 職場などで外国人への理解を促進するための行事や研修を企画する	1	2	3	→	1	2	3	4	5	6

Q25 日本の外国人を受け入れる環境整備の現状をどのように考えますか。(○は1つ)

1 進んでいる	3 あまり進んでいない	5 分からない
2 ある程度進んでいる	4 進んでいない	

↓
【Q25で「3 あまり進んでいない」「4 進んでいない」を選択された方】

Q25-1 どのような部分が進んでいないと考えますか。

(あてはまるもの全てに○)

1 外国人の子どもの就学支援
2 外国人留学生への支援
3 外国人材を受け入れる企業等の環境整備
4 外国人に向けた社会保障制度（年金・医療・介護等）の制度周知
5 地域社会における日本語教育、通訳の配置、外国人向け相談窓口などの支援体制
6 外国人との共生社会の実現に向けた意識
7 外国人との共生社会の実現に向けた法整備
8 その他（)
9 分からない

Q26 最後に、本調査に関して何かご意見があれば自由にお書きください。

調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

記入漏れなどがないかを改めてご確認ください、

同封の返信用封筒にて、**令和5年11月17日（金）**までにご投かんください。(切手は不要です。)

